

處置等ヲ掌ルモノトス

十九 看護卒ハ患者ヲ看護スルニ當リテハ慈愛懇切ヲ旨トシ各患者ノ病性及其ノ容態ヲ知悉シ殊ニ重病者又ハ精神病者ニ對シテハ常ニ周密ノ注意ヲ以テ之カ看護ニ從事スルヲ要ス

二十 看護長又ハ看護卒ハ看護日誌ニ必要ノ記載ヲ爲シ毎日定時診療前之ヲ診療主任又ハ病室附軍醫ニ差出スモノトス

第三章 陸軍ノ戰時勤務

第一 戰時衛生機關

一 陸軍ノ戰時衛生機關ハ平時ニ比シテ著シク増加ス即チ大本營ニ野戰衛生長官部、野戰軍ニ軍軍醫部、師團軍醫部、衛生

隊、野戰病院、兵站軍醫部、兵站病院、衛生豫備廠、患者輸送部、守備軍ニ要塞軍醫部、要塞衛生隊、要塞病院(對馬守備隊病院)、留守部隊ニ留守師團軍醫部、豫備病院等ヲ置カレ野戰、守備、留守各部隊ニ衛生部員ヲ配屬シ場合ニ依リ戰地定立病院、舍營病院、患者療養所等ヲ開設セラレ又患者輸送ノ爲病院列車、病院船等ヲ置カル

二 野戰衛生長官部ハ大本營ニ在リテ兵站總監ニ隸シ野戰衛生事務ヲ統理シ其ノ長官ハ日本赤十字社救護員ノ使用ニ關シ救護理事首長ニ命令ヲ與フル權ヲ有ス

三 軍軍醫部ハ軍ノ衛生事務ヲ掌理シ其ノ衛生勤務ヲ指揮監督ス若野戰衛生長官部ト連絡ヲ絶チタルトキハ軍軍醫部長ハ其ノ長

- 官ノ職務ヲ攝行スルモノトス
- 四 師團軍醫部ハ師團ノ衛生事務ヲ掌理シ其ノ衛生勤務ヲ指揮監督スルコト平時ニ異ナラサルモ戰時ニ在リテハ軍醫部長ハ猶師團ノ作戰計畫其ノ他ノ關係ニ伴ヒ適當ニ任務ヲ遂行スルヲ要スルモノトス
- 五 衛生隊ハ本部及擔架中隊ヨリ成リ戰線ノ後方ニ繙帶所ヲ開設シ傷者ヲ收療シテ速ニ後送スルヲ以テ任トシ其ノ動作ハ師團長ノ命令ニ依リ衛生勤務ニ關シテハ師團軍醫部長ノ指揮ヲ受ク
- 六 野戰病院ハ繙帶所及戰線ヨリ傷者ヲ收容シ必要ノ治療ヲ加ヘタル後後送スルヲ以テ主要ナル任務トス其ノ運動及開閉ハ師團長ノ命令ニ依リ衛生勤務ニ關シテハ師團軍醫部長ノ指揮ヲ受クルコト衛生隊ニ同シ

- 七 戰地ニ於テ部隊ノ駐留久シキニ瀕ルトキハ其ノ患者ヲ收療スル爲野戰病院ノ職員材料ヲ以テ舍營病院ヲ開設ス舍營病院ハ師團前進ニ際シテハ速ニ兵站部ノ職員ト交代スルモノトス
- 八 兵站軍醫部ハ兵站管區内ノ衛生事務ヲ掌理シ其ノ管區内ニ於テ勤務ニ服スル衛生員ハ其ノ常屬ト否トニ拘ラス凡テ之ヲ指揮監督シ又前方ノ狀況ニ注意シ衛生豫備員ヲシテ成ルヘク速ニ野戰病院ト交代セシメ其ノ他患者輸送ノ方法及衛生材料補填ノ方法ヲ完カラシムル等重要ナル任務ヲ有ス
- 九 衛生豫備員ハ兵站軍醫部長ノ指揮下ニアリテ豫備員長以下若干名ノ衛生部員ヨリ成リ野戰病院前進ノ際之ト交代シテ戰地定立病院ヲ開設スルヲ以テ任トス
- 十 戰地定立病院ハ野戰病院ヲ閉鎖シ衛生豫備員之ニ代リタル時

ヲ以テ成立シ其ノ地名ヲ冠シテ某地定立病院ト稱ス戰地定立病院ハ患者ヲ轉送シ終ル迄其ノ地ニ於テ業務ヲ繼續スルモノトス

十一 兵站病院ハ兵站地ヲ通過スル部隊及兵站管区内ニ在ル部隊ノ患者竝後送患者ノ輸送ニ堪ヘサル者ヲ收療スル爲ニ設クルモノニシテ其ノ職員ハ兵站司令部附衛生部員ヲ充用ス又衛生豫備員及患者輸送部ノ職員ヲ以テ其ノ勤務ヲ幫助セシムルコトアリ兵站病院ノ衛生勤務ニ關シテハ兵站軍醫部長之ヲ指揮シ軍紀及給與ニ關シテハ兵站司令官之ヲ指揮ス

十二 兵站管区内ニハ兵站病院ノ外兵站地ヲ通過スル患者ヲ保護スル爲兵站司令部ニ於テ患者療養所ヲ設クルコトアリ其ノ職員ハ兵站司令部附ノモノヲ以テ之ニ充ツルヲ例トシ場合ニ依リ兵站病院ノ附屬トシテ之ヲ設クルコトアリ

十三 衛生豫備廠ハ作戰軍及兵站管区内ノ各部隊ニ衛生材料及患者用被服ヲ配送スルヲ以テ其ノ任トス

十四 患者輸送部ハ兵站管区内ニ於ケル患者ヲ後送スルヲ以テ其ノ任トシ業務執行ノ爲患者集合所ヲ開設ス

患者集合所ニハ清涼飲料、興奮藥及繃帶材料ヲ備ヘ要スレハ食餌、寢具ヲ給シ煖ヲ與フルノ用意ヲ整フルモノトス而シテ前方ヨリ運搬シ來リタル患者ヲ診査シ相當ノ手當ヲナシ引續キ輸送ニ堪フル者ハ後送シ重症者ハ兵站病院ニ移スモノトス

十五 野戰隊附衛生部ハ軍醫、看護長、看護卒ヨリ成リ其ノ他歩兵隊及砲兵隊ニハ擔架術ノ教育ヲ受ケタル兵卒アリ必要ニ應シ傷者ノ救護及運搬ニ從事セシメ歩兵隊ニ於テハ其ノ間之ヲ補助擔架卒ト稱ス然レトモ補助擔架卒ハ赤十字條約ノ保護ヲ受クルノ權

ヲ有セス隊附衛生部員行軍及駐軍中ノ衛生勤務ハ概ネ平時ニ異ナルコトナキモ戰鬪ニ際シテハ戰線ニ於テハ傷者ヲ集拾救護シ場合ニ依リ假繙帶所ヲ設クルコトアリ

十六 要塞軍醫部ハ要塞ノ衛生事務ヲ掌理シ戒嚴ノ布告若ハ宣告ノ日ヨリ要塞司令官ノ命令ヲ以テ地方衛生事務ヲ監督ス軍醫部長ハ通例要塞病院長ノ兼務トス

十七 要塞衛生隊ハ戰線ノ背後ニ繙帶所ヲ開設シ傷者ヲ收療シテ成ルヘク速ニ要塞病院ニ後送スルヲ任トス

十八 要塞病院ハ其ノ地所在ノ衛戍病院ヲ以テ之ニ充テ某地要塞病院ト稱ス要塞地ニ於ケル患者ヲ收療シ其ノ患者中重症若ハ當分戰役ニ堪ヘサル者ハ最寄豫備病院ニ轉送スルモノトス
對島守備隊病院ニ關スル規定ハ要塞病院ニ異ナルコトナシ

十九 留守師團軍醫部ハ師管内各部隊ノ衛生事務ヲ掌理シ其ノ衛生勤務ヲ指揮監督ス

二十 豫備病院ハ其ノ地所在ノ衛戍病院ヲ以テ之ニ充テ某地豫備病院ト稱シ場合ニヨリテハ衛戍病院ヲ併置スルコトアリ豫備病院ハ戰地ヨリ還送ノ患者及當該衛戍諸部隊ノ患者ヲ收療スル所トシ猶衛生部下士以下ノ教育及所在地並附近部隊ノ衛生材料補填等ヲ掌ル

二十一 守備及留守部隊附衛生部ハ概ネ平時ノ如ク軍醫看護長看護卒ヨリ成リ部隊ノ保健患者ノ治療下士以下ノ教育及之ニ關聯スル事務ヲ執行ス

第一 戰時衛生勤務ノ大要

其 一 入院患者ノ取扱

一 患者ノ入退

- 一 病院ニハ患者ノ入退事務ヲ取扱ハシムル爲發著部ヲ置ク
- 二 發著部ハ内地戰地患者ヲ區分シ本院又ハ分院ニ收容シ附屬ノ書類及物品ヲ受領シ病床日誌ニ照シテ入院患者名簿ニ其ノ隊號、等級、氏名ヲ記入シ傷病ノ種類、輕重ニ從ヒ重傷者ヨリ漸次之ヲ病室ニ配當スルモノトス
- 三 發著部ニ於テハ還送患者ニ在リテハ患者ノ携帯品ヲ患者附托品表ニ登載若ハ照合シタル後之ニ隊號、等級、氏名及入院番號ヲ記セル票札ヲ附シ經理官ニ交付シ患者ノ着用セル被服ニ

相當セル品種、員數ヲ護送醫員ニ交付シ又重傷患者ノ所持セル金錢貴重品等ハ成ルヘク患者ノ面前ニ於テ品種、員數ヲ點檢シ金錢貴重品品目表ヲ添ヘテ經理官ニ交付シ確實ニ保管セシメ衛戍地患者ニ在リテハ平時ト異ナルコトナシ

- 四 戰線ノ附近ニ於テハ患者入院スルニ當リ武器、背囊等ヲ携帯スル者アリ此ノ如キ患者ニシテ急速治癒ノ見込ナキ者アルトキハ之ニ目錄ヲ添ヘ最寄ノ兵站司令部ニ送付シテ受領證ヲ受ケ若彈藥ヲ携帯スルトキハ入院後速ニ同司令部ニ之ヲ送付スルモノトス

- 五 治癒退院者アルトキハ病室ヨリ發著部ニ通報スルモノトス

此ノ通報ヲ受ケタルトキハ發著部ニ於テ入院患者名簿ニ要點ヲ記入シ退院券ヲ交付シ患者附托品表又ハ金錢貴重品品目表ニ照シテ其ノ物品ヲ引渡シ所屬部隊又ハ時ノ情況ニ依リ戰地ニ在リテハ最寄ノ兵站司令部ニ到ラシムルモノトス

六 戰地入院ノ途上ニ於テ死亡シタル者ノ遺骸ノ處置ハ經理官ノ任務ナルモ死亡證書ハ發著部ニ於テ調製シ病院長ノ署名捺印ヲ求ムルモノトス

七 戰地病院ニ於テ患者ヲ收容スルトキハ病室ニ於テハ病床日誌ニ依リ傷病名、隊號、等級、氏名ヲ適宜名簿ニ記入シ病衣ヲ著用セシメ其ノ病床ニハ病床票ヲ掲ケ患者ノ被服ハ之ヲ束ネ

テ票札ヲ附シ發著部ニ送付ス但シ戰線附近ノ病院ニ於ケル患者ニハ成ルヘク軍衣袴ヲ其ノ儘著用セシムルモノトス

八 患者病床ニ就キタルトキハ主任軍醫之ヲ診斷シ病床日誌及處方録ニ要件ヲ記入シ處方録ハ藥室ニ送付シ食事ノ種類ハ炊事掛ニ通報ス若病名ノ決定又ハ變化ヲ爲シタルトキハ之ヲ發著部ニ通報スルモノトス

九 治癒退院又ハ轉送患者アルトキハ主任軍醫其ノ名簿ヲ作り(轉送患者ニ在リテハ將校下士卒傷病及輕重ヲ區別シ)病院長ニ提出シ其ノ點檢ヲ經テ發著部ニ移シ病床日誌及處方録ノ末尾ニ治癒又ハ轉送ノ年月日ヲ記入シ署名捺印シテ發著部ニ送

付スルモノトス内地豫備病院等ニ於テ本院分院間又ハ各分院間ニ轉送スルトキモ之ニ準シ取扱フモノトス

十 患者死亡シタルトキハ速ニ遺骸ヲ屍室ニ移シテ監守者ヲ附シ之ヲ發著部ニ通報ス而シテ主任軍醫死亡證書ヲ作り病院長ノ審査捺印ヲ求メ病床日誌、處方録ハ其ノ末尾ニ死亡ノ原因、時刻ヲ記入シ死亡證書ノ正本ト共ニ發著部ニ移スモノトス

十一 病室ノ衛生、取締、火災ノ豫防等ニ關シテハ病院長其ノ守則ヲ設ケ職員及患者ヲシテ恪守セシムルヲ規定トス

二 患者ノ食餌

一 戰地患者ノ食餌ハ常食、粥食、卵菜ノ三種ニ區別スルモ其ノ

病況ニ依リ他ノ食餌ヲ給スルコトヲ得ルモ内地豫備病院等ニ在リテハ平時ト異ナルコトナシ

二 病室附看護長ハ處方録ニ依リ毎日晝食ヨリ翌朝マテノ食數及種類ヲ食需傳票ニ記入シ之ヲ炊事掛ニ移シ配食ノ時刻ニ看護卒ヲシテ受領分配セシメ戰地等ニ於テ食器ノ備付ナキ所ニ於テハ患者ノ携帯スル飯盒ヲ使用スルモノトス

三 病院ニ於テ俄ニ多數ノ入院患者アルトキハ發著部ニ於テ直ニ所要食餌ノ概數ヲ炊事掛ニ通報シテ速ニ之ヲ攝ラシメ戰地ニ於テ來院即時他ニ轉送スル場合ニ在リテモ亦然リ

其 二 患者ノ俸給、給料

一 入院患者ノ俸給、給料ハ其ノ病院ニ於テ定日ニ給シ退院者ハ退

院ノ前日マテ死亡者ハ死亡當日マテノ分ヲ定日ニ拘ラス支給ス而シテ死亡者ニ在リテハ其ノ金額ヲ死者遺金ニ移シ退院者ニシテ支給シ難キ場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ關係諸部隊ニ通報スルモノトシ入院前支給未済ニ係ルモノハ其ノ事實ノ憑據アルモノニ限り之ヲ支給ス

二 俸給、給料ヲ支給スルトキハ各病室毎ニ連名ノ受領證書ヲ作り其ノ氏名ノ下ニ捺印若ハ拇印セシメ又豫備病院等ニ於ケル退院患者ニシテ旅費ノ支給ヲ要スルモノニハ該病院ニ於テ之ヲ仕拂フモノトス

其 三 患者ノ遺言

一 患者ノ遺言ハ民法ノ規定ニ依リ遺言書ヲ作ルモノトス而シテ遺言書ニハ遺言ノ全文、日附及氏名ヲ自書シ且捺印セシムルモノ

トス

二 遺言書ハ將校、同相當官一人及證人二人以上ノ立會ヲ以テ作り各自之ニ署名捺印スルモノトス但シ將校、同相當官其ノ場所ニ在ラサルトキハ准士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代ヘ又入院中ハ其ノ病院ノ醫師ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノナリ

三 自書シ能ハサル重症患者ニ在リテハ證人二人以上立會ヒ遺言ノ趣旨ヲ筆記シタル後各自署名捺印スルモノトス此ノ遺言書ハ證人又ハ利害關係人ヨリ遲滞ナク軍法會議ノ理事ニ其ノ確認ヲ請求スルモノトス

其 四 死者ノ處置

一 戦地ニ於ケル死者ノ遺骸ハ戦線ニ在リテハ其ノ所屬部隊ニ兵站管區内ノ各病院及患者輸送部等ニ在リテハ最寄兵站司令部ニ

鐵道輸送中ニ在リテハ下車地若ハ三十分以上停車シ且附近ニ兵
 站司令部アル地ノ停車場司令部ニ交付シ船舶輸送中ニ於ケル死
 者ノ遺骸ハ上陸地若ハ寄港地ノ兵站司令部等ニ交付スルモノト
 ス止ヲ得サル場合ニハ水葬ニ付スルコトヲ得ルモノナリ

二 内地豫備病院等ニ於ケル死者ノ遺骸ハ本人所屬ノ部隊若ハ補
 充隊等ニ交付シ其ノ部隊遠隔セルトキ又ハ交付スヘキ部隊ナキ
 トキハ其ノ病院ニ於テ處置シ若ハ遺骸引受願人ニ引渡スモノト
 ス

三 傳染病者ノ遺骸ハ爲シ得ル限り其ノ死亡シタル部隊ニ於テ火
 葬スルモノトシ若他ニ交付スル場合ニ在リテハ其ノ被服ニ昇汞
 水若ハ石炭酸水ヲ撒布スルカ又ハ之ヲ浸シタル布ヲ以テ包ムモ
 ノトス

四 死者ノ携帶品、金錢貴重品、遺言書等ハ患者附托品表、金錢貴重品
 品目表ト共ニ遺骸ヲ交付スヘキ部隊ニ引渡シ遺骸及遺言書ノ受
 領證書ヲ徴シ患者附托品表、金錢貴重品品目表ニハ受領ノ證明ヲ
 受クルモノトシ尙鐵道若ハ船舶輸送中ノ死者ノ遺骸ヲ兵站司令
 部ニ交付スルトキハ死亡證書ヲ添付スルモノトス

其 五 患者ノ還送

一 野戰病院、戰地定立病院及兵站病院等ニ於テハ作戰軍ニ生スル
 患者ヲ收容スヘキ餘地ヲ作り戰地ニ於ケル患者ノ輻輳ヲ避クル
 爲其ノ患者ヲ成ルヘク速ニ豫備病院ニ還送スルヲ主眼トセラル

二 海路ノ便ヲ有スル患者ノ還送ニハ病院船ヲ用キルヲ通則トシ
 又患者船ヲ用キルコトアリ病院船ハ患者ヲ輸送スル爲ニ特別ノ
 設備ヲ施シ所要ノ衛生員及衛生材料ヲ整備シタルモノニシテ外

部ヲ白色ニ塗り幅約一メートル半ノ綠色横筋政府ニ於テ設備シタルモノ又ハ赤色横筋赤十字社ニ於テ設備シタルモノヲ施シ國旗ト共ニ白地赤十字ノ旗ヲ掲ケテ之ヲ標識スルモノトス

三 患者船ハ病院船トハ全ク其ノ性質ヲ異ニシ特別ノ場合ニ於テ運送船ニ所要ノ衛生員及衛生材料ヲ整備シ一時患者用トナシタルモノヲ云ヒ重症患者傳染病患者及精神病者ヲ搭載セサルヲ例トス

四 陸路ノ輸送ハ鐵道ニ依リ病院列車補助病院列車又ハ患者列車ヲ用キルヲ通則トスレトモ鐵道ノ設ナキ所ニ於テハ擔架車馬駕籠其ノ他急造若ハ地方特有ノ運搬具ヲ用キ河川アルトキハ其ノ舟ヲ利用シ戰地ニ在リテハ患者輸送部專ラ之ニ任スト雖兵站路延長シ該部前方ノ業務繁劇ナルトキハ後方ノ輸送ハ兵站司令部

ニ於テ之ヲ擔任スルモノトス

五 病院列車トハ安臥ノ位置ニ於テ輸送スヘキ患者ノ爲ニ特ニ設備シタル列車ニシテ所要ノ衛生員及衛生材料ヲ整備シ各車輛ハ其ノ長側ノ中央ニ徑約一尺ノ白地赤十字ヲ描キ之ヲ標識スルモノトス

六 補助病院列車トハ安臥ヲ要スル患者ヲ輸送スル爲普通ノ列車ニ一時或ル装置ヲ施シタルモノヲ云ヒ患者列車トハ坐位輸送ニ堪フル患者ヲ送ルニ用キル普通ノ列車ニシテ内地ニ在リテ患者少數ナルトキハ普通旅客列車ニ連結輸送スルコトアリ

七 輸送患者中傳染病者アルトキハ傳染病豫防方法ニ從ヒ豫防消毒ヲ嚴行シ其ノ還送ハ病院列車及病院船ニ依ル又精神病者及精神異狀アル患者ハ特ニ周密ノ注意ヲ加ヘ患者及護送者ニ危險ナ

カラシムルコトニ規定セリ

八 俘虜ノ患者ニシテ戰役中恢復ノ見込ナキモノ及軍務ニ堪フヘカラサルモノハ敵國ニ於テハ成ルヘク地方官衙ニ依託スルモノトス

九 患者ヲ轉送スルニハ傷病及輕重ノ區分(輕症トハ徒歩シ得ヘキ者若ハ坐位ニ在リテ車送シ得ヘキ者、重症トハ擔架ヲ用ウヘキ者若ハ臥位ニ在リテ車送シ得ヘキ者ヲ云フ)並其ノ等級、人員等ヲ輸送官衙及收容官衙ニ豫報シ傳染病者ハ其ノ病名及人員ヲ特報ス又船舶輸送ニ在リテハ病院船醫長若ハ首坐ノ軍醫醫員ヨリ適當ノ地ニ於テ收容官衙ニ電報スルモノトス

十 病院列車、病院船等ニ依ラスシテ患者ヲ轉送スルトキハ發送官衙ニ於テ護送者ヲ屬シ戰地ニ在リテハ患者及護送者ノ爲ニ最寄

兵站官衙ヨリ軍用旅券ヲ受領シテ附與ス而シテ患者ト共ニ患者送狀(甲號、乙號ニ別ル)病床日誌、處方録ヲ護送者ニ交付シ且患者ノ携帶品ニハ患者附托品表(甲號、乙號ニ別ル)重症者ニ在リテハ尙金錢貴重品ニ同品目表(甲號、乙號ニ別ル)ヲ添ヘテ之ヲ收容官衙ニ交付セシメ患者送狀、患者附托品表及金錢貴重品品目表ニハ收容官衙ヨリ各乙號ニ受領ノ證明ヲ受ケシムルモノトス

十一 護送者轉送途上ニ於テ止ヲ得ス指定外ノ處ニ患者ヲ附托シタルトキ若ハ途上死亡シタル者アルトキハ患者ニ關シテハ前項ノ手續ヲ爲シ死者ニ關シテハ其ノ遺骸、携帶品ヲ最寄兵站司令部ニ交付シ受領ノ證明ヲ受ケ共ニ患者送狀ノ甲號ニ其ノ事由、狀況ヲ記入シテ歸著後報告シ死者ノ病床日誌ニハ死亡ノ年月日時及地名ヲ記シ處方録ト共ニ携ヘ歸ルモノトス

十二 發送官衙ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ死亡證書ヲ發送シ死亡通報ヲナシ病床日誌處方録ハ當該官衙ニ於テ之ヲ保管ス

十三 病院列車、補助病院列車、患者列車、病院船等ニ於テ患者ヲ還送スルニ當リテハ發送官衙ニ於テ之ヲ停車場司令部若ハ碇泊場司令部ニ通報シ該司令部ヨリ發車、發船時刻ノ通報ヲ受ケ鐵道ニ在リテハ發車時刻一時間前、船舶ニ在リテハ發船約二時間前マテニ停車場若ハ碇泊場ニ到着スル如ク發程セシム而シテ其ノ乗車、乗船地ニ到ルマテノ輸送ハ發送官衙ニ於テ之ヲ擔任シ補助病院列車、患者列車ニハ發送官衙ヨリ護送者ヲ附スルモノトス

十四 病院列車、病院船等ニ於テ還送患者ヲ受領シ若ハ之ヲ交付スルトキ及列車若ハ船内ニ於ケル患者ノ取扱ハ概ネ病院ニ於ケル

入院患者ノ取扱ト同一ナルモ之ヲ受領スルトキハ患者送狀、患者附托品表及金錢貴重品品目表ニ受領ノ證明ヲ與ヘ之ヲ引渡ストキハ更ニ其ノ證明ヲ承クルモノトス

十五 病院列車ニ於ケル食餌ハ列車自ラ之ヲ準備シ其ノ補充ハ兵站司令部ヨリ受クルモノナレトモ補助病院列車及患者列車中ノ食餌ハ線區司令官ノ指定セル給養停車場ニ於テ準備スルモノトス故ニ特種ノ食餌ヲ要スル患者アルトキハ發送官衙ニ於テ其ノ種類、食數ヲ乗車地停車場司令部ニ通告シ該司令部ハ之ヲ給養停車場ニ豫告スルモノトス

十六 病院船、患者船等ニ於ケル食餌ハ何レモ其ノ船内ニ於テ準備スルモノトス

十七 鐵道、船舶輸送ノ患者ハ下車下船地ニ於テ收容官衙ノ受領員

ニ交付シ收容官衙ニ至ル迄ノ患者護送ハ收容官衙ニ於テ之ヲ擔任ス

十八 收容官衙若ハ患者受領員ニ於テ患者ヲ受領シタルトキハ患者送狀、病床日誌、處方録及患者ノ携帶品、患者附托品表、金錢貴重品品目表ヲ點檢照合シ患者送狀、患者附托品表、金錢貴重品品目表ノ各乙號ニ受領ノ證明ヲ爲スモノトス

第四編 人體ノ構造及其ノ作用

第一章 人體外部ノ名稱

人體ヲ大別シテ頭首、軀幹(胴)及四肢ノ三部トス(第六圖)

第一 頭首

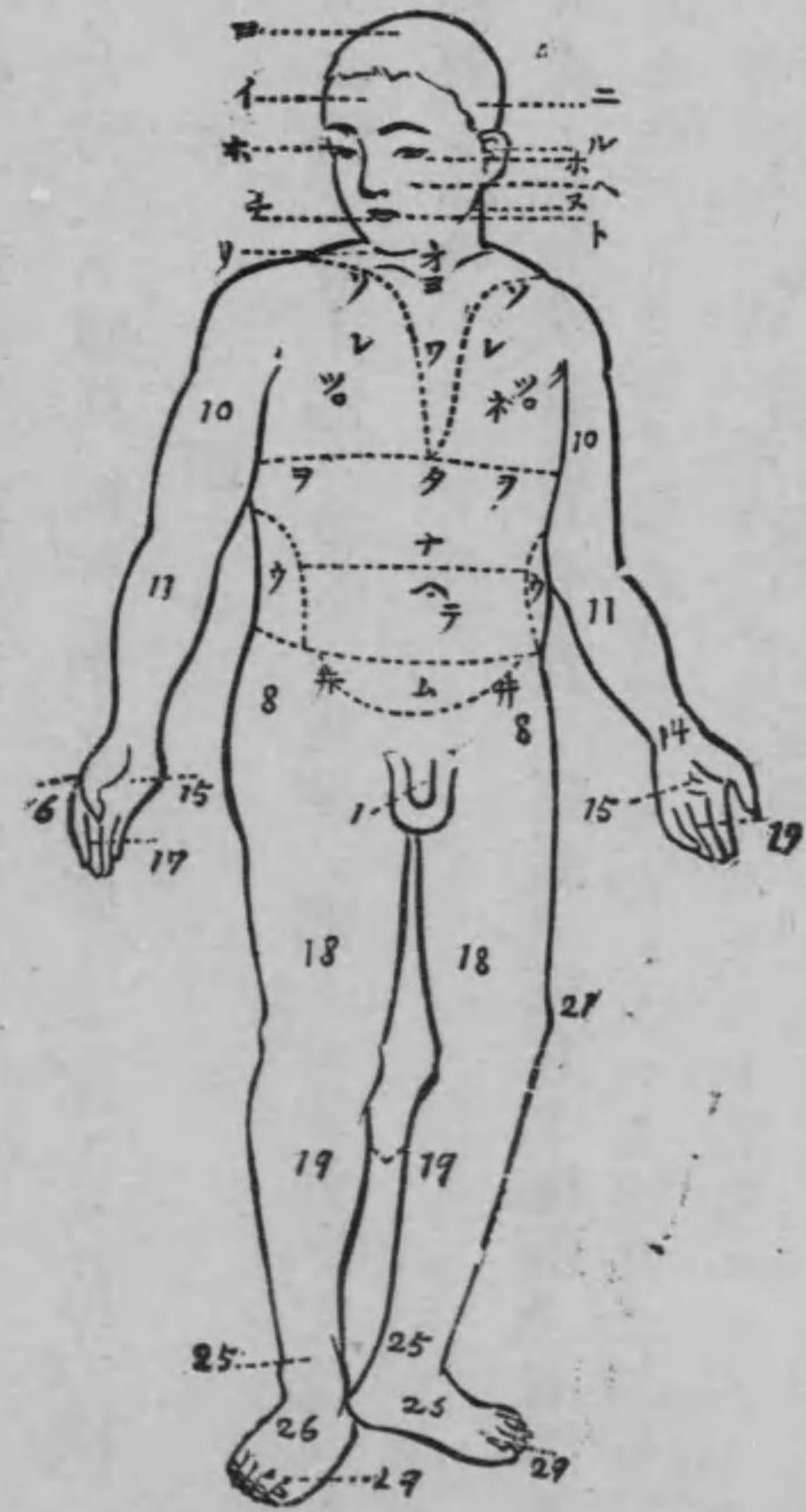
頭首ハ身體ノ最上部ニ位スル貴要ノ部ニシテ分テ二部トス頭蓋及顔面是レナリ

頭蓋ハ其ノ前方ヲ前頭、上方ヲ顛頂、後方ヲ後頭、兩側ヲ顛顛ト云フ

顔面ニハ眼、鼻、頰、唇、頤及顎アリ

頭蓋ト顔面トノ境界ノ兩側ニハ耳翼アリ中央ニ外聽道口ヲ有ス

甲圖六第

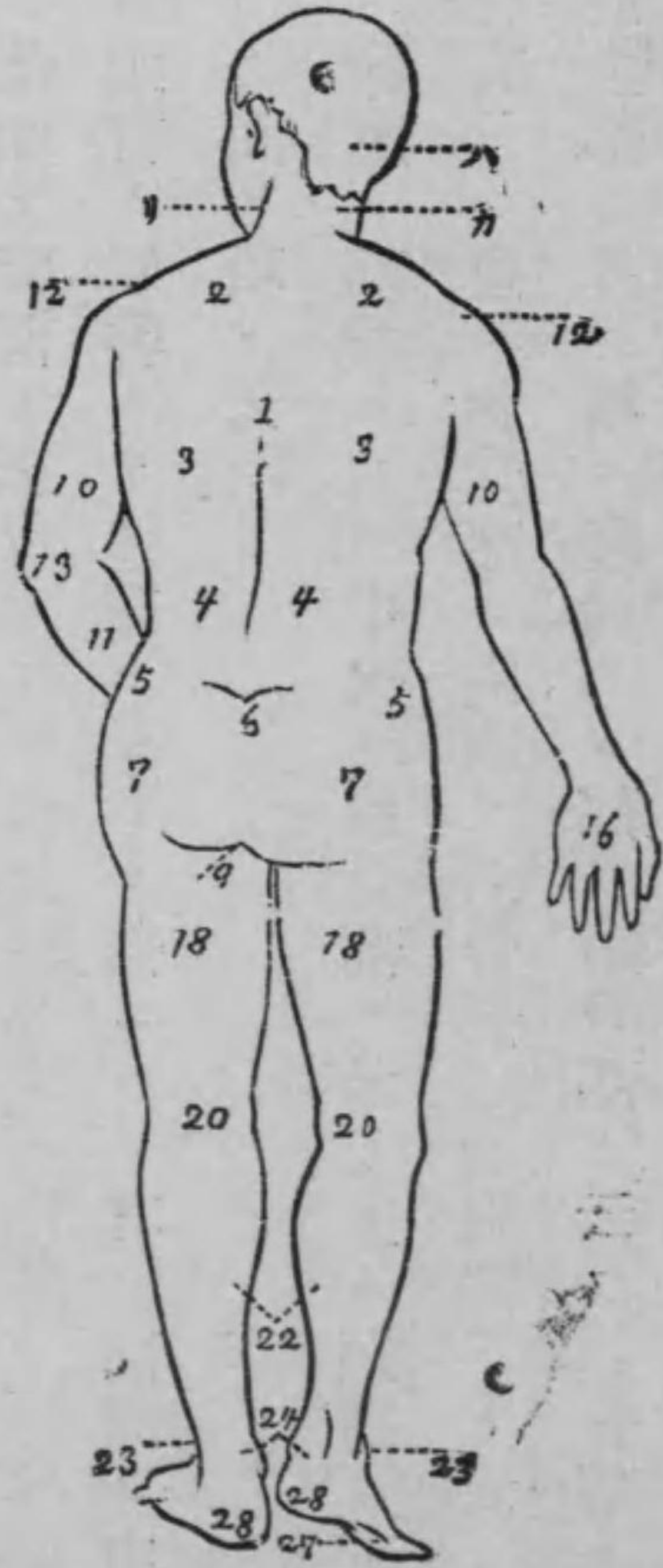


イ前頭
 ロ顙頂
 ハ後頭
 ニ額額
 ホ眼
 ニ額額
 ヌ頭
 ル外聽道口
 ハ鼻

オ前頸
 ヲ鎖骨部
 ウ脇腹
 ヲ鎖骨部
 ツ乳房
 ヲ鼠蹊
 ノ陰部
 ヲ頸窩
 ナ上腹
 チ季肋部
 ヲ側胸部
 ヲ肋骨部
 ヲ下腹

1 脊柱部
 2 肩胛部
 3 肩胛下部
 4 腰部
 5 腸骨部
 6 薦骨部
 7 臀部
 8 跨部
 9 會陰
 10 上膊
 11 前膊
 12 肩頭

乙圖六第



13 肘
 14 手根
 15 手掌
 16 手背
 17 外指
 18 大足
 19 下足
 20 脚
 21 膝蓋部
 22 腓腸
 23 外踝
 24 內踝
 25 足根部
 26 足背
 27 足趾
 28 踵
 29 趾

第二 軀幹

軀幹ヲ大別シテ頸部、胸部、腹部及骨盤ノ四部トス而シテ胸部以下ノ後面ヲ背部ト云フ

頸部ハ頭首ト軀幹トヲ連續セシムル部ニシテ其ノ前面ノ中央ヲ前頸、後面ヲ項ト云フ

胸部ハ胸廓ノ前面ニシテ中央ヲ胸骨部ト云ヒ上ハ頸窩ニ下ハ心窩（胃窩）ニ連ル胸骨部ノ兩側ヲ肋骨部（前胸部）ト云ヒ肋骨部ノ最上部ニ於テ横ニ隆起スル部ヲ鎖骨部ト云フ鎖骨部ノ上下ニハ淺窩アリ上ノ淺窩ヲ鎖骨上窩、下ノ淺窩ヲ鎖骨下窩ト云フ

左右肋骨部ノ中央ニハ乳房アリ左乳房ト胸骨トノ間ニシテ第三

乃至第五肋骨ニ當ル部ヲ心臟部ト云フ而シテ肋骨部ノ最下部ヲ季肋部ト云ヒ胸部ノ兩側ヲ側胸部ト云フ

腹部ハ胸部ノ下方ニシテ其ノ中央ニ臍部（中腹）アリ臍部ノ上ヲ上腹、下ヲ下腹ト云フ而シテ腹部ノ兩側ナル胸部ト跨部トノ間ヲ脇腹（側腹部）ト云ヒ腹部ト大腿トノ界ヲ鼠蹊ト云フ左右鼠蹊ノ相會スル處ハ陰部ニシテ鼠蹊ト大腿トノ間ニアル溝ヲ腹股接際ト云フ

背部ハ其ノ中央ヲ脊柱部ト云ヒ脊柱部ノ上方兩側ヲ肩胛部ト云ヒ其ノ下方ヲ肩胛下部ト云フ肩胛下部ノ下方ニシテ最下肋骨ノ下部ニ當ル處ヲ腰部ト云フ

骨盤ハ腹部ト腰部トノ下ニシテ其ノ兩側ヲ腸骨部ト云ヒ後面ノ中央ヲ薦骨部ト云フ薦骨部ノ下ニシテ兩側ノ太リテ肉多キ處ヲ臀ト云フ臀ハ前方ニ於テ跨部ニ移ル又肛門ト陰部トノ中間ヲ會陰ト云フ

第三 四肢

四肢ヲ大別シテ上肢及下肢トス上肢トハ手臂、下肢トハ足脚ヲ云フ

上肢ヲ分テ上膊、前膊及手ノ三部トス

上膊ハ肩胛關節ニヨリ軀幹ノ上部ニ連ル其ノ接際ノ圓キ處ヲ肩頭ト云ヒ肩頭ノ下面窪ミテ毛アル處ヲ腋下ト云フ

前膊ハ上膊ト手トノ中間ニシテ上膊ニ連ル部ヲ肘、手ニ連ル部ヲ手根(腕)ト云フ

手ハ上肢ノ末端ニシテ手掌、手背ノ二面アリ五指ヲ具フ之ヲ拇指、示指、中指、環指(無名指、食指)及小指(季指)ト云フ

上肢ノ拇指側ヲ橈骨側、(外側)小指側ヲ尺骨側(内側)ト云フ下肢ヲ分テ大腿(上腿)下腿及足ノ三部トス

大腿ハ上ハ跨關節ニヨリテ骨盤ニ連リ下ハ膝關節ニヨリテ下腿ニ連ル此ノ部ヲ膝ト云フ膝ノ前面ノ隆マレル部ヲ膝蓋部ト云ヒ後面ノ窪メル部ヲ膝窩ト云フ

下腿ハ大腿ト足トノ中間ニシテ其ノ後側ノ太リタル處ヲ腓腸ト云ヒ其ノ下部ノ内側ニアル突起ヲ内踝、外側ニアル突起ヲ外踝ト云フ而シテ足ニ連ル部ヲ足根ト云フ

足ハ下肢ノ末端ニシテ足背、足蹠ノ二面及踵（跟骨部）アリ五趾ヲ具フ之ヲ第一趾（拇趾）第二趾、第三趾、第四趾及第五趾（小趾）ト云フ

下肢ハ拇趾側ヲ内側、小趾側ヲ外側ト云フ

第二章 人體ノ諸組織

人體ヲ構成スル組織ハ硬組織、軟組織及液體組織ノ三種トス
硬組織ニ屬スルモノハ骨、軟骨及齒牙ナリ軟組織ニハ皮膚、粘

膜、漿液膜、結締織、脂肪、筋、血管、神經及内臟之ニ屬シ液體組織トハ血液及淋巴ヲ云フ

第三章 皮膚、粘膜、漿液膜、結締織及脂肪

第一 皮膚

皮膚ハ全身ノ外面ヲ被包シ鞏韌ニシテ彈力ヲ有シ身體ヲ保護シテ觸覺ヲ掌リ體溫ヲ調節スルノ用ヲナス（第七圖）



- 1 表皮
- 2 真皮
- 3 皮下結締織
- 4 乳嘴
- 5 血管
- 6 神經
- 7 皮肥腺
- 8 毛囊
- 9 汗腺
- 10 毛幹
- 11 毛根

皮膚ノ構造ハ表皮、真皮及皮下結締織ヨリ成リ汗腺、皮脂腺、毛髮及爪甲等亦皮膚

ニ屬ス

表皮ハ薄ク透明ニシテ血管ナク感覺ヲ有セス常ニ表面ヨリ剝落シテ止ムコトナキモ内部ヨリ新生シテ其ノ闕ヲ補フ若火傷凍傷摩擦其ノ他ノ疾病ニヨリ液體表皮ノ下ニ溜マリ水泡ヲ形成スルコトアルモ忽チ其ノ下ニ新ナル表皮ヲ生ス又皮膚ノ常ニ壓迫ヲ受クル處ハ表皮肥厚スルモノニシテ例之ハ手掌足蹠等ニ生スル(胼胝)及鶏眼ノ類是レナリ

真皮ノ表皮ノ下ニ位シ纖維質ヨリ構成セラレ鞏韌ニシテ伸縮性ヲ有シ中ニ數多ノ小乳嘴(乳頭)ヲ含ミ血管及皮膚神經ノ末端觸官ヲ包藏ス而シテ小乳嘴ノ集合多キ處ハ觸覺尤モ鋭敏ナル例之ハ指頭口唇ノ如シ

皮下結締織ハ真皮ノ下層ヲシテ其ノ質粗ニシテ脂肪ヲ包含シ皮膚

ノ移動ヲ容易ナラシム

汗腺及皮脂腺ハ共ニ真皮中ニ在リテ表面ニ排泄口ヲ有ス汗腺ハ汗ヲ出シテ溫度ヲ放散シ皮脂腺ハ皮脂ヲ出シテ皮膚ヲ滑ナラシム

毛髮ハ皮膚ノ表面ニ在リ其ノ部位ニヨリ或ハ長大ナルアリ或ハ纖細ナルアリ而シテ手掌、足蹠ニ於テハ之ヲ生スルコトナシ毛髮ヲ分テ毛根及毛幹ノ二部トナズ毛根トハ真皮中ニ存在スル部ヲ云ヒ毛幹トハ表皮ノ表面ニ出テタル部ヲ云フ

爪甲ハ指趾ノ末端背面ニ存スル角質様ノモノニシテ感覺ナシ指趾頭ヲ堅カラシム

第二 粘 膜

皮膚、粘膜、漿液膜、結締織及脂肪

粘膜ハ身體ノ外部ニ開ケル孔口及腔内（鼻腔、喉頭、口腔、咽頭、食道、胃、腸等）ノ表面ヲ被ヘルモノニシテ其ノ中ニ粘液腺アリテ常ニ粘液ヲ出シ表面ヲ滑ナラシム
粘膜ノ外層ハ薄クシテ内層ハ血管ニ富ム故ニ健康ナル人ノ粘膜ハ鮮紅ナリ

第三 漿液膜

漿液膜ハ胸腔、腹腔、關節腔等ノ内面ヲ被ヘル薄キ膜ニシテ上皮層及固有膜ノ二層ヨリ成ル
漿液膜ノ表面ハ常ニ少量ノ漿液ヲ出シ其ノ面ヲ滑ナラシメ腔内ニ存スル内臓ノ移動ニヨリテ起ル摩擦ヲ減セシム

第四 結締織

結締織ハ纖維様ノ組織ヨリ成リ体内ノ諸器、諸組織ヲ連繫シ或ハ空所ヲ充填スルモノニシテ皮膚、内臓等ハ總テ結締織ニヨリ其ノ位置ヲ固定セララルモノナリ

結締織ハ身體ノ部位ニヨリテ其ノ形狀ヲ異ニシ軟ク粗ニシテ網狀ヲナスモノアリ或ハ硬ク密ニシテ膜狀又ハ線狀ヲナスモノアリ例之ハ靱帶、腱等ノ如シ

第五 脂肪

脂肪ハ結締織ノ網眼ヲ充填スルモノニシテ殊ニ皮下ニ多ク存在シ深部ニ位スル諸器ノ損傷ヲ防クノ用ヲナス身體ノ肥エタルハ脂肪ノ充チタルナリ

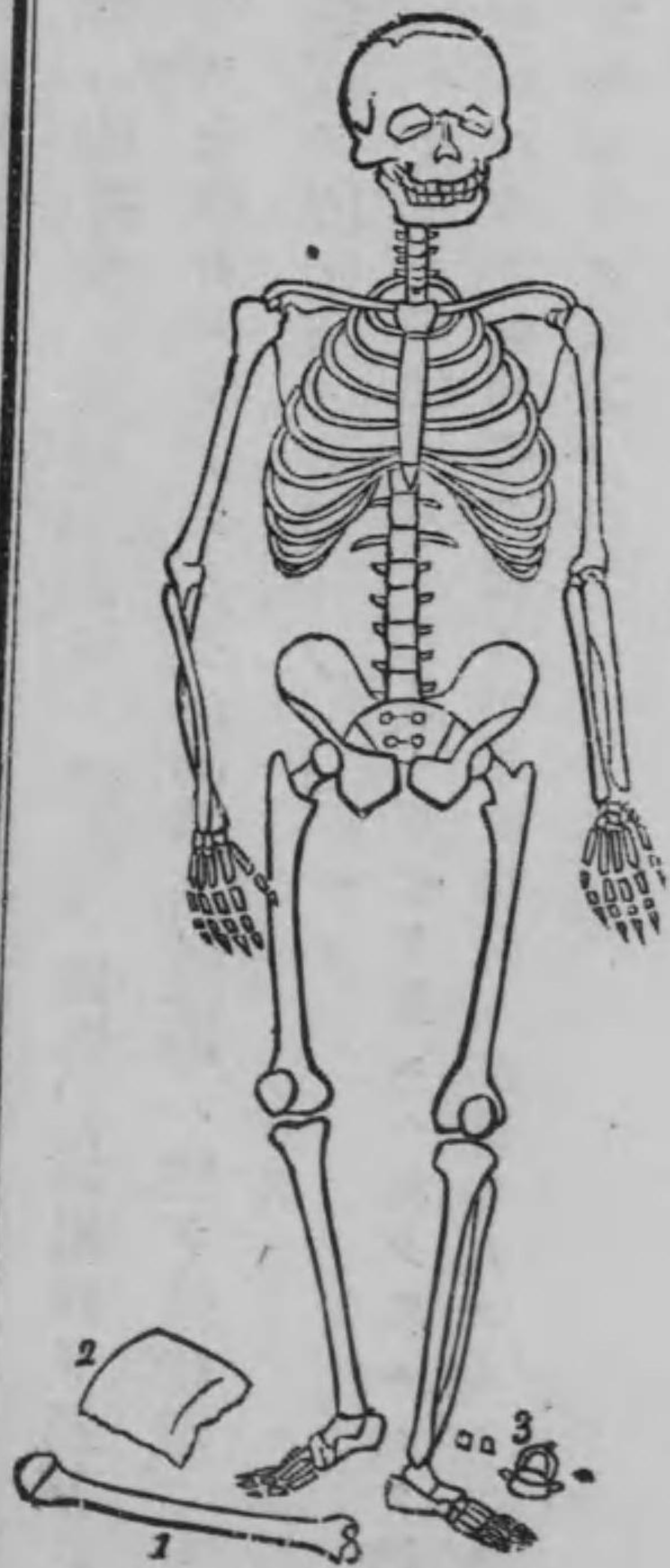
第四章 骨及軟骨

第一 骨

骨ハ其ノ質硬固ニシテ帶黃白色ヲ呈シ僅ニ彈力ヲ具ヘ各骨相聯
リテ一體ヲナス之ヲ骨骼ト云フ骨骼ハ軟部ヲ支ヘテ身體ノ基礎
ヲナス (第八圖)

1 長骨 2 扁平骨 3 短骨

第八圖



骨ハ其ノ形狀ニ隨ヒテ長骨 (管狀骨) 扁平骨 (扁骨) 及短骨ノ
三種ニ分ツ長骨トハ四肢ニアル細長ノ骨ヲ云ヒ扁平骨トハ專ラ
頭首、軀幹ニアル扁平ニシテ薄キ板狀ノ骨ヲ云ヒ短骨トハ頸部、
軀幹及手足ニアル短小ノ骨ヲ云フ
骨ノ表面ハ緻密ニシテ硬固ナリ之ヲ硬固質ト云フ内部ハ粗ニシ

第九圖 甲



甲 長骨ノ縱斷
乙 扁平骨ノ橫斷
丙 短骨ノ橫斷

テ海綿狀ヲ呈
ス之ヲ海綿質
ト云フ長骨ノ
内部ニハ髓腔

ト名クル腔洞ヲ有シ此ノ腔洞及海綿質ノ腔隙ニハ柔軟ナル物質

ヲ充タス之ヲ骨髓ト云フ骨ノ表面ハ薄キ膜ヲ以テ被ハル之ヲ骨膜ト云フ(第九圖)

骨ヲ其ノ部位ニ隨ヒテ頭骨、軀幹骨及四肢骨ニ分ツ

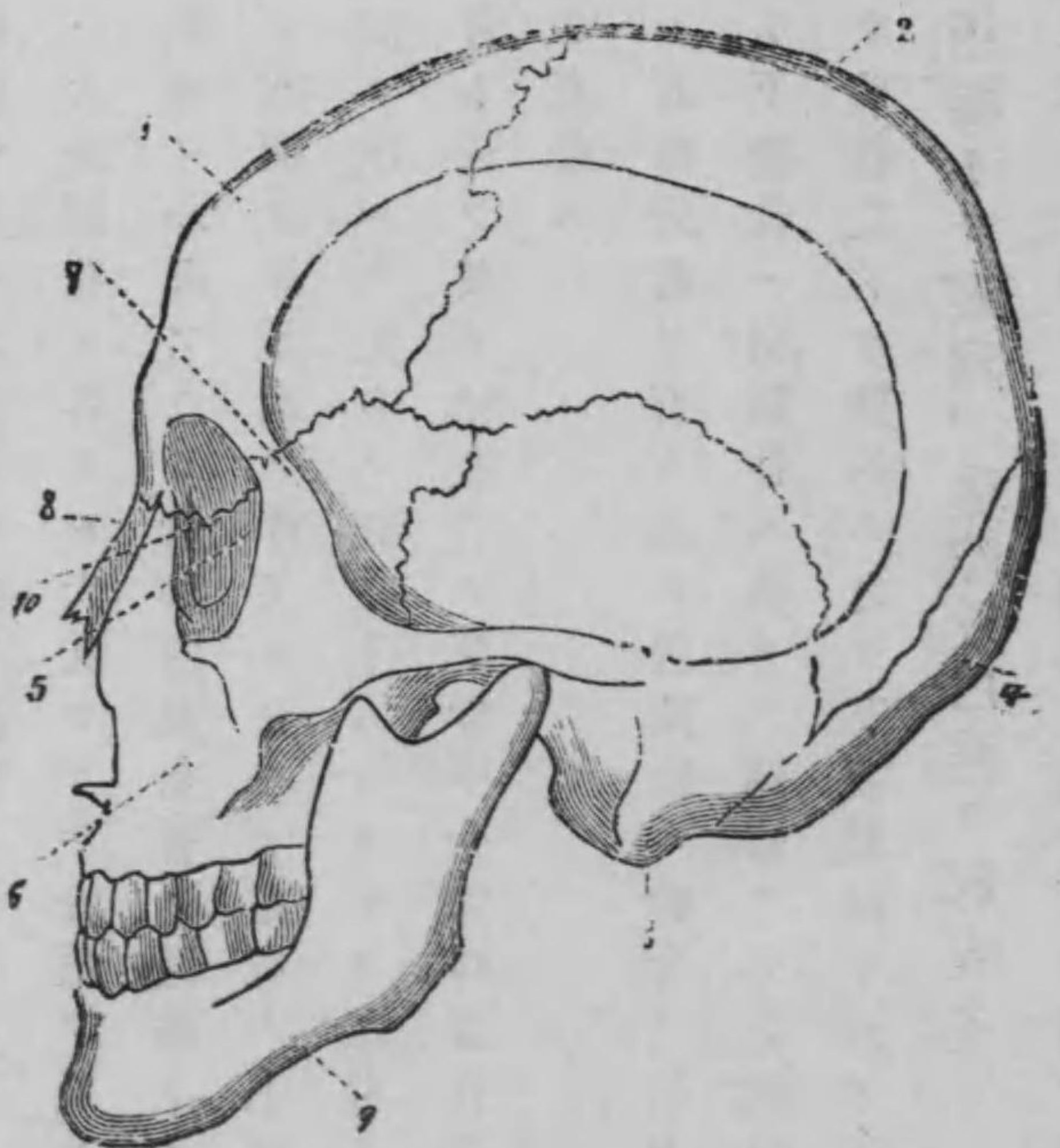
其 一 頭骨

頭骨ハ其ノ數二十二個ニシテ頭蓋及顔面ヲ形成ス大人ノ頭骨ハ其ノ緣概ネ鋸齒狀ヲ呈シ交互相嵌入ス (第十圖及第十一圖)

頭蓋骨ハ總數八個アリ其ノ前部ニ在ルヲ前頭骨、上部ノ兩側ニ在ルヲ左右ノ顛頂骨ト云フ顛頂骨ノ兩下部ニ在ルヲ左右ノ顛竈骨、後部ニ在ルヲ後頭骨ト云フ以上ノ六骨ハ頭蓋穹窿ヲ形成シ頭蓋底面ハ二骨ヨリ形成セラル其ノ前部ニ在ルヲ篩骨後部ニ在ルヲ蝴蝶骨ト云フ

第十圖

- 1 前頭骨
- 2 顛頂骨
- 3 顛竈骨
- 4 後頭骨
- 5 篩骨
- 6 上顎骨
- 7 額骨
- 8 鼻骨
- 9 下顎骨
- 10 淚骨



頭蓋骨ハ互ニ相聯リテ一大腔ヲ形成シ腦髓ヲ包藏ス之ヲ頭蓋腔ト云フ後頭骨ニハ大後頭孔ト名クル大孔アリテ脊髓ヲ通シ其ノ他ノ頭蓋底面ニハ數多ノ小孔アリテ腦神經及血管ノ通路トナル

顔面骨ハ總數十四個アリ顔面ノ中央ニ在ルヲ左右ノ上顎骨ト云ヒ上顎骨ノ上外側ニ在ルヲ左右ノ額骨上方ニアルヲ左右ノ鼻骨下方ニアルヲ下顎骨ト云フ其ノ他左右ノ淚骨甲介骨口蓋骨及一個ノ鋤骨ヲ以テ顔面ヲ形成ス

上顎骨下顎骨ハ齒槽突起ヲ有シ其ノ遊離縁ニ齒牙ヲ植ウ又上顎骨ニハ上顎竇アリ下顎骨ハ顛顛骨ニ聯リテ關節ヲナシ飲食言語ニ當リ上下且微シク前後左右ニ動搖ス之ヲ下顎關節ト云フ

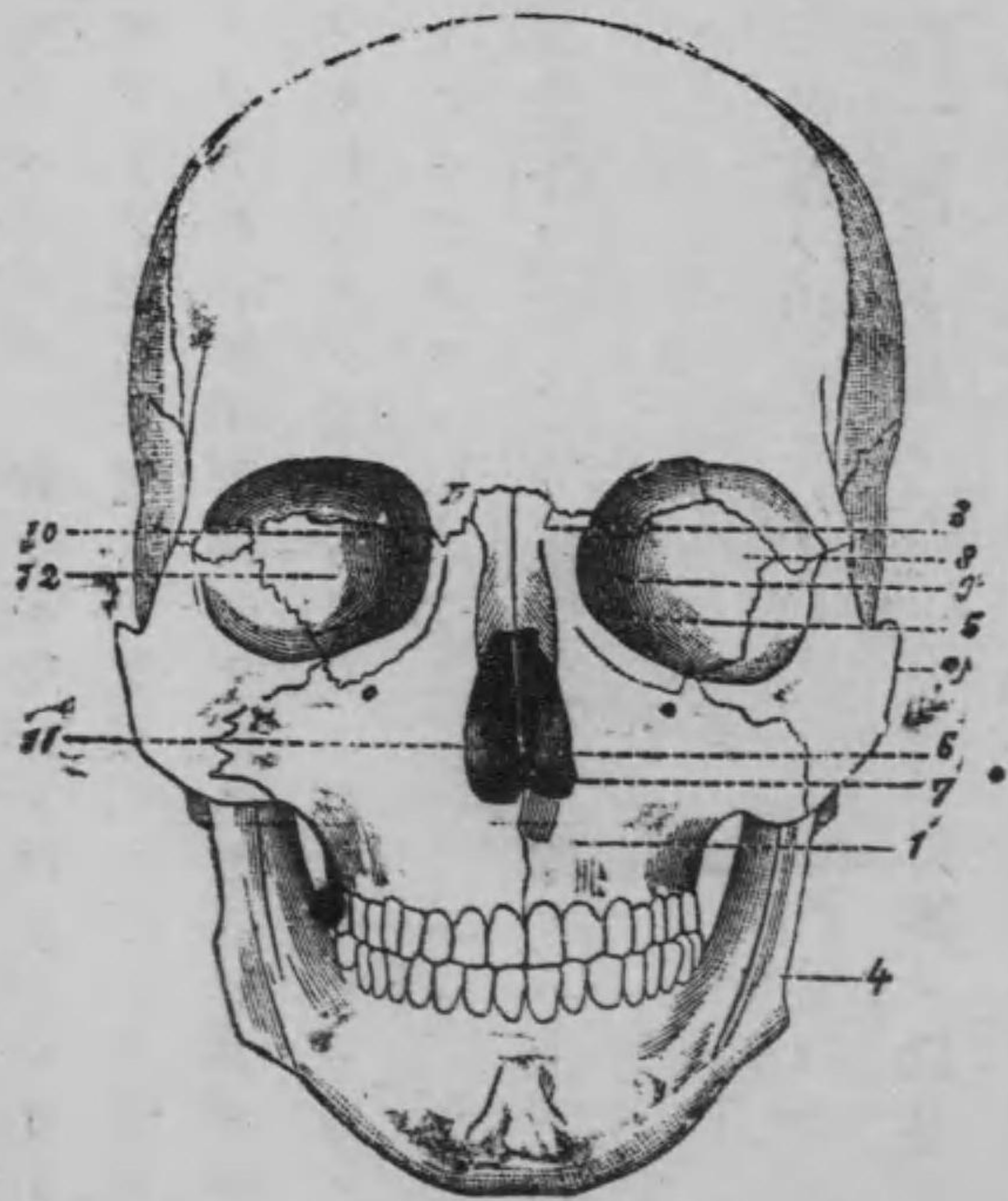
顔面ノ諸骨ハ相聯リテ眼窩、鼻腔及口腔ヲ形成ス

眼窩ハ眼球ヲ包藏スル處ナリ其ノ前縁ハ圓クシテ廣ク後部ハ銳ク

終リ小孔アリテ頭蓋腔ニ通シ視神經ノ通路トナル之ヲ視神經孔ト名ク

第十圖

- 1 上顎骨
- 2 額骨
- 3 鼻骨
- 4 下顎骨
- 5 淚骨
- 6 甲介骨
- 7 鋤骨
- 8 蝴蝶骨
- 9 篩骨
- 10 眼窩
- 11 鼻腔
- 12 視神經孔

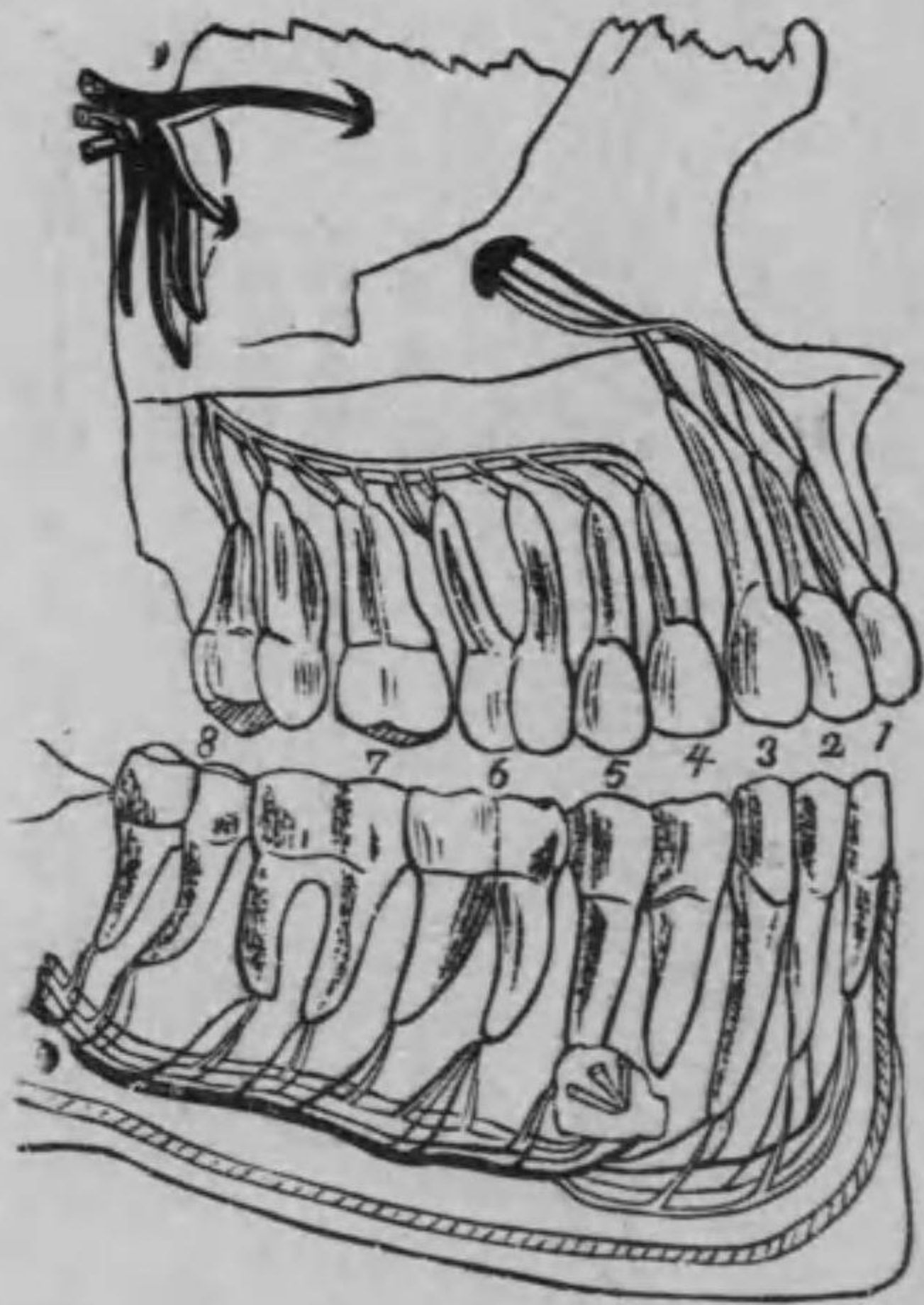


鼻腔ハ鋤骨ニヨリ左右ニ別レ共ニ前後ニ開口シ口蓋孔ニヨリテ口腔ニ通シ側部ニ淚管アリテ眼窩ニ通ス
 口腔ハ上顎及口蓋ニヨリテ上部ヲ形成セラレ側部ハ上下顎骨ニ界シ底面ハ舌骨ヲ包メル軟部ヨリ成リ舌ヲ有ス但シ舌骨ハ他ノ骨格ト直接ニ聯合スルモノニアラス

口腔ニハ上、下顎ニ齒牙ヲ有ス其ノ數大人ニ於テハ上下各十六個ナリ(永久齒)

齒牙ヲ分テ四種トス前部ノ中央ニ位スル四個ヲ門齒ト云ヒ其ノ兩側ニ位スル左右各一個ヲ犬齒ト云フ犬齒ノ外側ニ位スル左右各二個ヲ小白齒ト云ヒ小白齒ノ外側ニ位スル左右各三個ヲ大白齒ト云フ而シテ上顎ノ犬齒ハ一ニ眼齒ト云ヒ上、下最後ノ大白

第二十圖
 (ス示ナ半左ノ列齒)



- 1、2 門齒
- 3 犬齒
- 4、5 小白齒
- 6、7、8 大白齒

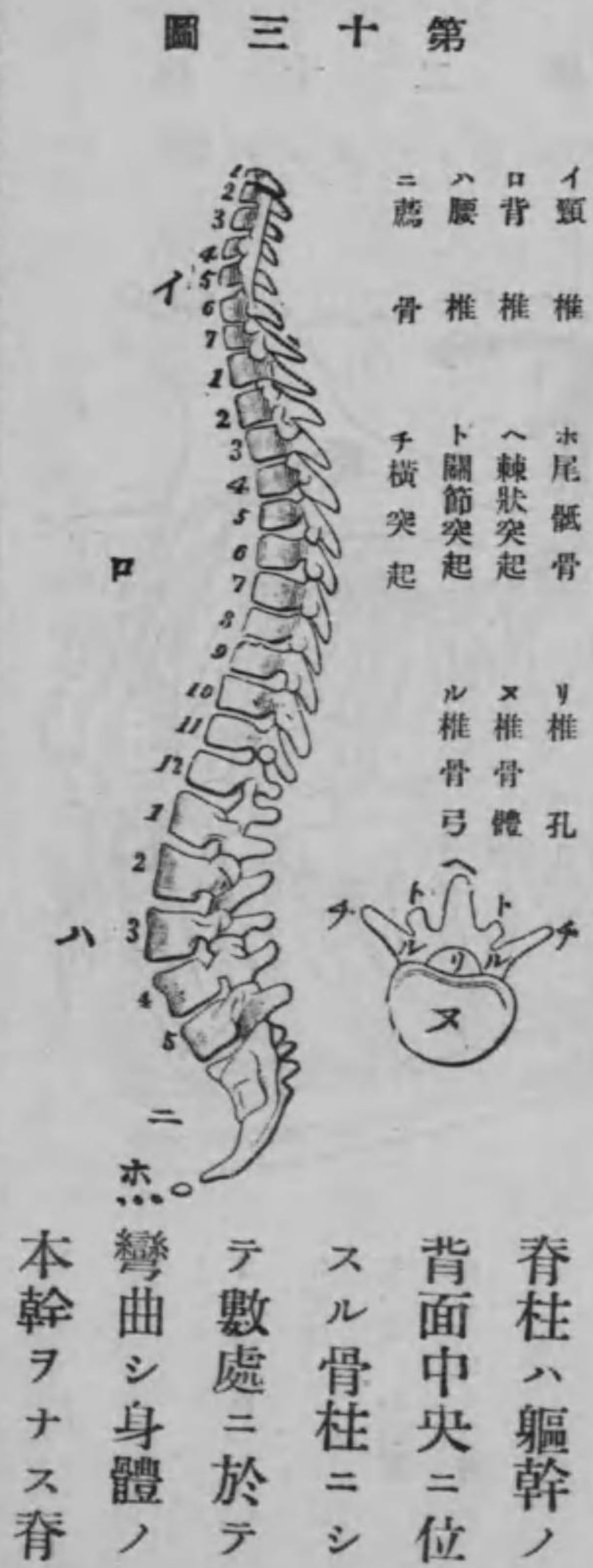
齒ヲ智齒ト云フ (第十二圖)

齒牙ノ口内ニ露レタル部ヲ齒冠其ノ齒槽ニ箱入シタル部ヲ齒根ト云ヒ齒冠ト齒根トノ中央ニシテ少シク絞窄セラレ且一部齒齦ニ被ハレタル部ヲ齒頸ト云フ門齒及犬齒ハ其ノ根一個ナレトモ小白齒

及智齒ハ一個或ハ二個ニシテ第一及第二大臼齒ハ上顎ニ在リテハ三個下顎ニ在リテハ二個ナリ
齒牙ノ内腔ヲ齒腔ト云フ齒髓アリテ血管及神經ヲ含ム

其二 軀幹骨

軀幹骨ハ其ノ數五十七個アリ別テ脊柱、胸廓、及骨盤トナス

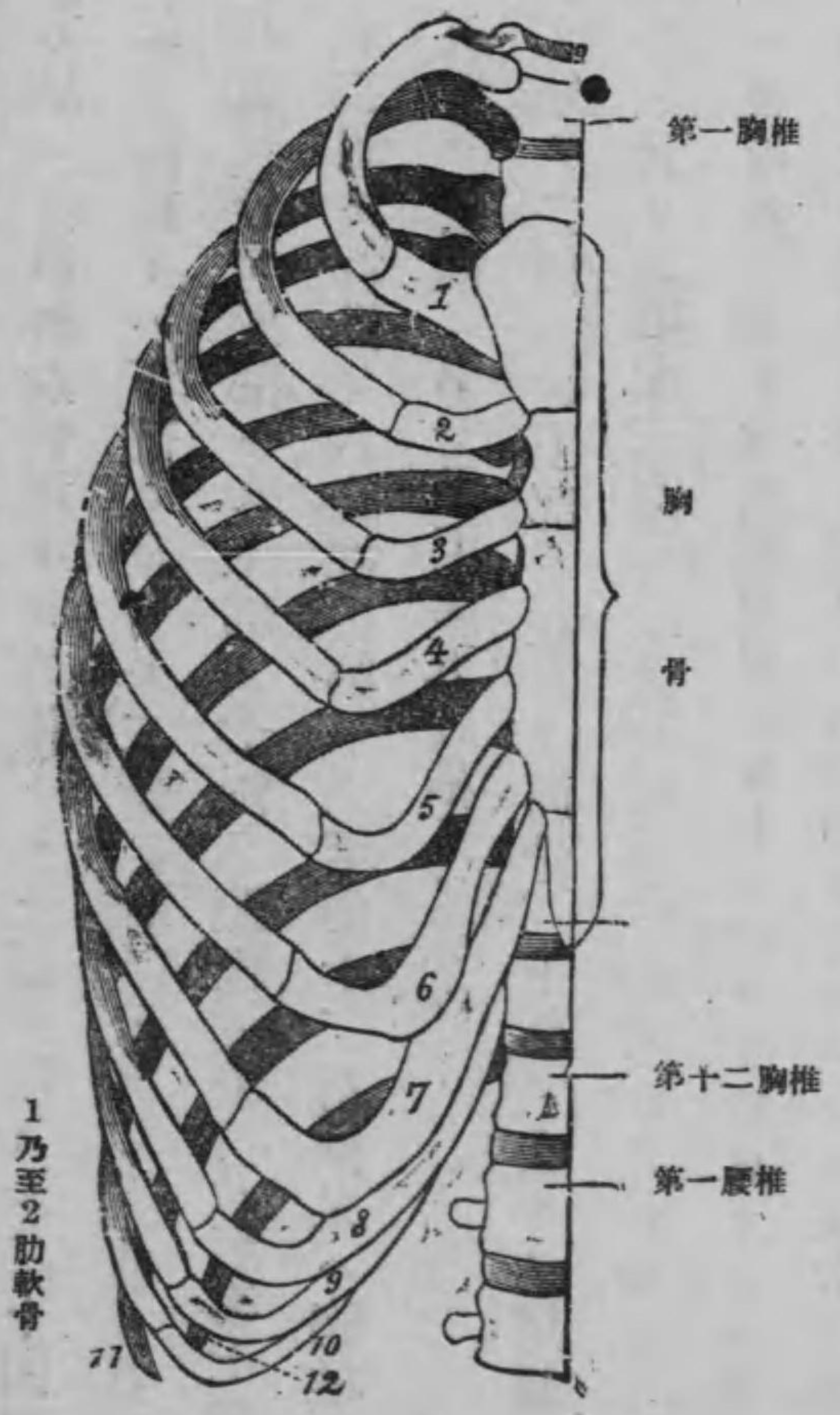


第三十圖

柱ヲ大別シテ眞椎及假椎トス眞椎トハ上部ニ位スル二十四個ノ骨ヲ云ヒ假椎トハ下部ニ位スル二個ノ骨ヲ云フ
眞椎ハ更ニ分テ三部トス上部ノ七個ヲ頸椎(第一乃至第七頸椎)次ノ十二個ヲ背椎又ハ胸椎(第一乃至第十二背椎又ハ胸椎)、下部ノ五個ヲ腰椎(第一乃至第五腰椎)ト云フ
閭骨)ト云フ(第十三圖)
椎骨ハ椎體、椎弓、關節突起、横突起及棘狀突起ヨリ形成セラレ中央ニ大孔アリ之ヲ椎孔ト云フ椎孔ハ椎骨相重疊スルトキ長管ヲ形成ス之ヲ脊柱管(脊髓管)ト云ヒ上端ハ大後頭孔ニヨリテ頭蓋腔ニ聯ナリ下端ハ薦骨ニ達シ中ニ脊髓ヲ包藏ス

胸廓ハ背椎、胸骨、肋骨及肋軟骨ヨリ成リ周圍ノ軟部ト共ニ胸腔ヲ形成シ肺及心臟ヲ包藏ス

第十四圖

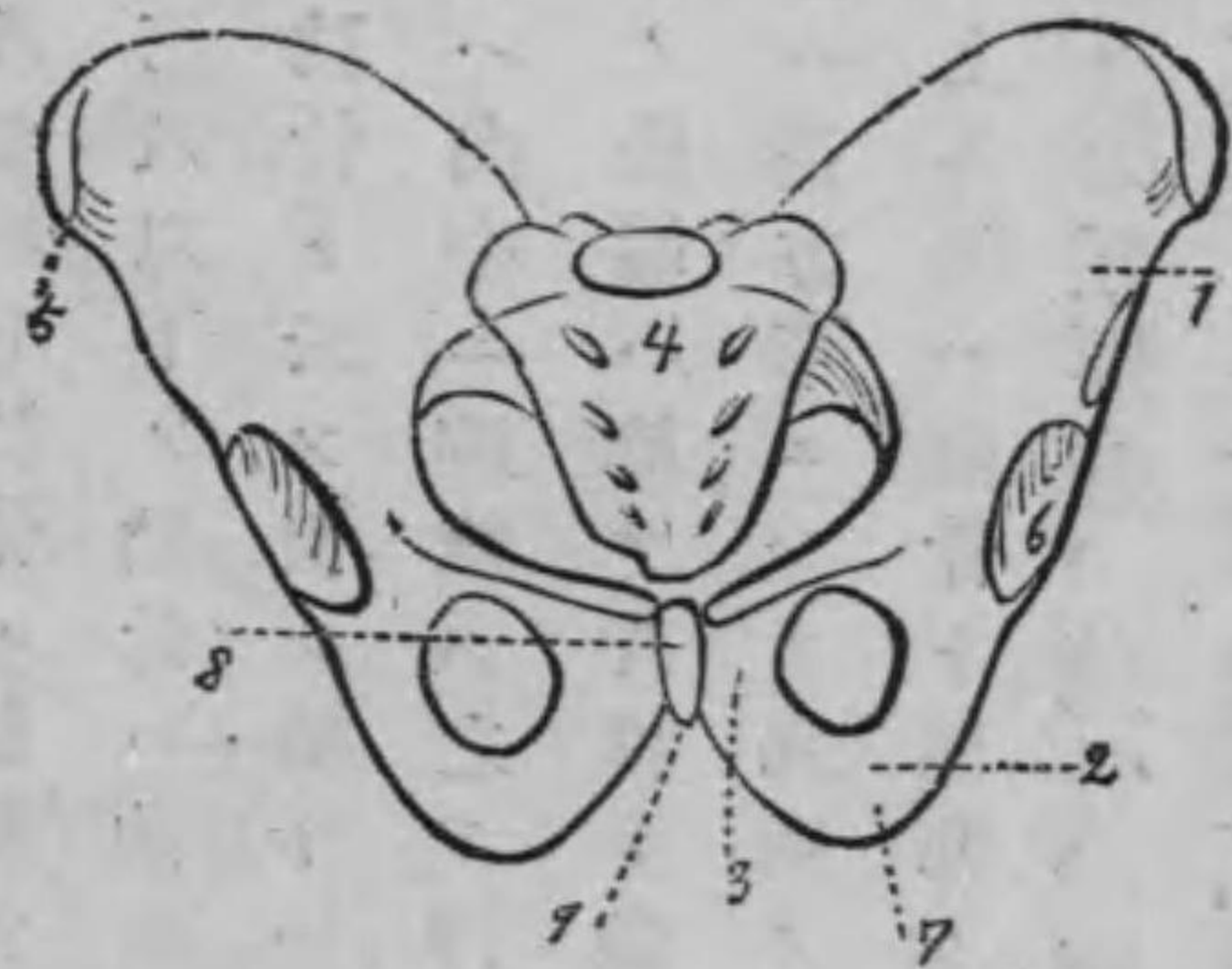


肋骨ハ其ノ數左右各十二個(第一乃至第十二肋骨)ニシテ肋骨ト肋骨トノ間ヲ肋間(第一乃至第十一肋間)ト云フ(第十四圖)

肋骨ノ前端ニ連續スル軟骨ヲ肋軟骨ト云フ其ノ數肋骨ト同一ナリ第一乃至第七肋骨ハ肋軟骨ニヨリテ直ニ胸骨ニ接ス之ヲ眞肋骨ト云フ第八以下ノ肋骨ハ肋軟骨ノ媒介ニヨリテ第七肋軟骨ニ連ル之ヲ假肋骨ト云フ但シ第十一及第十二肋骨ハ最短クシテ其ノ前端肋軟骨ハ肉中ニ遊離ス之ヲ浮肋骨ト云フ

肋背ノ後端ハ總テ背椎ト關節ヲナス
 胸骨ハ長方形ニシテ胸廓ノ前面中央ニ在リ上ハ頸窩ニ下ハ心窩ニ亘リ上外隅ハ鎖骨ト關節シ兩側ハ軟肋骨ニヨリテ肋骨ニ連合ス
 骨盤ハ第五腰椎、薦骨、尾骶骨及左右一對ノ臑骨(無名骨)ヨリ形成セラル大骨盤及小骨盤ニ分ツ (第十五圖)

第十圖



- 1 腸骨
- 2 坐骨
- 3 耻骨
- 4 薦骨
- 5 腸骨前上棘
- 6 髌骨
- 7 坐骨結節
- 8 耻骨縫際
- 9 耻骨弓

ヲ坐骨結節ト云フ左右耻骨ノ相合スル處ハ耻骨縫際ニシテ其ノ下
 緣隅角ヲナス處ヲ耻骨弓ト云フ
 骨盤腰椎ノ前部及側部ハ軟部（腹壁）ヲ以テ圍繞セラレ大腔ヲ

臑骨ハ分チテ腸骨坐
 骨及耻骨トシ其ノ外
 側ニシテ三骨相合ス
 ル處ニ髌骨アリ大腿
 骨額ヲ容ル

又腸骨前上部ノ突起
 ヲ腸骨前上棘ト云ヒ
 坐骨下隅ノ結節狀部

形成ス之ヲ腹腔ト云フ

其三 四肢骨

一 上肢骨

上肢ハ胸廓ノ左右上部ニ連リ鎖骨、肩胛骨、上膊骨
 前膊骨及手骨ヨリ成リ其ノ數三十二個ナリ

鎖骨ハ横ニS字形ニ曲リ頸窩下部ノ兩側ニ横リ外端ハ

肩胛骨ニ聯リ内端ハ胸骨ノ上部ニ接ス（第十六圖）

肩胛骨ハ扁平三角形ニシテ胸部ノ後上部、脊柱ノ兩側ニ

位シ前面ハ肋骨ニ對ス肩胛骨ノ上外部ニ突起アリ之ヲ肩峰突起肩

頭突起ト云ヒ其ノ下ニ在ル關節窩ハ上膊骨頭ヲ容ル又肩胛骨ノ下

端ヲ肩胛骨下隅ト云フ（第十七圖）

第十六圖



第七十圖



1 肩峰突起
2 關節窩
3 肩胛骨下

上膊骨ハ長大ナル管狀骨
ニシテ上端球形ヲナス之
ヲ上膊骨頭ト云フ即チ肩
胛骨ノ關節窩ニ連リテ肩
胛關節ヲ形成ス上膊骨頭
ノ下部ヲ上膊骨頸ト云フ下端ハ廣キ關節面ヲ以テ前膊ノ二骨ニ

聯ル (第十八圖)

前膊骨ハ二個ノ長

第八十圖



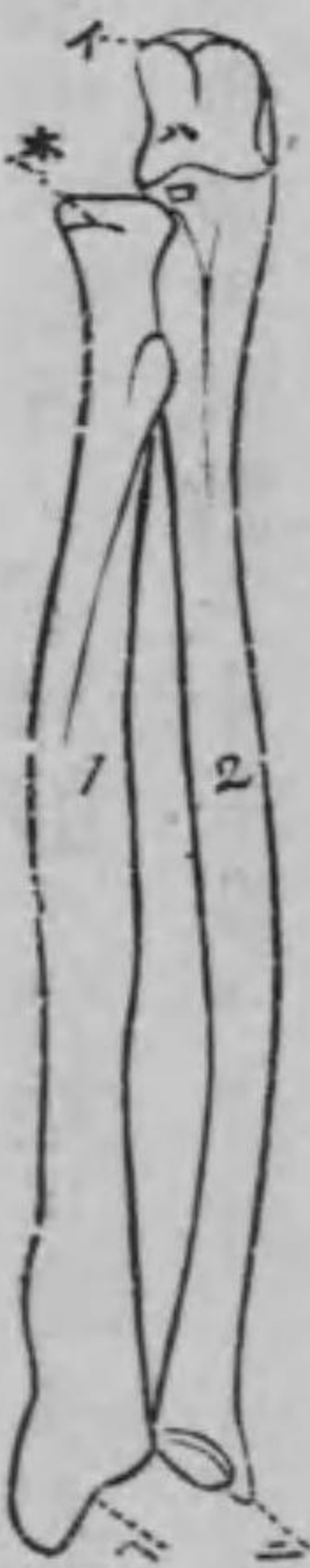
1 上膊骨頭 2 上膊骨頸

骨ヨリ成ル橈骨及尺骨是レナリ (第十九圖)

尺骨ハ小指側ニ橈骨ハ拇指側ニ在リ橈骨ハ尺骨ヲ軸トシテ繞リ手

イ 鷹嘴突起 ロ 鳥喙突起 ハ ハ關節窩 ニ 莖狀突起 ホ 橈骨小頭

第九十圖

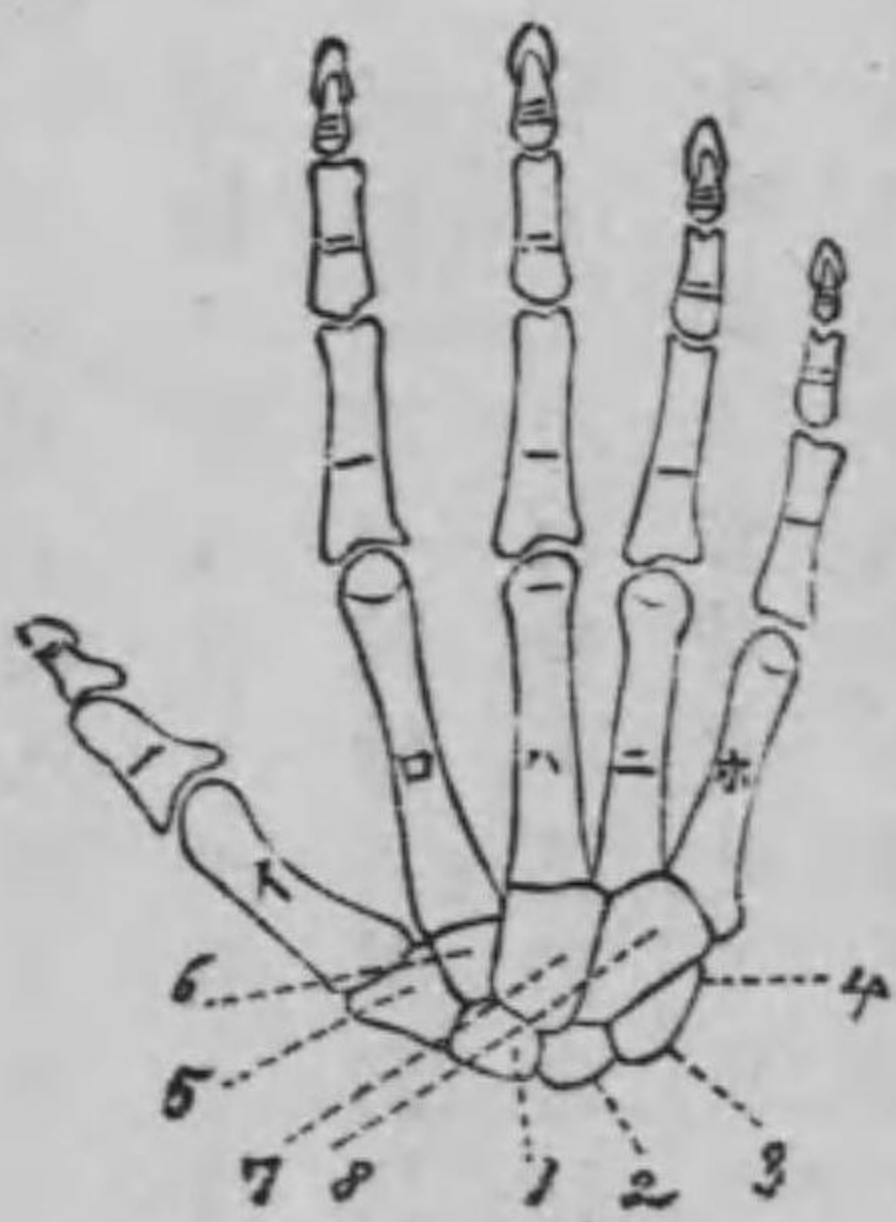


1 橈骨
2 尺骨

ヲ前後ニ回轉ス
前膊ヲ水平ヲシ
テ掌ヲ上方ニ向
クルトキハ兩骨

ハ相竝ヒ下方ニ向クルトキハ兩骨ハ交叉ス尺骨ハ上端ハ鷹嘴突起
及鳥喙突起ヲ有シ其ノ間ニ關節面アリ下端ニハ莖狀突起ヲ有ス橈
骨ハ上端ニ小頭下端ニ滑ニ窪ミタル關節面アリ

第十二圖



1 乃至 5 腕骨
イ 乃至 ホ 掌骨
一 乃至 三 指骨

手骨ハ分テ腕
骨、掌骨、指骨
トス (第二十
圖)
腕骨ハ不正形

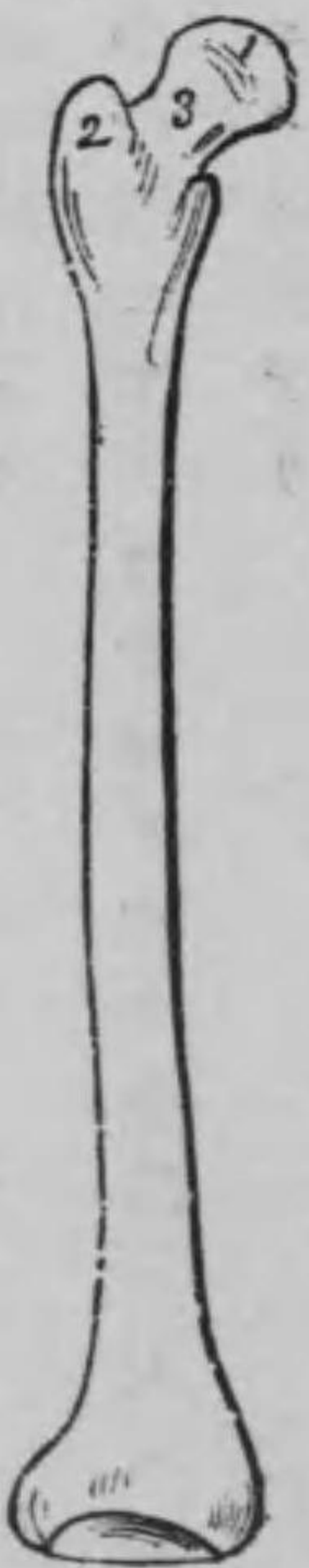
ノ短骨ニシテ其ノ數八個アリ上下ニ二列ヲナシ手根ヲ形成ス
 掌骨ニ五個ノ管狀骨ヨリ成リ拇指側ヨリ番號ヲ附シ第一乃至第五
 掌骨ト云フ上端ハ腕骨ノ下列及隣接ノ掌骨ト關節ヲナス然レトモ
 第一掌骨ノミハ腕骨ト運動自在ナル關節ヲナス
 指骨ハ十四個ノ管狀骨ヨリ成リ拇指ニ二個其ノ他ニ各三個アリテ
 互ニ關節ヲナス掌骨ト關節スル指骨ヲ第一節ト云ヒ之ニ次ク指骨
 ヲ第二節未節ヲ第三節(爪節)ト云フ但シ拇指ニハ二節アルノミ

二 下肢骨

下肢骨ハ軀幹ノ下部即チ骨盤ニ聯リ大腿骨、膝蓋骨、下腿骨及足
 骨ヨリ成リ其數三十一個ナリ
 大腿骨ハ身體中最長大ナル管狀骨ナリ

大腿骨ノ上端ノ球形ヲナセル部ヲ大腿骨頭ト云ヒ髌臼ニ入ル骨頭
 ノ下部ヲ大腿骨頸ト云ヒ其ノ側部ノ突起ヲ大轉子ト云フ下端ハ骨
 幹ヨリ太クテ二個ノ竝ヒタル結節ヲ有シ脛骨ノ上端ニテ接シ膝關
 節ヲ成ス(第二十一圖)

圖一十二第



1 大腿骨頭 2 大轉子 3 大腿骨頸

膝蓋骨ハ膝關
 節ノ前面ニ在
 ル圓キ扁平ノ

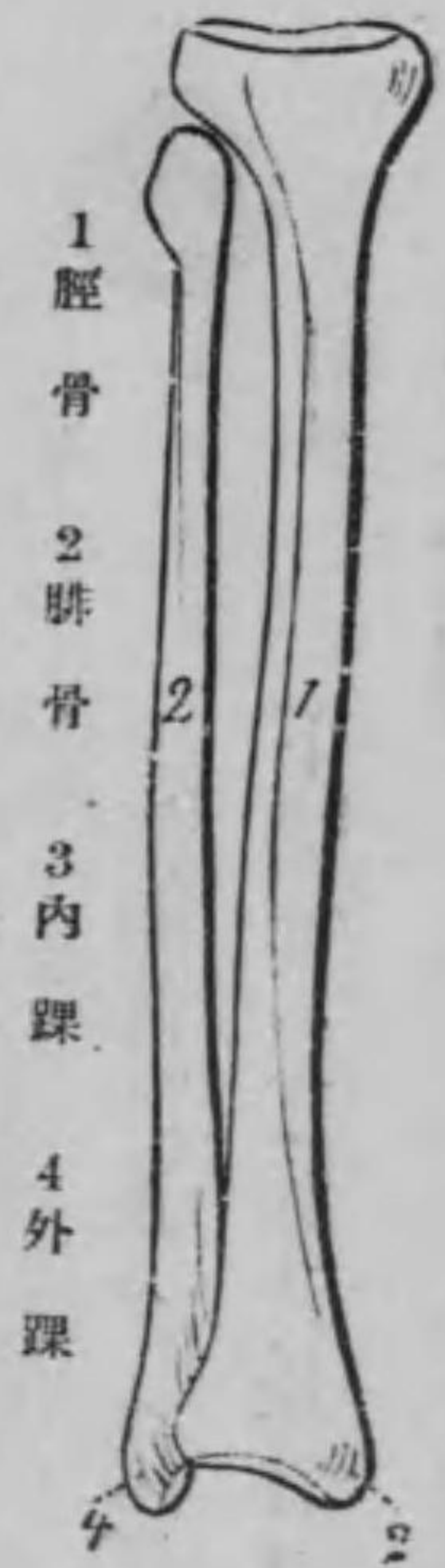
圖二十二第



是レナリ (第二十三圖)

骨ニシテ軟部ヲ以テ大腿及下腿ノ骨ニ聯
 リ膝關節ヲ護ル (第二十二圖)
 下腿骨ハ二個ノ長骨ヨリ成ル脛骨及腓骨

圖三十二第



有シ下端ハ骨幹ニ比スレハ稍大ナレトモ上端ニ比スレハ小ニシテ
其ノ内側ニ内踝アリ

腓骨ハ小趾側ニ在テ脛骨ヨリ細ク上端ハ大ニシテ小頭ヲナシ下端
ノ外側ニハ外踝アリ

足骨ハ分テ跗骨、蹠骨及趾骨トス (第二十四圖)

跗骨ハ總數七個アリ皆多角形ニシテ其ノ最大ナルヲ跟骨トシ後方
ニ突出ス此ノ部ヲ踵ト云ヒ殆ント全身ノ重量ヲ支フ跟骨ノ上方ニ
距骨アリ下脛骨ノ下端ヲ受ク其他ノ跗骨ハ皆此二骨ノ前方ニ在リ

圖四十二第



第一乃至第五蹠骨ト云フ

趾骨ハ十四個ノ管狀骨ヨリ成リ蹠骨ノ前方ニ位シ之ト關節ヲナス
其ノ最内側ニ在ルモノハ強大ニシテ二節ヨリ成ルコト手ノ拇指骨
ノ如シ之ヲ跗趾骨ト云ヒ其ノ他ノモノヲ第二乃至第五趾骨ト云フ
此ノ四趾骨ハ皆手指ノ如ク三節ヲ有シ每節ノ命名法モ亦手指ニ等

ヲ互ニ結合シ蹠骨ト
關節ス
蹠骨ハ五個ノ管狀骨
ヨリ成リ互ニ相竝ヒ
後端ハ跗骨ニ聯リ足
穹窿ヲ形成ス蹠骨ハ
内側ヨリ番號ヲ附シ

第二章 軟骨

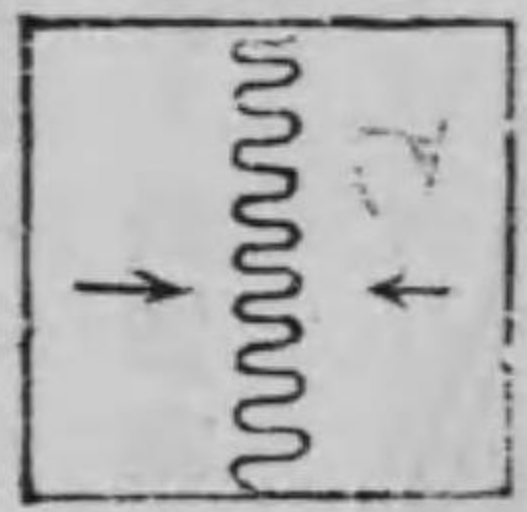
軟骨ハ帶青白色半透明ニシテ彈力ニ富ミ其ノ質骨ニ類似スルモ骨ノ如ク硬固ナラス而シテ骨膜ノ如キ皮膜ヲ被ル之ヲ軟骨膜ト云フ

軟骨ノ主用ハ骨端ノ摩擦衝突ヲ防キ或ハ兩骨ヲ聯ネ或ハ體中ノ或ル部分ヲ強固ナラシメ且之ニ多少ノ屈撓性ヲ與フルニアルコト鼻梁、耳翼ノ如シ

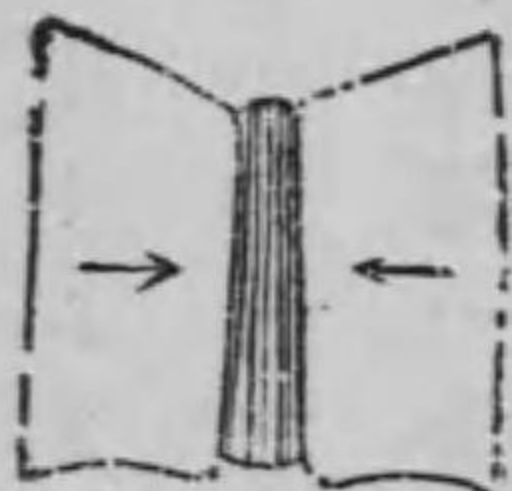
關節ノ軟骨ハ薄板狀ヲシテ兩骨ノ觸接面ヲ被ヒテ滑ナラシメ兼テ壓迫ヲ防ク

第五章 骨ノ結合

全身ノ諸骨相聯リテ一體ヲナスニ當リ其ノ相結合スルノ狀ハ硬骨緣直ニ結合スルモノト其ノ間ニ軟骨ヲ挿ムモノト二骨ノ間直ニ連接スルコトナク軟組織ヲ以テ之ヲ連續セシムルモノトアリ故ニ骨ノ結合ヲ分テ骨縫軟骨接合及關節ノ三種トス



圖五十二第



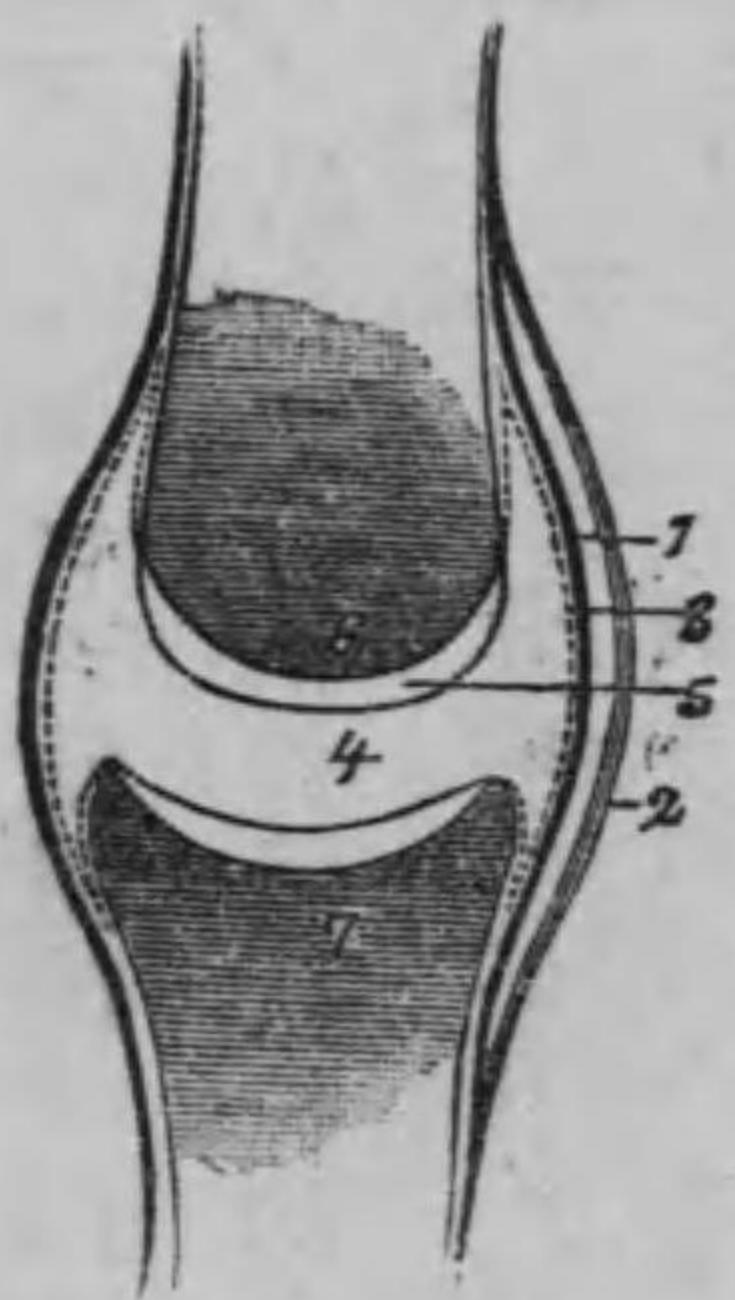
圖六十二第

骨縫ハ軟骨ノ媒介ナク鋸齒狀ヲナセル兩骨緣直接ニ相掛入シテ成レル不動ノ接合ニシテ專ラ頭蓋ニ於テ見ル所ナリ(第二十五圖)
軟骨接合トハ接合兩骨ノ間ニ一層ノ軟骨アリテ堅ク兩骨ヲ聯ネ微カニ運動ヲ許スモノヲ云フ例之ハ耻骨縫際、薦腸縫際、胸肋縫際及椎間接合ノ如キ是レナリ(第二十六圖)

關節ハ主トシテ四肢ニ在リ二骨或ハ數骨ノ互ニ相聯リテ運動ヲ營ムモノヲ云フ

關節ノ骨端ハ各自軟骨ニ被ハレタル觸界面ヲ有ス之ヲ關節面ト云フ關節面ノ球形ヲナセルモノヲ關節骨頭(關節頭)ト云ヒ之ヲ容ルル陷凹部ヲ關節窩ト云フ(第二十七圖)

第七十二圖



- 1 關節囊
- 2 關節韌帶
- 3 滑液膜
- 4 關節腔
- 5 關節軟骨
- 6 關節骨頭
- 7 關節窩

總テ關節ニハ之ヲ形成スル諸骨端ヲ被包スル腱狀ノ膜及其ノ聯接ヲ強ムル腱狀ノ

帶アリ甲ヲ關節囊、乙ヲ關節韌帶ト云フ關節囊廣キトキハ其ノ運動自在ナリ

關節内(關節腔)ニハ一層ノ漿液膜(滑液膜)アリテ其ノ全面ヲ被ヒ無色ノ粘リタル液ヲ出ス之ヲ關節液(滑液)ト云ヒ常ニ關節面ヲシテ滑ナラシム

關節ノ主ナルモノハ左ノ如シ

一 肩胛關節 肩胛骨ト上膊骨トノ關節ニシテ上肢ノ運動ヲ營ミ全身諸關節中運動ノ最自在ナルモノナリ故ニ脱臼スルコト最多シ

二 肘關節 上膊骨ト前膊骨トノ關節ナリ

三 腕關節 前膊骨ト腕骨トノ關節ナリ

四 跨關節 臑骨ノ髌臼ト大腿骨頭トノ關節ナリ

五 膝關節 大腿骨ト脛骨トノ關節ニシテ前面ニ膝蓋骨アリ

- 六 足關節 下腿骨ト跟骨トノ關節ナリ
 - 七 下顎關節 下顎骨ト顎顚骨トノ關節ニシテ脱臼シ易シ
- 第六章 筋

圖八十二第



弛緩セル筋



收縮セル筋

筋ハ所謂肉ニシテ收縮性アリ身體諸部ノ運動ヲ營ム

(第二十八圖)

筋ノ中部赤色ナル處ヲ筋腹、兩端白色ノ處ヲ腱ト云ヒ、腱ノ末端ヲ起始部及抵止部ト云フ筋ハ孰レモ大概一端ハ骨ニ起始シ他端ハ他骨

ニ抵止ス故ニ此ノ筋收縮スルトキハ兩骨互ニ接近シ關節ノ運動ヲ起シ屈伸、廻轉等諸般ノ動作ヲ營ム但シ稀ニハ一端骨ニ起止シ他端ハ軟部ニ止リ或ハ軟部ニ起リ軟部ニ止ルモノアリ例令ハ口圍、眼瞼ニ於ケル筋ノ如シ

筋ノ骨骼ヲ圍ミ意志ニ隨ヒ自動性ニ收縮スルモノヲ隨意筋(横紋筋)ト云ヒ内臓、血管等ニ存シ意志ニ隨ハサルモノヲ不隨意筋(滑平筋)ト云フ然レトモ心臟ノ筋ハ横紋筋ナレトモ意志ニ隨フコトナシ是レ獨リ身體中ノ破格ナルモノトス

筋ノ形狀ハ種種ニシテ一樣ナラス之ヲ分テ左ノ四種トナス

- 一 長筋 特ニ四肢ニ在リ其ノ兩端ハ或ハ長キ或ハ短キ腱トナリテ骨ニ附著ス
- 二 短筋 其ノ厚サハ長サ及廣サニ比シテ頗大ナリ

三 廣筋 薄キ扁平ノ筋ニシテ多クハ頭首及軀幹ニアリ
 四 輪筋 輪狀ヲナシテ身體ノ諸孔ヲ圍ム例之ハ口圍輪匠筋、
 肛門括約筋ノ如シ

第七章 循環器

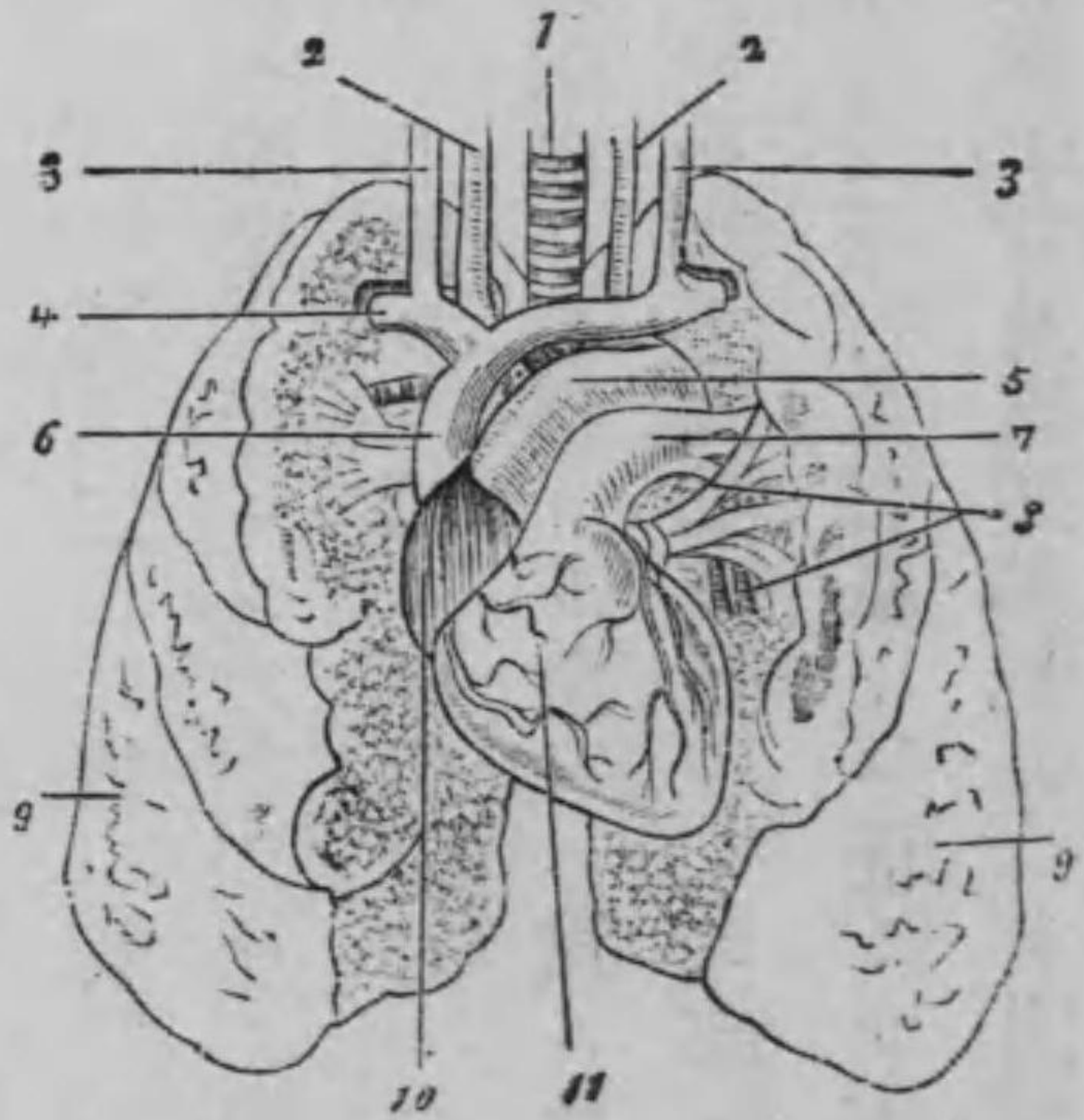
循環器(血行器)ハ血液循環ヲ掌ルモノニシテ血管系及淋巴管系
 ヨリ成ル

第一 血管系

其一 心臟

心臟ハ胸腔ノ中央下部ニ於テ左側ニ偏位シ兩肺ノ間ニアリ其ノ
 質ハ筋肉ニシテ拳大ノ圓錐形ヲナシ心嚢ト稱スル膜囊ヲ以テ被
 包セラル血液循環ノ中心ナルヲ以テ最重要ナリ(第二十九圖)

第二十九圖



- 1 氣管
- 2 總頸動脈
- 3 總頸靜脈
- 4 鎖骨下靜脈
- 5 大動脈管
- 6 上大靜脈
- 7 肺動脈
- 8 肺靜脈
- 9 肺
- 10 心ノ上房
- 11 心ノ下室

心臟ノ基底ハ其
 ノ上部ニシテ右
 上方ニ向ヒ第三
 肋軟骨ノ高サニ
 於テ胸骨ノ後方
 ニ在リ此ノ部ヨ
 リ大血管ヲ出ス

心尖ハ心臟ノ下部ニシテ左下方ニ向ヒ左乳房ノ内方第五及第六
 肋骨ノ間ニ位ス

心臟ノ内腔ハ縦中隔ニヨリテ左右ニ分レ其ノ各半部ニ更ニ中隔ニ

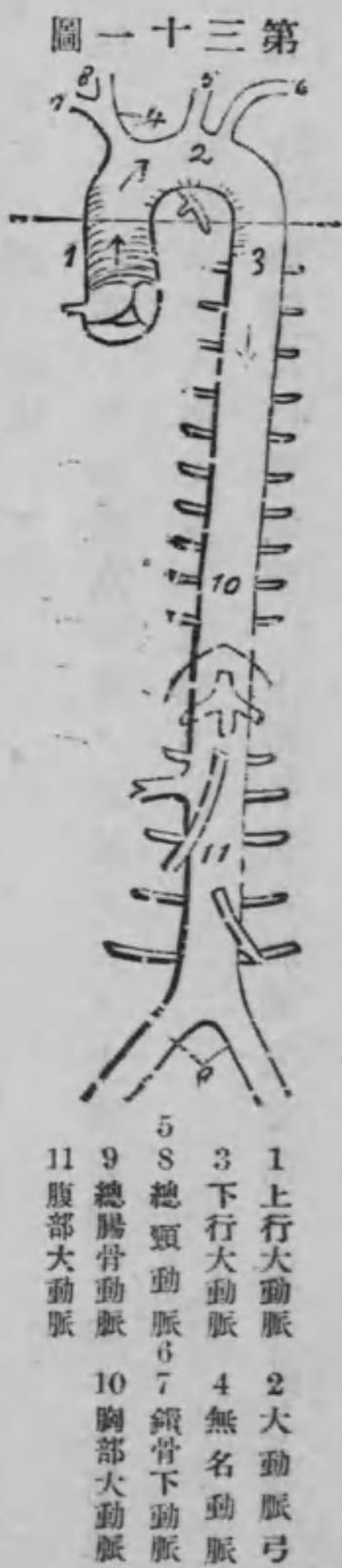


ヨリテ上下二腔ニ分ル故ニ心臟ハ四腔ヲ有ス其ノ左右ノ上腔ヲ左房右房ト云ヒ下腔ヲ左室右室ト云フ(第三十圖)
房室間ノ口及室ノ脈管口ニハ瓣膜アリ心臟ノ縮動ニ當リ血液ノ逆流スルヲ防ク

其二 血管

血管ハ膜様ノ管ニシテ之ヲ分テ動脈、靜脈及毛細管ノ三種トス
動脈ハ心臟ヨリ起リ漸次分岐シ全身諸部ニ分布シテ毛細管ニ移
リ動脈血ヲ心臟ヨリ全身ニ送ル血管ナリ心臟ノ左室ヨリ出ツル
大血管ハ即チ大動脈管ニシテ部位ニ從ヒ分チテ上行大動脈、大
動脈弓及下行大動脈トス而シテ大動脈弓ヨリハ無名動脈、鎖骨
下動脈(左)及總頸動脈(左)ヲ出シ下行大動脈ハ胸部大動脈及腹

部大動脈トナリテ胸腔及腹腔内ヲ下行シ種種ノ分枝ヲ出シ終末
ハ岐レテ左右ノ股動脈トナル此等ノ脈管ハ漸次分枝シテ細小ト
ナリ全身ノ組織ニ榮養液ヲ送ル其ノ主要ナル分枝ハ左ノ如シ
(第三十一圖)



1 上行大動脈 2 大動脈弓
3 下行大動脈 4 無名動脈
5 8 總頸動脈 6 7 鎖骨下動脈
9 總腸骨動脈 10 胸部大動脈
11 腹部大動脈

一 無名動脈 胸腔内ノ右上方ニ在リ少シク昇リテ右鎖骨下動脈
ト右總頸動脈トニ岐ル
二 鎖骨下動脈 右側ノモノハ無名動脈ヨリ左側ノモノハ直ニ大

- 動脈弓ヨリ起リ胸廓ノ上兩側ヨリ出テ第一肋骨ト鎖骨トノ間ヲ過キ腋窩ニ至リ腋窩動脈トナル
- 三 腋窩動脈 其ノ位置ハ上肢ヲ水平ニ舉上シタルトキ腋窩ノ縮毛アル部ノ前縁ニアリ
- 四 上膊動脈 左右腋窩動脈ノ連續ニシテ上膊前側ノ大ナル筋塊ノ内縁ニアル淺キ溝ヲ通過ス
- 五 橈骨動脈及尺骨動脈 上膊動脈ノ肘關節前面ニ至リ岐レタルモノニシテ甲ハ前膊ノ前面拇指側ニ乙ハ小指側ニ在リ共ニ相合シテ弓狀ヲナシ小枝ヲ諸指ニ出ス通常脈搏ヲ診スルニハ腕關節ノ上部ニ於テ橈骨動脈ノ淺ク皮下ニ在ル處ニ於テス
- 六 總頸動脈 右側ノモノハ無名動脈ヨリ左側ノモノハ直ニ大動脈弓ヨリ起リ喉頭及氣管ノ兩側ニ沿フテ進ミ岐レテ内外ノ頸動

- 脈トナリ頭部ニ分枝ヲ出ス
- 七 淺頰動脈 外頸動脈ヨリ岐レタル枝ニシテ耳前ヨリ上方ニ向ヒ頰顳部ニ分枝ス
- 八 總腸骨動脈 下行大動脈ノ左右ニ岐レタル末端ニシテ骨盤内ヲ下行シテ股動脈トナル
- 九 股動脈 骨盤内ヨリ出テ腹股接際ノ中央ニ於テ耻骨上ヲ過キ斜メニ大腿ノ内側ヲ下リ下三分ノ一部ニ至リ後方ニ廻リ膝關ニ達ス
- 靜脈ハ毛細管ヨリ起リ靜脈血ヲ全身ヨリ心臟ニ還流セシムル血管ナリ而シテ動脈ニ比スレハ膜質薄弱ニシテ内ニ數多ノ靜脈瓣アリテ血液ノ逆流ヲ防ク靜脈ノ大ナルモノハ同名ノ動脈ト竝行

シ多クハ一條ノ動脈ニ二條ノ靜脈ヲ伴フモ皮下ヲ通過スル小靜脈ハ獨行シ表皮ニ於テ青色ノ線トナリテ現ル
毛細管ハ動脈ヨリ靜脈ニ移行スル中間ノ微細ナル血管ニシテ全身ノ組織ニ分布ス
毛細管ハ膜質極メテ薄シ故ニ一ハ動脈血中ノ養素ヲ滲出セシメテ其ノ部ノ組織ニ給シ一ハ組織中老廢物ノ一分ヲ吸收シテ靜脈中ニ送ル

其三 血液

血液ハ心臟及血管内ヲ流通スル赤色微シク粘リタル液ニシテ血清、血球(赤血球及白血球)及纖維素ヨリ成リ血管外ニ出ツルト

キハ其ノ大分ハ凝結シテ血餅(血球及纖維素)トナリ一部ハ清澄ノ液トナル血清是レナリ

血液ヲ分チテ二種トス動脈管ヲ流ルル鮮紅ナル血液ヲ動脈血ト云ヒ靜脈管ヲ通ル暗赤ナル血液ヲ靜脈血ト云フ

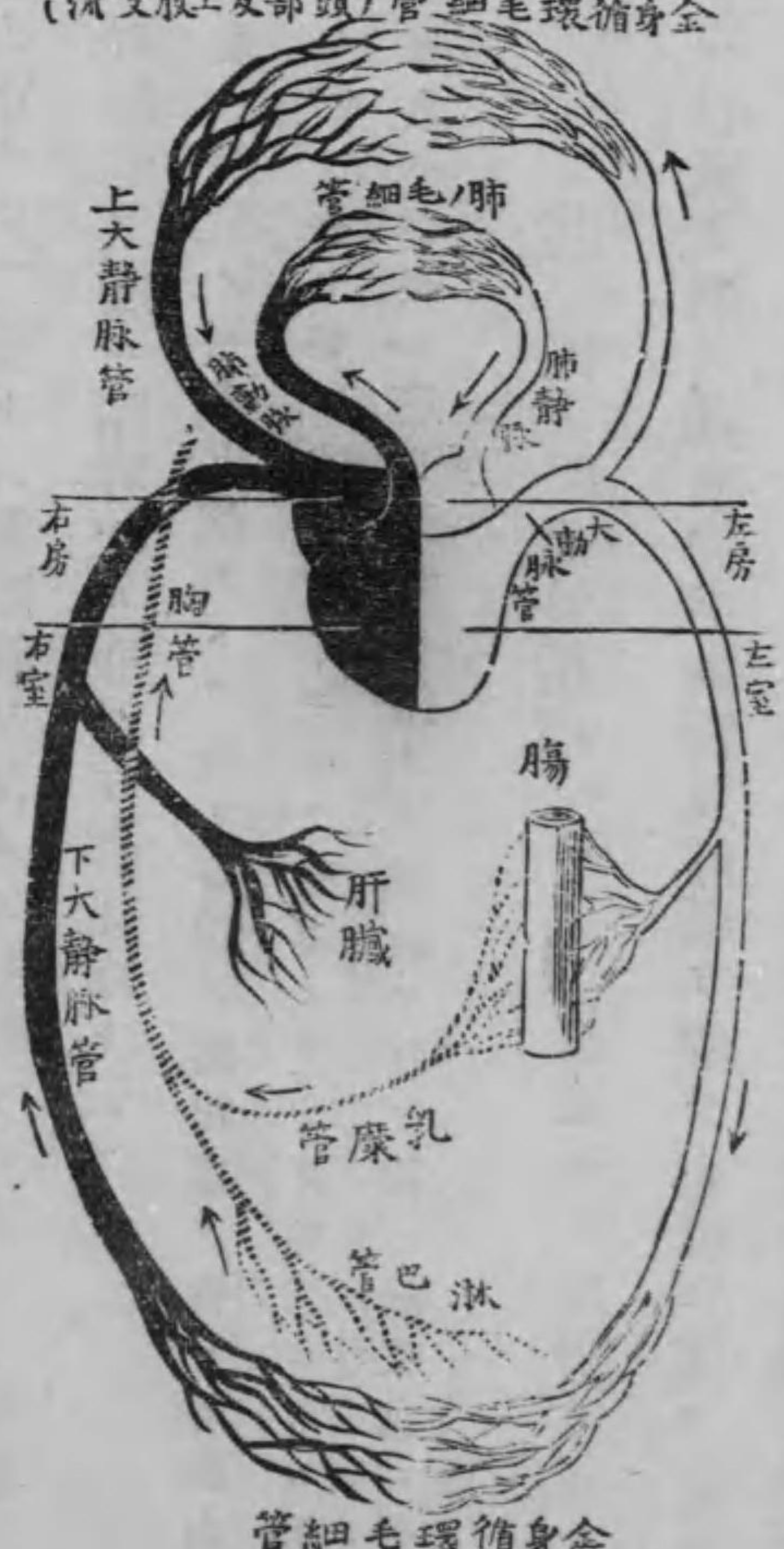
動脈血ハ多量ノ養素ト酸素トヲ含ミ身體ノ諸組織ヲ養ヒ靜脈血ハ既ニ身體ヲ養ヒ終リタルモノニシテ酸素ニ乏シク炭酸ニ富ム而シテ靜脈血ハ心臟ニ還リ肺臟ヲ循リテ酸素ヲ取り再ヒ動脈血ニ變ス

其四 血液循環

血液ハ心臟ヲ出テ動脈、毛細管及靜脈ヲ經テ心臟ニ還リ更ニ又血管中ニ流出シテ間斷ナク全身ヲ循行ス之ヲ血液循環ト云フ

第三十二圖
全身循環毛細管(頭部及上肢文流)

血液循環ヲ分チテ大小ノ二種トス大循環全身循環トハ血液心臟ノ左室ヨリ出テ大動脈管ヲ過キ進ミテ其ノ枝ニ入り毛細管ヲ經テ靜脈管ニ入り遂ニ心臟ノ右房ニ開口セル大靜脈管ヲ通過シ心臟ニ還ルヲ云ヒ小循環(肺循環)トハ心臟ニ還リタル血液、心臟ノ右室ヨリ肺動脈ヲ經テ肺ニ入り肺胞ノ毛細管ヲ經テ肺靜脈ニ入り心臟ノ左房ニ還ルヲ云フ



此ノ如ク血液ノ循環スルハ心臟ノ縮張スルニ因ル即チ心房膨張スレハ大靜脈及肺動脈中ノ血液之ヲ盈タシ心房收缩スレハ心室膨張シテ心房ノ血液ヲ受ケ次テ心室收缩シ其ノ血液ヲ大動脈管及肺動脈管ニ射出ス

其五 動悸及脈搏

心室收缩スルトキハ心臟ノ胸壁ニ接スル部少シク隆マリ指ヲ貼スレハ之ヲ觸知ス名ケテ動悸(心尖搏動又ハ心悸)ト云ヒ此ノ時聞ユル音ヲ心音ト云フ心音ハ胸壁ノ心臟ニ耳ヲ當ツルトキ聽ク

コトヲ得ヘシ健康ナル大人ノ動悸ハ一分時間ニ六十乃至八十平均七十二トス

動脈ハ動悸毎ニ搏動ス之ヲ脈搏ト云フ皮膚面ヨリ脈搏ヲ觸知スルコトヲ得ヘキ主要ナル動脈及其ノ部位ハ左ノ如シ

總頸動脈

喉頭ノ兩側

鎖骨下動脈

鎖骨上窩

腋窩動脈

腋毛發生部

上膊動脈

上膊内側及肘

橈骨動脈

前膊前面ノ下部橈骨側

尺骨動脈

前膊前面ノ下部尺骨側

股動脈

腹股接際

第二 淋巴管系

其一 淋巴管

身體中ニハ血管ノ外ニ透明ナル淋巴管液ヲ充テタル細管アリ之ヲ淋巴管(水脈管)ト云フ

淋巴管ハ血管ノ如ク全身各部ニ分布シテ組織間隙ニ浸出シタル淋巴液ヲ收メ之ヲ血管ニ送ル其ノ本管ハ胸腔ノ後部ニ於テ背椎ノ側ニ在リ之ヲ胸管ト云フ胸管ハ大靜脈ニ開口シ腸ノ淋巴管ニ於テ吸收シタル乳白色ノ液乳糜液ヲ含ムヲ以テ一ニ乳糜管ト名ク(第三十二圖)

其二 淋巴腺

淋巴腺（水脈腺）ハ淋巴管ノ行路ニ於テ處處ニ存在シ淋巴中ノ夾雜物ヲ抑留ス

淋巴液中ニ夾雜物ヲ混スルトキハ淋巴腺ノ之ヲ抑留スルコト恰モ濾過器ノ如シ而シテ此ノ抑留セラレタル物質有害物ナルトキハ淋巴腺ハ腫脹疼痛ヲ發ス腫脹シタル淋巴腺ヲ觸知スヘキ部ハ鼠蹊腋窩頸下頸側等ナリ

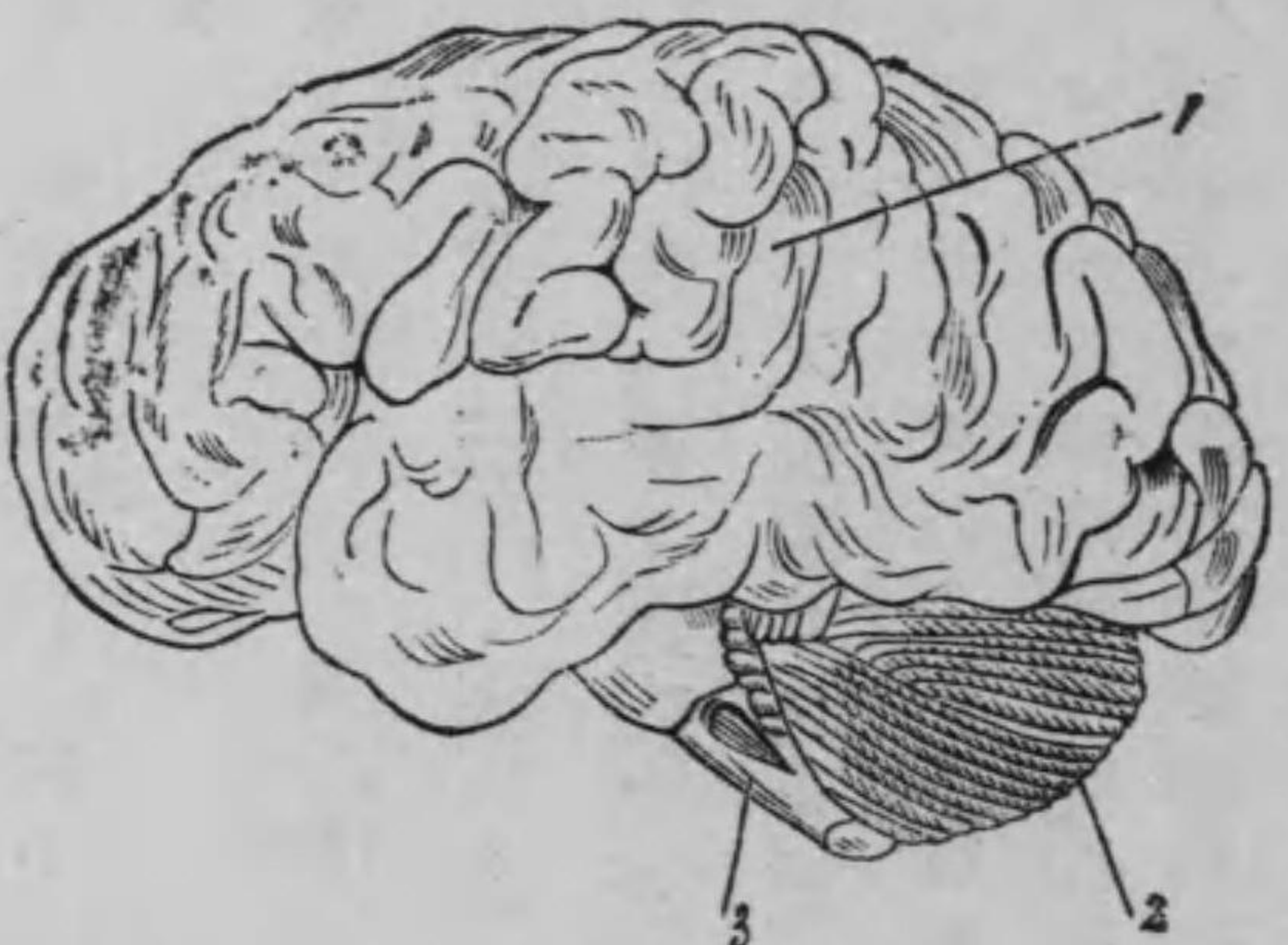
第八章 神經系

神經系トハ腦、脊髓及神經ノ總稱ニシテ神經ハ感覺及運動ヲ媒介シ腦及脊髓ヨリ起ルモノナリ

第一 腦

腦ハ頭蓋腔内ニアリ分チテ大腦、小腦及延髓トス（第三十三圖）

第三十三圖



1 大腦
2 小腦
3 延髓

大腦ハ頭蓋腔ノ前上部ニ小腦ハ後下部ニ延髓ハ腦ト脊髓トノ中間ニ在リ
大腦ノ皮質ハ灰白色ニシテ髓質ハ純白ナリ兩質殊ニ皮質中ニハ細キ血管アリテ網狀ヲナス
腦ノ全面ハ三層ノ膜ニテ被ハル其ノ上層ヲ硬腦膜中層ヲ蜘蛛膜下層ヲ軟腦膜ト云

第一 脊髓

脊髓ハ腦ノ延長シタルモノニシテ大後頭孔ヨリ頭蓋腔ヲ出テ脊椎管ニ入ル

脊髓ハ腰椎ノ部ニ於テ細小ナル數多ノ纖維ニ分ル之ヲ馬尾神經ト云フ

脊髓モ亦腦ノ如ク三層ノ膜ヲ以テ被ハル

第三 神經

神經ハ白色ニシテ彈力アル索狀ノモノニシテ纖維束ヨリ成リ神經鞘ニヨリテ包圍セラレ數多ノ枝ヲ出シ全身ニ分布ス

腦神經ハ十二對アリ之ヲ嗅神經、視神經、動眼神經、滑車神經、三叉神經、外旋神經、顔面神經、聽神經、舌咽神經、迷走神經、副神經、舌下神經ト云フ
腦ノ底面ヨリ起リ頭蓋底ノ孔ヲ通過シテ頭蓋腔外ニ出テ其ノ大部

ハ五官及顔面ニ一部ハ内臟及筋肉ニ分布ス

脊髓神經ハ三十一對アリ之ヲ頸椎神經(八對)、背椎神經(十二對)、腰椎神經(五對)、薦骨神經(五對)、尾閭骨神經(一對)ト云フ
脊髓ヨリ起リ脊柱ノ兩側ナル椎間孔ヲ出テ漸ク岐レテ軀幹、内臟及四肢ニ分布ス

第四 神經系ノ作用

腦、脊髓ハ神經系ノ中心ニシテ脊髓ハ主トシテ軀幹及四肢ノ神經ト腦トノ媒介ヲナシ腦ハ感覺及運動ヲ掌リ意識、判斷、思考等精神ノ舍ル處ナリ

外界ノ事ハ神經ニ傳ハリテ腦ニ達シ此處ニ於テ知覺セラル(痛痒、寒熱等)此ノ神經ヲ知覺神經ト云フ又意思ハ他ノ神經ニ導カレテ腦ヨリ筋ニ達シ筋ノ作用ニヨリ發表セラル(運動、言語等)此

ノ神經ヲ運動神經ト云フ之ニヨリテ觀レハ神經ノ作用ハ恰モ電線ノソレニ異ナラス

第九章 五官器

知覺神經ノ岐レタル末ニハ一種ノ器アリテ外界ノ事變ヲ受ケテ知覺神經ニ傳フ之ヲ五官(觸官、味官、嗅官、聽官、視官)ト云ヒ其ノ之ヲ掌ル器ヲ五官器ト云フ即チ觸器、味器、嗅器、聽器及視器是レナリ

第一 觸器

觸器ハ皮膚ニ存在ス皮膚ノ中ニアル無數ノ乳嘴中ニ包藏セラレタル神經末端ハ外界ノ刺戟(痛痒、寒熱、粗密、硬軟等)ヲ受ケテ

之ヲ腦ニ傳フ

觸官ハ皮膚ノ部位ニヨリテ銳鈍ノ差アリ是レ其ノ中ニ存スル乳嘴ノ多少及排列ノ粗密ニヨルモノニシテ指頭、口唇ハ最モ銳ク背部、腰部、臀部ハ最モ鈍シ

第二 味器

味器ハ舌ニ存在ス舌ハ筋ヨリ成リ口腔内上下顎ノ間ニアリテ口腔ノ後部即チ咽頭ニ至リ種種ノ筋ヲ以テ下顎骨、顚顚骨及舌骨ニ聯リ(舌根)咀嚼、言語ニ方テ諸般ノ運動ヲナス

舌背ニハ肉眼ヲ以テ見ルコトヲ得ヘキ大小無數ノ乳頭アリ乳頭中ニハ微細ナル神經末端ヲ包藏シ甘、酸、苦、鹹、澁、辛等ノ味覺ヲ掌ル

味覺ハ唾液ニ溶解スル物ニアラサレハ之ヲ感スルコトナシ

第三 嗅器

嗅器ハ鼻ニ存在ス鼻ハ軟骨及硬骨ヨリ構成セラレタル腔(鼻腔)ニシテ中隔ニヨリテ左右ニ二分セラレ(鼻中隔)内面ハ粘膜ヲ以テ被ハル

鼻腔ハ前後ニ開口シ後口ハ咽頭ニ開ク嗅神經ハ腦ヲ出テ鼻腔壁ニ至リ其ノ粘膜炎中ニ岐ル

嗅覺ハ空氣中ニ飛散シアリテ鼻粘膜ニ觸ルル揮發性ノ物ニ限リテ感ス嗅器ハ味器ト親シキ關係ヲ有シ其ノ位置近ク大ニ味覺ヲ助クルモノナリ

第四 聽器

聽器ハ耳ニ存在ス耳ヲ外耳、中耳及内耳ニ分ツ(第三十四圖及第三十五圖)

外耳ハ耳翼、外聽道及鼓膜ヨリ成ル耳翼ノ中央ニアル孔ハ外聽

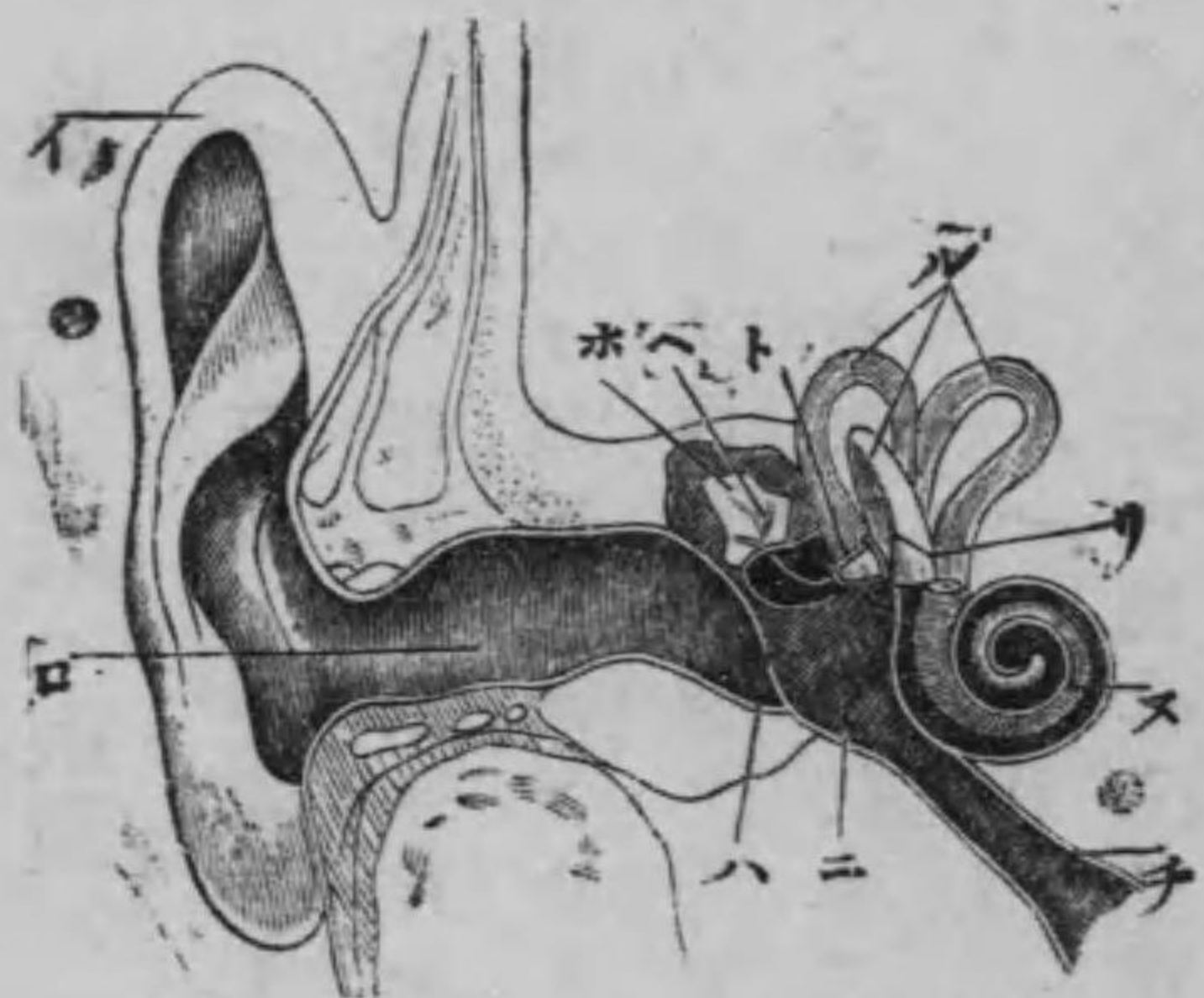
道ノ門ニシテ細毛アリ外

聽道ハ稍々彎曲シ内部ニ

ハ腺アリテ叮嚙ヲ出シ蟲、

塵等ノ耳中ニ入ルヲ防ク

第三十四圖



- イ耳翼
- ロ外聽道
- ハ鼓膜
- ニ鼓室
- ホ槌骨
- ヘ砧骨
- ト鐙骨
- チ耳喇叭管
- リ前庭
- ヌ蝸牛殼
- ル三半規管

第三十五圖



- イ外聽道
- ロ鼓膜
- ハ鼓室
- ニ槌骨
- ホ砧骨
- ヘ鐙骨

而シテ外聽道ノ底ハ鼓膜ニテ塞カル

中耳(鼓室)ニハ三個ノ小骨アリ槌骨砧骨及鐙骨是レナリ此ノ小骨ハ相連合シテ一端ハ鼓膜ニ接シ他端ハ鼓室内壁ノ卵圓孔ニ接ス故ニ音響耳ニ入り鼓膜振動スルトキハ小骨モ共ニ振動シテ其ノ振動ヲ卵圓孔ヲ經テ内耳ニ傳フ鼓室ハ耳喇叭管(歐氏管)ニヨリテ咽頭ニ聯ル此ノ管ハ鼓膜内外ノ氣壓ヲ平均シ且中耳ノ分泌物ヲ排除スルノ用ヲナス

鼓室ノ内壁ニハ小圓孔アリ顛顛骨ノ内部(内耳)ニ界ス

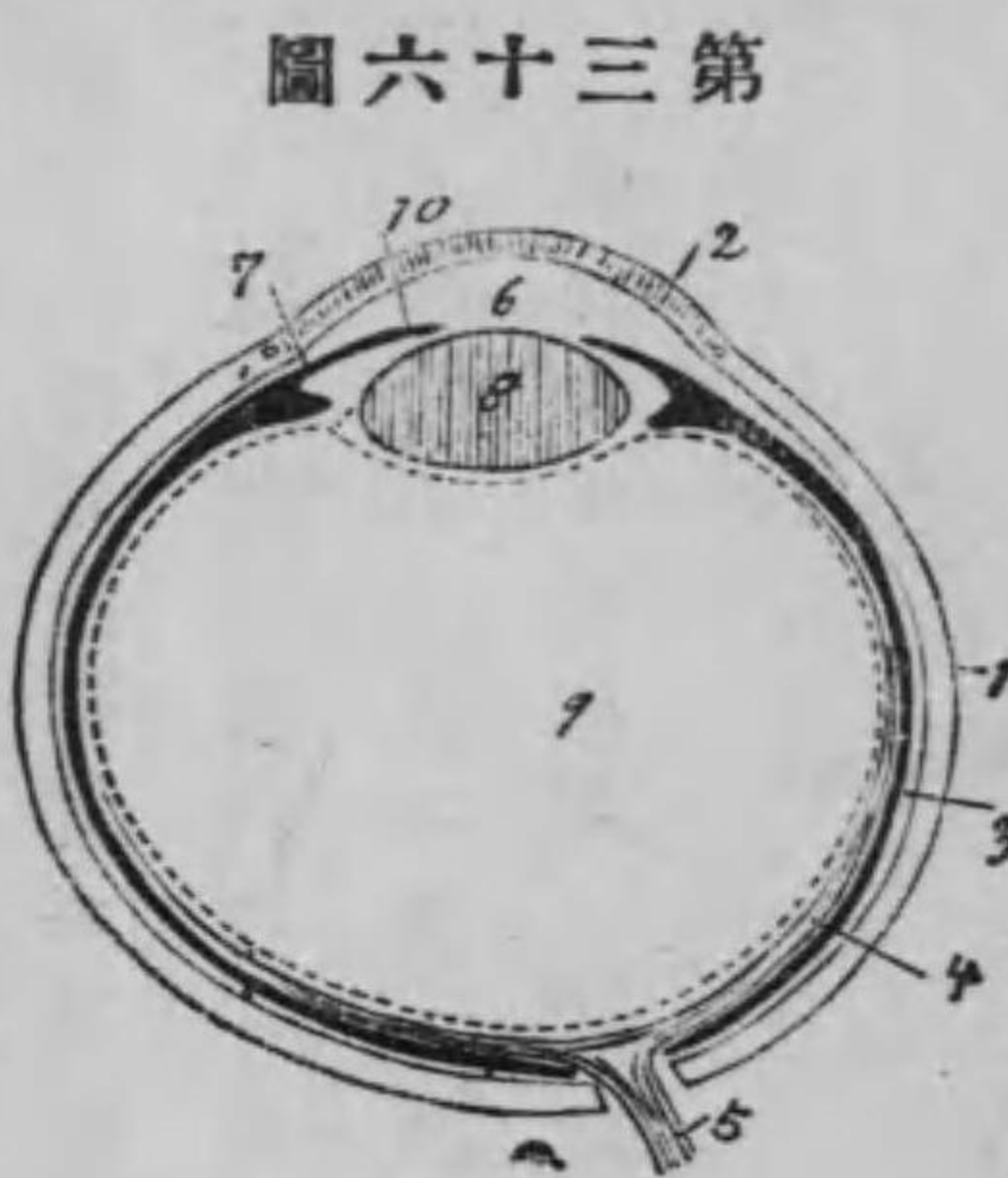
内耳(迷路)ハ前庭、蝸牛殼及三半規管ヨリ成リ聽神經ノ分布スル處ナリ

第五 視器

視器ハ主ニ眼球ニ存在ス其ノ周圍ニハ補助器及保護裝置アリ

其一 眼球

眼球ハ數種ノ液ヲ含メル球體ニシテ數層ノ膜ヲ以テ包マレ眼窩ノ前半部ヲ充填スルモノナリ(第三十六圖) 眼球ノ膜ヲ分テ左ノ四種トス



眼 球 地 平 斷

- 1 鞏膜
- 2 角膜
- 3 脈絡膜
- 4 視網膜
- 5 視神經
- 6 前房
- 7 後房
- 8 水晶體
- 9 硝子體
- 10 虹彩

一 鞏膜(白膜) 鞏膜ハ眼球

ノ外層ノ後大部ニシテ其ノ形態ヲ維持シ眼筋ノ附著スル處ナリ

二 角膜 角膜ハ眼球外層

ノ前小部ニシテ透明ナリ

眼球内ニ光線ヲ通ス

三 脈絡膜 脈絡膜ハ鞏膜ノ下ニ在リテ内面黑色ヲ呈ス

四 網膜 網膜ハ眞ノ視器ニシテ視神經ハ腦ヲ出テ眼窩底ノ視神經孔ヲ過キ鞏膜ノ後底ヲ貫キテ眼球内ニ入り微細ニ岐レテ此ノ膜トナル

以上諸膜ノ内部ニハ無色透明ニシテ膠様ノ粘リタル物體ヲ藏ス之ヲ硝子體ト云フ

硝子體ノ前面中央ノ稍ミ窪ミタル處ニハ無色透明ニシテ兩凸連子ノ形狀ヲナセル水晶體アリ水晶囊ヲ以テ被ハル

水晶體ノ前面ト角膜ノ後面トノ間ニ房アリテ無色透明ノ液ヲ充タス之ヲ房水ト云フ房ハ人ニヨリ色ノ異レル虹彩ニヨリテ前房

及後房ニ分タル日本人ノ虹彩ハ概ネ黒褐色ナリ
虹彩ハ車輪ノ如ク中央ニ孔アリ之ヲ瞳孔ト云フ瞳孔ハ明處ヨリ暗處ニ入ルトキハ散大シ之ニ反スルトキハ縮小シ以テ眼内ニ入ル光線ヲ調節ス

其二 補助器及保護裝置

補助器及保護裝置トハ眼筋、涙器、眼瞼及之ニ屬スル睫毛竝眉毛ヲ云フ

眼筋ハ眼窩内ニ於テ眼球ニ附着シ眼球ヲ諸ノ方向ニ自由ニ動かスモノナリ眼筋ノ力ハ互ニ平均シアルカ故ニ若一筋ニ障害アルトキハ眼球ハ一方ニ傾クヘシ之ヲ斜視ト云フ
眉毛ハ光線ヲ調節シ頭及額ヨリ流下スル汗ヲ支ヘテ外方ニ導ク

眼瞼ハ眼窩ノ前縁ニ在リテ上眼瞼及下眼瞼ニ分タル上下眼瞼ハ筋ノ運動ニヨリテ相近ツキ眼球ノ前面ヲ被ヒ容易ク運動ス眼瞼ノ眼球ニ對スル面ハ血脈ト稱スル粘膜ヲ以テ被ハル此ノ膜ハ血管ニ富ミ翻リテ眼球ノ前面ヲ被ヒ角膜ニ達ス

睫毛ハ眼瞼縁ニアリテ強キ光線又ハ蟲塵等ノ入ルヲ防ク

涙腺ハ外眥部ニ在リテ涙液ヲ出ス涙液ハ瞬ニヨリテ眼球全前面ヲ潤シ其ノ剩餘ハ内眥部ニ位スル涙小管ヲ過キテ涙囊ニ達シ更ニ涙管ニヨリテ鼻腔ニ通ス涙液ハ又睫毛内ニ入ル塵ヲ除ク用ヲナス

其三 視覺及視力検査

物體ヨリ發スル光線ハ角膜ヲ透射シ虹彩ハ射入スル光線中過剰ノモノヲ遮リ整然タル光線ノミ瞳孔ヲ通過シシメ其ノ光線水晶

體ニ達スルトキハ適宜ニ屈折セラレ網膜上ニ物像ヲ印ス此ノトキ視神經ハ之ヲ腦ニ傳ヘ以テ物體ハ明視セラル之ヲ正視ト云フ

光線ノ集合點正シク網膜ノ上ニ在ラスシテ其ノ前方又ハ後方ニ在ルトキハ物像明ナラス甲ヲ近視、乙ヲ遠視ト云フ

近視ヲ矯正スルニハ凹面鏡、遠視ヲ矯正スルニハ凸面鏡ヲ用ユ

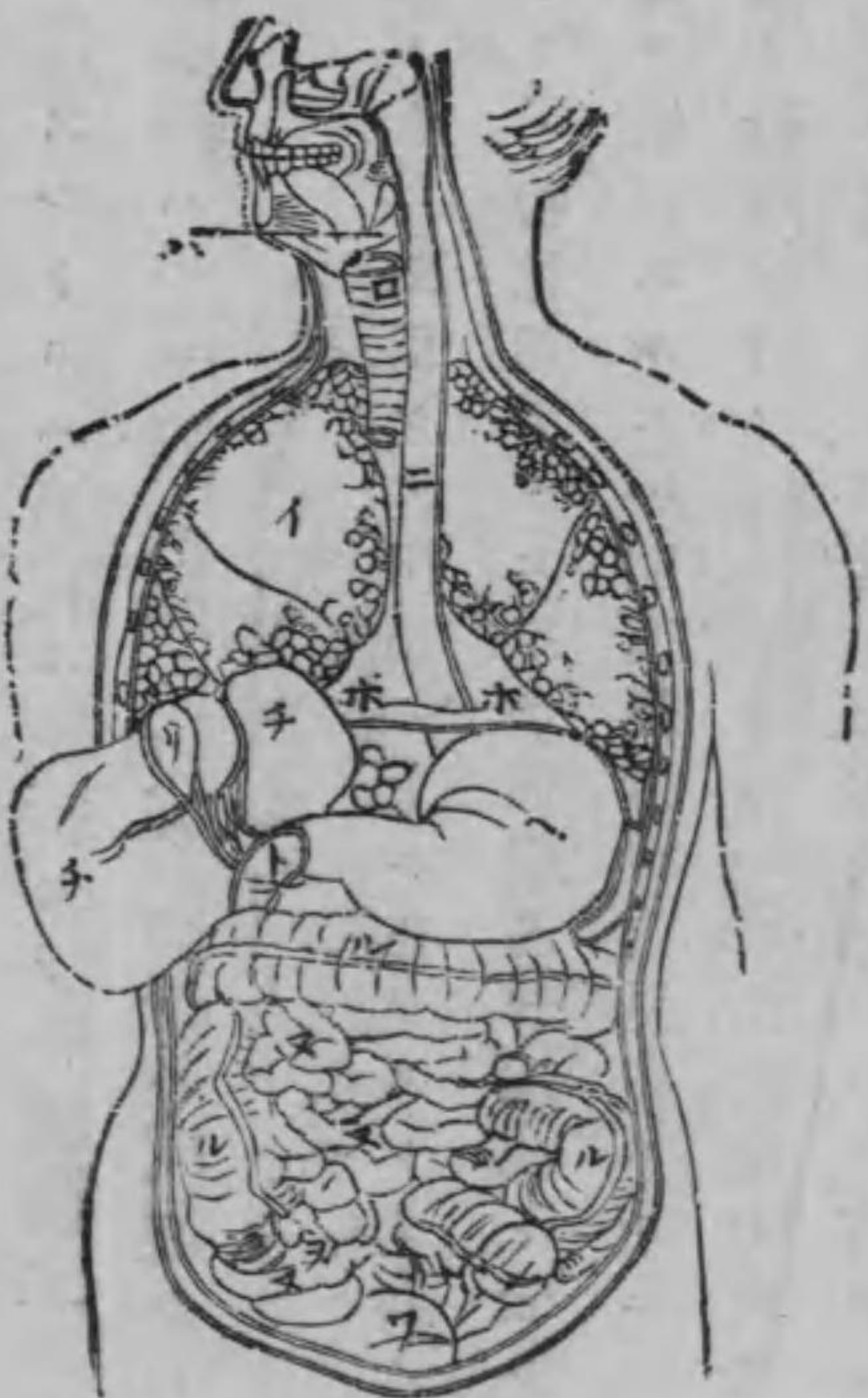
視力ノ検査ヲ行フニハ、スネルン氏試視力表ヲ用ウ試視力表ハ検査ヲ行フ室ノ最モ明處ニ大約眼ト同一ノ高サニ懸ケ受檢者ヲ二十尺ノ距離ニ立タシメ先ツ偏眼ヲ以テ次ニ兩眼ヲ以テ表ノ小ナル號ヲ見セシメ其ノ形狀ヲ問フヘシ視力ヲ記スルニハ表ノ號數ヲ分母トシ距離ヲ分子トス例之ハ三十號ハ $\frac{20}{30}$ 四十號ハ $\frac{20}{40}$ ノ如シ又天候ニヨリ室内暗キトキハ檢者ハ自己ノ視力ニ比シテ判斷スルヲ要

ス

第十章 内臓

内臓ハ軀幹ノ内腔ニ存ス其ノ胸腔ニ在ルヲ胸腔内臓、腹腔ニ在ルヲ腹腔内臓ト云フ(第三十七圖)

第三十七圖



イ	肺臓	ロ	気管
ハ	膈軟骨	ニ	食道
ホ	横膈膜	ヘ	胃
ト	十二指腸	チ	肝臓
リ	膽嚢	メ	小腸
ル	大腸	ナ	虫様垂
ワ	膀胱		

胸腔ノ周圍ハ胸廓ヨリ成リ底面ハ横膈膜ト名ツクル膜狀ノ筋ニヨリテ腹腔ニ界シ上口ハ氣管、食道、血管、神經及胸管ヲ通ス胸廓ノ内面ハ胸膜(肋膜)ヲ以テ被ハレ腔内ニハ肺、心臟、大血管、食道及胸管アリ

腹腔ハ胸腔ノ下ニ位シ骨盤、脊柱及肋骨ノ間ニ張ラレタル筋ニヨリテ界セラレ下底ハ會陰ニ對ス

腹腔ノ内面ハ腹膜ヲ以テ被ハレ腔内ニ消化器(胃、腸、肝、脾、膵)泌尿器(腎、輸尿管、膀胱)及生殖器ヲ包藏ス

腹腔ハ前腹壁ノ表面ニ於テ第十二肋骨ノ間ニ設ケタル第一横線ト腸骨前上棘ノ間ニ設ケタル第二横線トヲ境界トシ上腹部、中

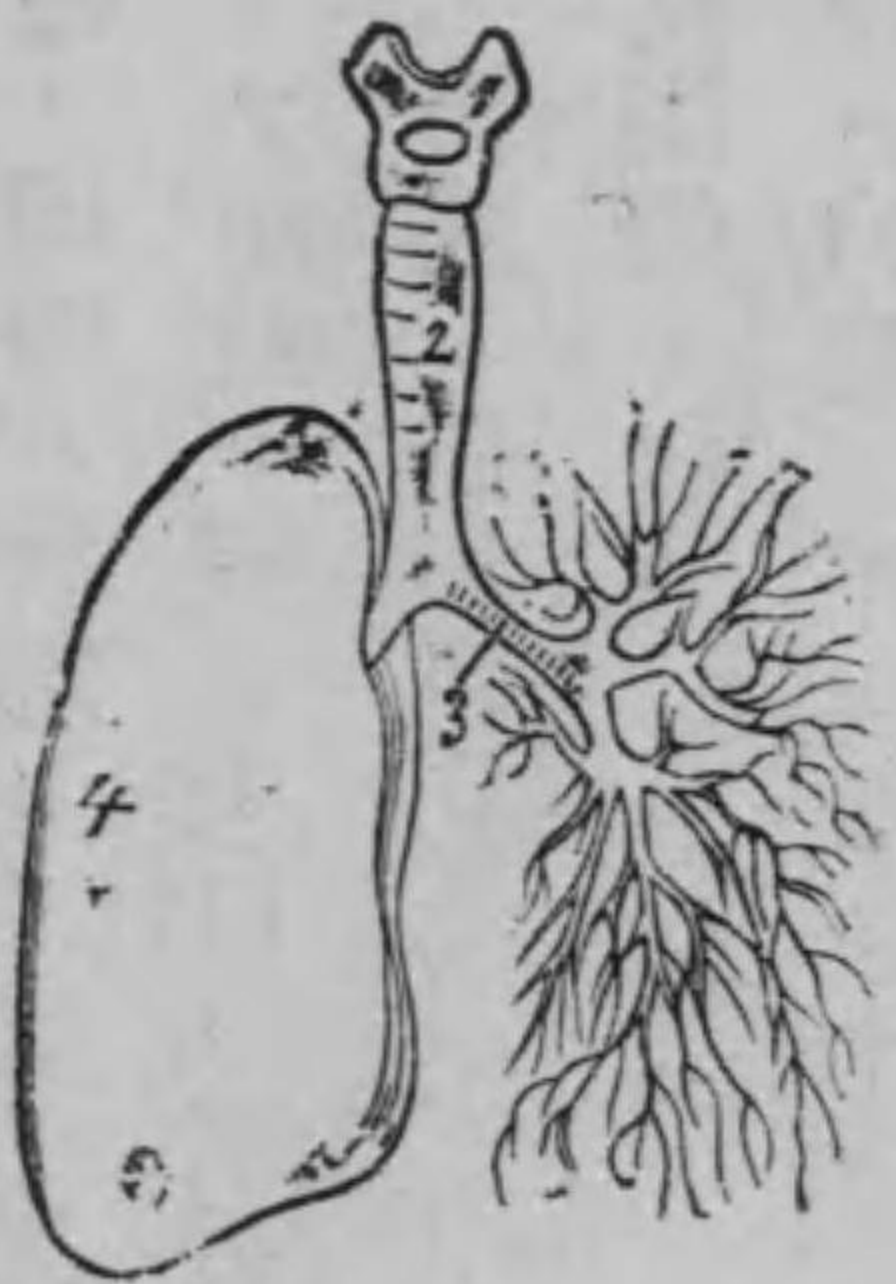
腹部、下腹部ノ三部ニ分ツ

第十一章 呼吸器

第一 呼吸器

呼吸器ハ呼吸及音聲ヲ掌ルモノニシテ喉頭、氣管及肺ヨリ成リ
鼻腔及咽頭モ亦之ニ與ル(第三十八圖)

第三十八圖



- 1 喉頭
- 2 氣管
- 3 氣管枝
- 4 肺

鼻腔ハ吸氣ヲ温メ且前部ニ短キ毛ヲ有シ大氣中ノ塵ヲ去ル
咽頭ハ鼻腔ノ後下方ニ位シ其ノ粘膜ニハ無數ノ粘液腺アリ

喉頭ハ頸部中央ノ皮下ニ隆マリ一ノ腔洞ヲ成ス下口ハ氣管ニ移リ
上口ハ咽頭ニ通シ左右ニ聲帶張リテ狹小ナル破裂ヲナス之ヲ聲門
ト云フ喉頭ノ前上方ニハ會厭軟骨ト云フモノアリテ嚥下ノ際喉頭
ノ上口ヲ閉ツ

氣管ハ上ハ喉頭ニ連リ脊柱ノ前面ニ於テ食道ノ前ヲ下行シ第四背
椎ノ處ニ於テ左右二枝ニ岐レ肺中ニ入り更ニ岐レテ無數ノ氣管枝
トナリ肺胞(氣胞)ニ達ス

肺ハ無數ノ肺胞ヨリ成リ肺胞ノ膜ニハ肺動脈ノ末梢タル毛細管分
布スルカ故ニ肺胞ニ入りタル大氣ノ酸素ハ直ニ血中ニ吸收セラレ
血中ノ炭酸ハ肺胞中ノ大氣ニ放散シ以テ血液ヲ清鮮ナラシム

第二 呼吸

呼吸トハ吸息ニヨリ肺中ニ入りタル大氣中ノ酸素ヲ血中ニ吸收

シ血中ノ酸素ヲ其ノ大氣ニ附與シ呼吸ニヨリテ之ヲ體外ニ排除スル處ノ生活ニ主要ナル動作ヲ云フ

吸息ヲナストキハ胸廓ニ附着スル呼吸筋作用シテ胸廓ヲ擴張セシム胸廓擴張スレハ肺モ亦膨張シテ胸壁ニ觸接ス此ノ時體外ノ大氣ハ鼻腔、咽頭、喉頭及氣管ヲ經テ肺胞ニ達ス呼吸ヲナストキハ胸廓收縮シ肺胞ニ入りタル大氣ノ入りタルトキト同一ノ道ヲ通過シテ體外ニ排出セラル

大人ノ呼吸ハ一分間十五乃至十八回ナルヲ常トシ劇動又ハ或ル疾病ニヨリテハ其ノ數三十回乃至五十回ニ達スルコトアリ之ヲ呼吸困難ト云フ

第三 音聲及言語

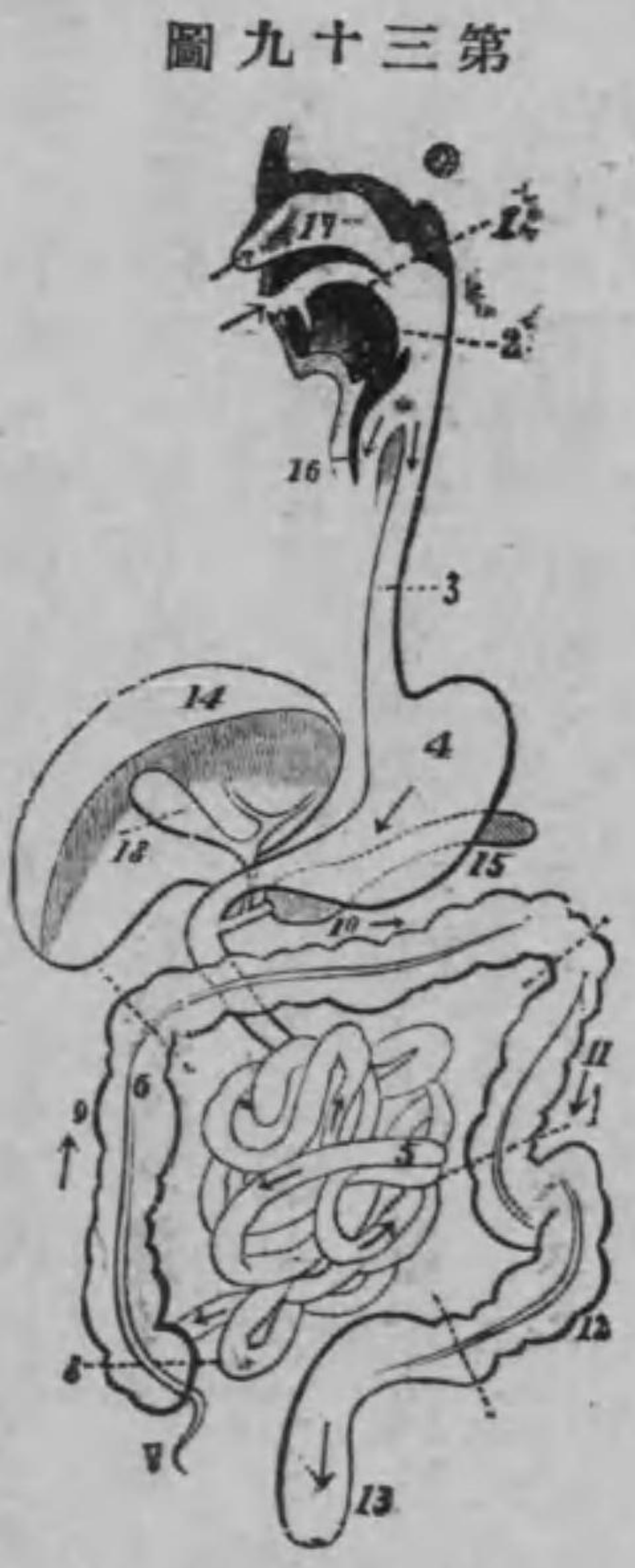
音聲ハ呼吸ヲナストキ大氣喉頭内ノ聲帶ニ觸レテ之ヲ顫動セシムルニヨリテ發ス

聲帶ハ小筋ノ作用ニヨリテ或ハ張り或ハ弛ミ音聲ノ高低ヲ調節ス聲帶張りタルトキハ其ノ音聲高ク弛ミタルトキハ其ノ音聲低シ言語ハ各種音聲ノ連續ニヨリテ成ルモノナレトモ聲帶ノミニヨリテ發スルモノニアラス舌、口内、齒牙及唇ノ共動ニヨリテ始テ成就ス聲帶ヲ顫動スルコトナク發スル言語ハ此ヲ呬語(私語)ト云フ

第十二章 榮養器

第一 榮養器

榮養器トハ消化管及之ニ聯レル腺體即チ唾腺、肝、膵ヲ云フ消化管ハ口腔ヨリ肛門ニ至ル間ニ在リテ口腔、咽頭、食道、胃及腸ニ分タル(第三十九圖)



18 喉 肝
囊 頭 14
17 15 13 12 11 10 9 8 7
鼻 腔 直 S 下 橫 上 盲 蟲
腔 腸 字 行 行 行 結 結 結 樣
腸 部 腸 腸 腸 腸 垂

口腔内ニハ食物ヲ消化スルニ必要ナル齒牙、舌及唾腺ヲ具フ唾腺ニ三種アリ舌下腺、顎下腺及耳下腺是レナリ共ニ唾液ヲ出ス

圖九十三第

口腔ノ上壁ヲ口蓋ト云ヒ其ノ前部ヲ硬口蓋、後部ノ柔軟ナル部ヲ軟口蓋ト稱ス其ノ後端ノ中央ニ懸壅垂アリ懸壅垂ノ兩縁ノ下行シテ舌根ニ達スルヲ口蓋弓(前口蓋弓、後口蓋弓)ト云ヒ前口蓋弓ノ間ニ在ル腺ヲ扁桃腺ト云フ(第四十圖)



1 硬口蓋
2 軟口蓋
3 懸壅垂
4 前口蓋弓
5 後口蓋弓
6 扁桃腺

咽頭ハ口腔ノ後部ニシテ上部ハ鼻腔ニ通シ下部ハ漏斗狀ヲナシテ食道ニ移ル

食道ハ氣管ノ後方、頸椎及背椎ノ前ヲ稍々左側ニ沿フテ下リ横膈

圖十四第

膜ヲ穿チ腹腔ニ入り胃ニ連ル

胃ハ大ナル膜囊ニシテ上下二口ヲ有ス其ノ上口ハ食道ニ通ス之ヲ賁門ト云ヒ心窩部ニ在リ賁門ヨリ左ニ向ヒテ囊狀ヲナス部ヲ胃底ト云フ脾ニ接スル處ナリ下口ハ腸ニ移ル部ニシテ肝ニヨリテ覆ハル之ヲ幽門ト云フ上腹部ノ右側ニ在リ幽門ニハ括約筋アリテ之ヲ閉ツルコトヲ得其ノ形指環ノ如シ胃ノ粘膜ニハ無數ノ腺アリ此ヲ胃腺ト云フ透明ニシテ酸性ナル胃液ヲ出ス

腸ハ膜狀ノ管ニシテ腹腔内ニ充填シ胃ノ幽門ニ始マリ肛門ニ終ル分テ小腸、大腸ノ二トス

小腸ハ更ニ分テ三部トス其ノ上端ヲ十二指腸ト云ヒ長サ約十二指

横徑ヲ算ス膽汁及胰液此處ニ注ク是ヨリ以下ヲ空腸ト云ヒ下端ヲ回腸ト云フ

大腸ヲ分テ盲腸、結腸及直腸ノ三部トス盲腸ハ大腸ノ起始ニシテ形狀囊ノ如ク底ニ口ナク盲囊狀ヲナスヲ以テ此ノ名アリ囊底ニハ細長ナル蟲様垂(蟲様突起)アリ盲腸ト回腸トノ間ニ在ル瓣膜ヲ回盲瓣ト云フ

結腸ハ大腸中ノ最長キ部ニシテ三部ニ分ル腹腔ノ右側ニ沿フテ上ル部ヲ上行結腸ト云ヒ是ヨリ横ニ胃ノ下部ヲ過クル部ヲ横行結腸ト云ヒ是ヨリ下ル部ヲ下行結腸ト云フ下行結腸ハS字狀部トナリ第五腰椎ノ前ニ於テ直腸トナル直腸ハ薦骨ノ前ニ沿フテ下リ肛門ニ終ル肛門ニハ括約筋アリテ常ニ之ヲ閉ツ腸ノ粘膜ニハ無數ノ小腺アリ消化ニ必要ナル腸液ヲ出ス

肝ハ諸臓中最モ大ナル腺體ナリ上腹部ノ右側ニ位シ横膈膜ノ下面ニ接ス

肝ハ左右二葉ヲナシ其ノ中間ノ前部ニ小膜囊アリ之ヲ膽囊ト云ヒ膽汁ヲ貯フ膽汁トハ肝ヨリ出ツル帶褐黄色ノ苦味液ニシテ膽囊ヨリ十二指腸ニ連ル小管ニヨリテ此處ニ注カル
脾ハ長キ扁平ノ腺體ニシテ胃ノ後ニ在リ殆ント唾液ニ等シキ脾液ヲ出シ之ヲ十二指腸ニ注ク

脾ハ横膈膜下ノ左方ニ於テ胃ト第十一及第十二肋骨トノ間、腎ノ上方ニアリ其ノ質軟且疎ニシテ暗赤色或ハ帶青赤色ヲ呈ス
脾ハ消化ニ關係セスト雖身體榮養ノ基タル血液製造ヲ扶クルモノナリ

腹腔ニハ内臓ヲ包ミ之ヲ繋テ其ノ位置ヲ保タシムル膜アリ之ヲ腸間膜ト云フ又胃及結腸ノ一部ヨリ腹壁ノ後ニ沿フテ下降スル膜アリ大ニシテ其ノ形狀籐ノ如シ之ヲ腹網膜ト云フ

第二 消化及榮養

其一 消化

身體ノ成分ハ運動、呼吸、蒸散、發溫及其ノ他ノ生活作用ノ爲ニ絶エス消耗セラルルモノニシテ之ヲ補給スルモノハ飲食ナリ而シテ飲食中ノ養素、血中ニ入ルニハ先ツ消化セラルルヲ要ス
消化ノ作用ハ左ノ如シ

固形ノ食物ハ口内ニ入り齒牙ニ由リテ咀嚼セラレ唾液ニ逢ヒ一

部ハ溶解シテ嚥下セラル

食物ヲ嚥下スルトキハ喉頭ノ上口ハ會厭軟骨ニヨリテ閉チラレ鼻腔ヘノ通路ハ軟口蓋及懸壺垂ニヨリ絶タルルカ故ニ食物ハ盡ク咽頭ヲ經テ食道ニ入ル食物既ニ食道ニ入レハ其ノ壁ニ在ル筋ノ收縮ニヨリテ漸ク胃中ニ下ル

食物胃ニ至レハ胃壁ヨリ出ツル胃液ト雜リ粥狀ノモノトナル之ヲ食糜ト云フ食糜ヲ成スニハ食物ノ種類ニ從ヒ一乃至六時間ヲ費ス

食糜ハ幽門ヨリ出テ腸ニ至リ膽汁、膵液及腸液ト混ス此等ノ諸液ハ緊要ナル消化液ニシテ食物中ノ各種ノ養素ヲ溶解シテ乳糜トナシ之ヲ小腸ヨリ吸收セシム而シテ食物中ノ溶解セラレサル

モノハ腸ノ蠕動機ニヨリテ漸次下降シ終ニ直腸ニ達ス但シ直腸ニ達スルモ肛門ニハ括約筋アリテ之ヲ閉ツルカ故ニ妄リニ漏ルルコトナシ然レトモ直腸ノ内容増加スルトキハ便意ヲ催シ括約筋開キテ體外ニ排泄ス之ヲ排便ト云フ

身體ヲ保ツニ要スル養素ハ一分ハ直ニ胃壁ノ血管ヨリ大分ハ腸ノ内面ニ在ル淋巴管(乳糜管)及血管ノ末端ヨリ吸收セラル其ノ淋巴管ヨリ吸收セラレタルモノハ胸管ニ入り左側ノ鎖骨下靜脈ニ注ク此ノ如クニシテ食物中ノ養素ハ血中ニ混シ全身ノ組織ニ分配セララルモノナリ

其二 榮 養

身體ノ榮養ヲ完全ナラシムルニハ生活作用ニヨリテ消耗シタル
體質ノ量ト同量ノ養素ヲ取ルヲ要ス

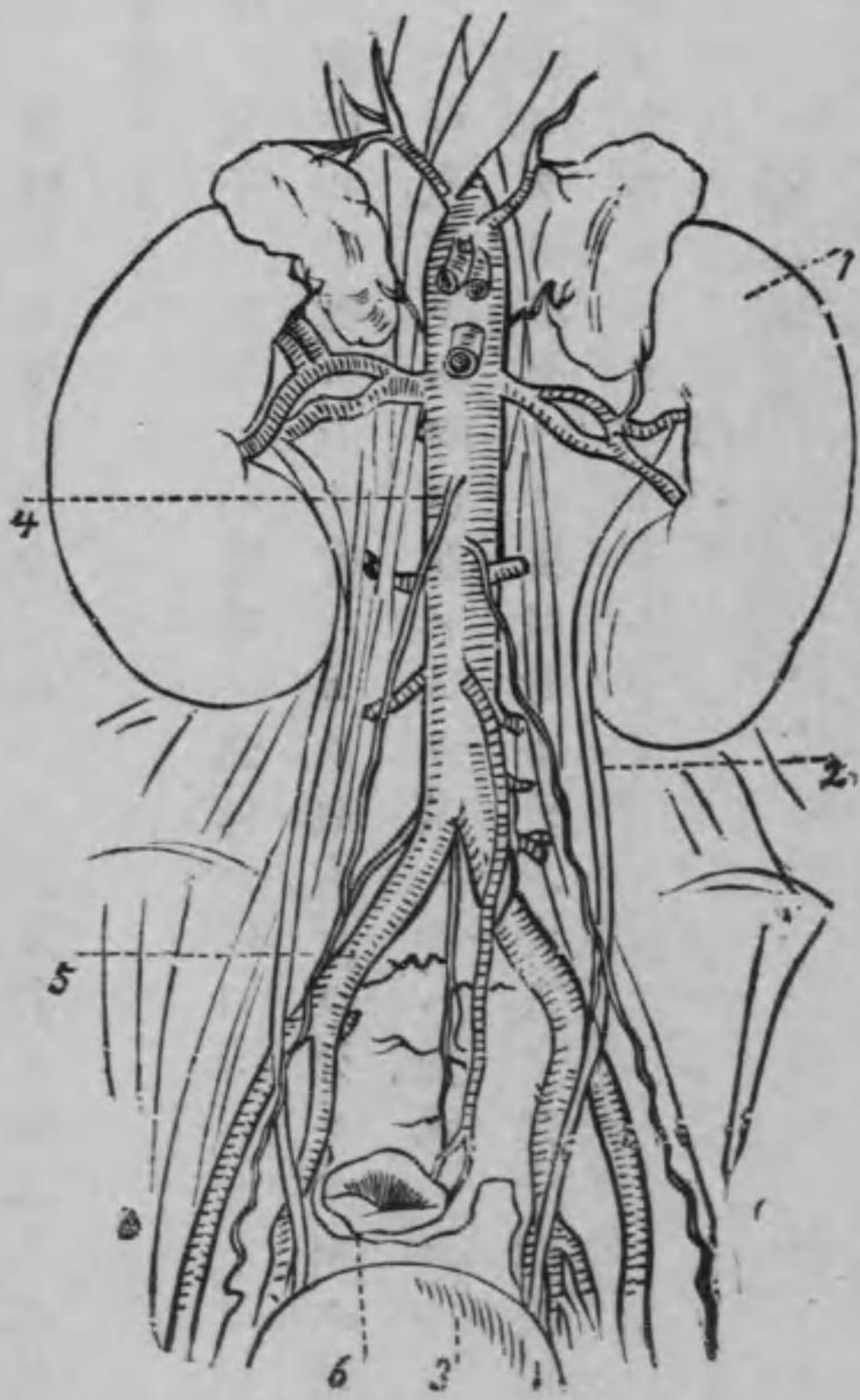
養素トハ蛋白質含水炭素澱粉及糖脂肪鹽類及水ヲ云ヒ食物中ニハ
此等各養素ノ適當ニ配合セラレアルヲ要ス而シテ蛋白質ハ動物性
食品ニ多ク含水炭素ハ植物性食品ニ多シ故ニ身體ヲ養フニハ此ノ
二種ノ食品ヲ適當ニ混合シテ食スルヲ要ス

嗜好品(茶、コーヒー)、肉汁、香料、酒類等ハ適當ニ取ルトキハ消
化ヲ助ケ且食物ヲ美味ナラシメ食欲ヲ増ス然レトモ其ノ量多キ
ニ過クレハ却テ消化ヲ害シ臟器ヲ傷フモノナリ

第十三章 泌尿器

泌尿器ハ尿ノ分泌及排泄ヲ掌ル器ニシテ兩腎、兩輸尿管、膀胱及

圖一十四第



- 1 腎
- 2 輸尿管
- 3 膀胱
- 4 腹部大動脈
- 5 總腸骨動脈
- 6 直腸

尿道ヨリ成ル(第四十一圖)
腎ハ第二乃至第四腰椎ノ兩側ニ在リテ形蠶豆ノ如シ泌尿ヲ掌ル
輸尿管ハ細キ膜管ニシテ腎ヨリ斜ニ下降シテ膀胱ノ後下壁ニ連ル

膀胱ハ骨盤腔内、耻骨縫際ノ後ニ在リテ其ノ頸部ニ括約筋アリ此ヨ
リ尿道ニ連ル
尿道ハ男子ニ在リテハ陰莖ノ龜頭ニ開口ス
尿ハ血中ノ廢物ニシテ腎ニヨリ血中ヨリ分チテ出ス琥珀色澄明ノ
液ナリ輸尿管ヲ經テ膀胱ニ入り其ノ中ニ充滿スルトキハ尿意ヲ催
シ尿道ヨリ排泄セラル(排尿健康ナル大人ノ二十四時間ノ尿量ハ約
千五百立方センチメートルナリ)

第十四章 生殖器

男子ノ生殖器ヲ分テ内外ノ二部トス外部ニ屬スルモノハ陰莖及
睪丸ニシテ内部ニ屬スルモノハ精囊及攝護腺ナリ
陰莖ハ末端ヲ龜頭ト云フ龜頭ハ滑動シ易キ軟皮ヲ被ル之ヲ包皮ト

云フ包皮ト龜頭トノ間ニハ無數ノ小腺アリテ液ヲ出ス
睪丸ハ陰囊中ニ在リテ精液ヲ分泌ス
精囊ハ精系ニヨリ睪丸ニ連リ内ニ精液ヲ貯フ
精系ハ動靜脈及輸精管ヨリ成リ數層ノ膜ヲ以テ被ハレ索狀ヲナシ
睪丸ヨリ出テテ腹腔ニ入ル
攝護腺ハ圓キ扁平ノ腺體ニシテ形狀栗ノ如シ膀胱頸ノ尿道ニ連ル
處ニ在リ

第五編 繃帶

第一章 繃帶ノ効用

繃帶トハ專ラ布片ヲ以テ創處及他ノ患部ヲ纏包スルヲ云フ
繃帶ノ効用ハ左ノ如シ

- 一 患部ヲ被ヒテ外來ノ害物例之ハ汚物、蟲、氣中水中ノ病芽、日光等ヲ避ク之ヲ蓋護繃帶ト云フ
- 二 外用藥ヲ患部ニ附ケ置ク之ヲ保持繃帶ト云フ
- 三 創縁ヲ輕ク壓シテ創口ヲ合セ止血シ創液ヲ吸收ス之ヲ壓迫繃帶ト云フ

四 身體中弛ミタル部或ハ傷ヒタル部ヲ支フ之ヲ安保繃帶ト云フ

五 脱臼或ハ骨折ヲ整復シタル後固定ス之ヲ固定繃帶ト云フ

六 身體中ノ一部殊ニ四肢ニ牽引ヲ行フ之ヲ牽引繃帶ト云フ

第二章 繃帶材料

繃帶材料及其ノ製品ハ左ノ如シ

一 綿紗 脱脂綿紗、昇汞綿紗、「ヨードフォルム」綿紗、綿紗卷軸帶

二 綿花 脱脂綿、脱脂綿板、昇汞綿

三 生金巾 金巾三角巾

- 四 木綿 木綿卷軸帶
 - 五 縮織布 縮織三角巾、縮織卷軸帶
 - 六 脫脂紋巴
 - 七 「パラフィン」布 罨法用「パラフィン」布
 - 八 亞麻仁油紙
 - 九 「ゴム」絆創膏及英法絆創膏
- 主ナル繃帶材料ノ應用ハ左ノ如シ
- 第一 脫脂綿紗
- 脫脂綿紗ハ軟ニシテ液ヲ吸フ性强シ拭團、拭切及壓巾等トシテ用キラル（後條參照）

第二 綿花

綿花ハ患部ヲ物ヲ隔テテ外ヨリ被ヒ或ハ副木繃帶又ハ「ギブス」繃帶等ノ下敷（軟墊）ニ用キラル但シ創ニ直ニ觸ルヘカラス

第三 脫脂綿

脫脂綿ハ液ヲ吸フコト頗強キカ故ニ脫脂綿紗ニ代用セラル然レトモ直ニ創ニ觸ルヘカラス

第四 脫脂綿板

脫脂綿板ハ綿紗ニ代用セラル（脫脂綿ヲ壓シテ縱徑約一「センチメートル」横徑約二「センチメートル」ノ板トシ中心ヲ糊著シタルモノナリ適宜ノ厚サニ剥カシテ用ウルコトヲ得）

第五 生金巾

生金巾ハ壓巾、複帶、枕（枕墊）及布囊等ニ造ルコトアリ

第六 三角巾

三角巾ハ生金巾或ハ縮織布ニテ造ル
（第四十二圖）

三角巾ハ或ハ開キタルママ用キ或ハ尖
頂ヨリ順次ニ疊ミテ幅二寸許ノ帶トナ
シテ用ウ之ヲ疊三角巾ト云フ

第七 木綿

木綿ハ白クシテ粗ナラス密ナラス軟キヲ可トス壓巾、複帶、枕



第四十二圖

及布囊ニ造ルコトアリ

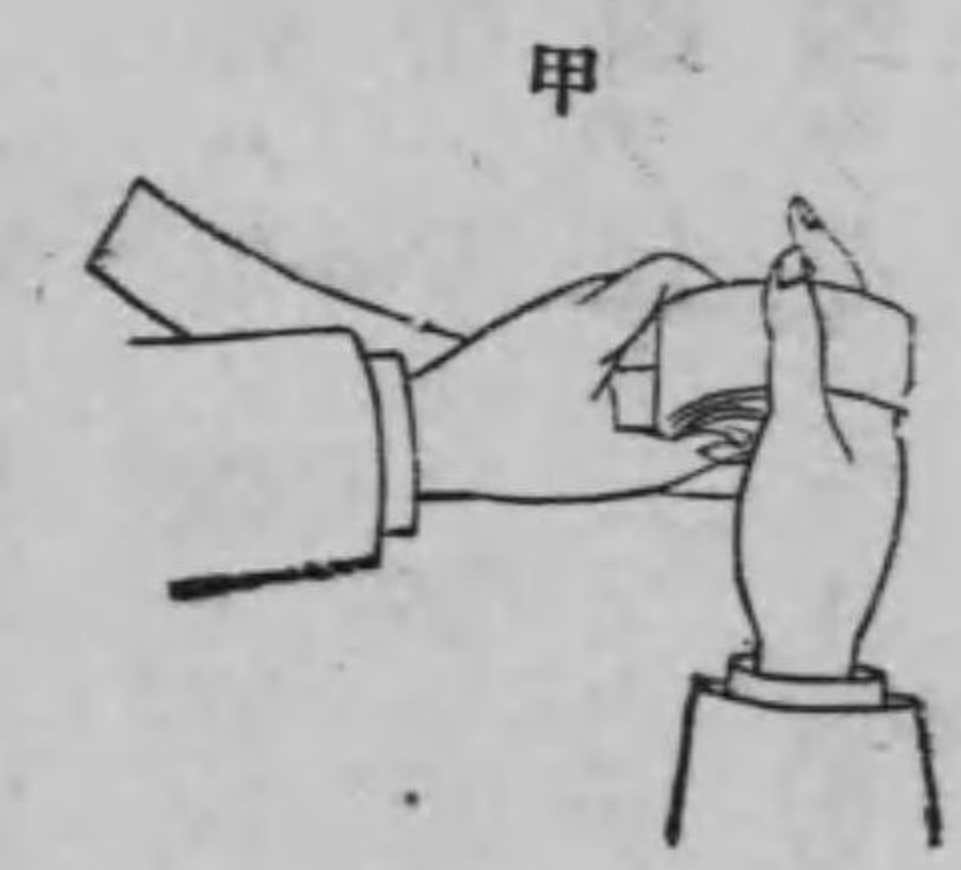
第八 卷軸帶

卷軸帶ハ布ノ緣ヲ附クヘカラス無用ノ壓ヲ加フレハナリ

卷軸帶ハ平等ニ堅ク卷クヲ要ス之ヲ卷キ始ムル處ヲ軸ト云ヒ他
ノ一端ヲ尾ト云フ之ヲ卷クニハ兩手ノ拇指、示指及中指ニテ帶
ノ一端ヲ疊ムコト數度ニシテ此ノ疊ミタル處ヲ卷キ込ミ軸トナ
シ左手ノ拇指ト示中二指トノ間ニ軸ノ兩端ヲ撮ミテ持チ帶ヲ右
手ノ示指ト拇指トノ間ニ深く挟ミ右手ノ末三指ヲ既ニ卷キタル
部ノ左側ニ添ヘ右手ヲ運轉シテ堅ク卷キ時時左手ニテ軸ヲ持チ
タルママ右手ニテ帶ヲ引キ緊ムヘシ手ハ左右ヲ換フルコトヲ得

(第四十三圖)又多數ノ卷軸帶ヲ製スルニハ繃帶卷ヲ使用ス(第四十四圖)

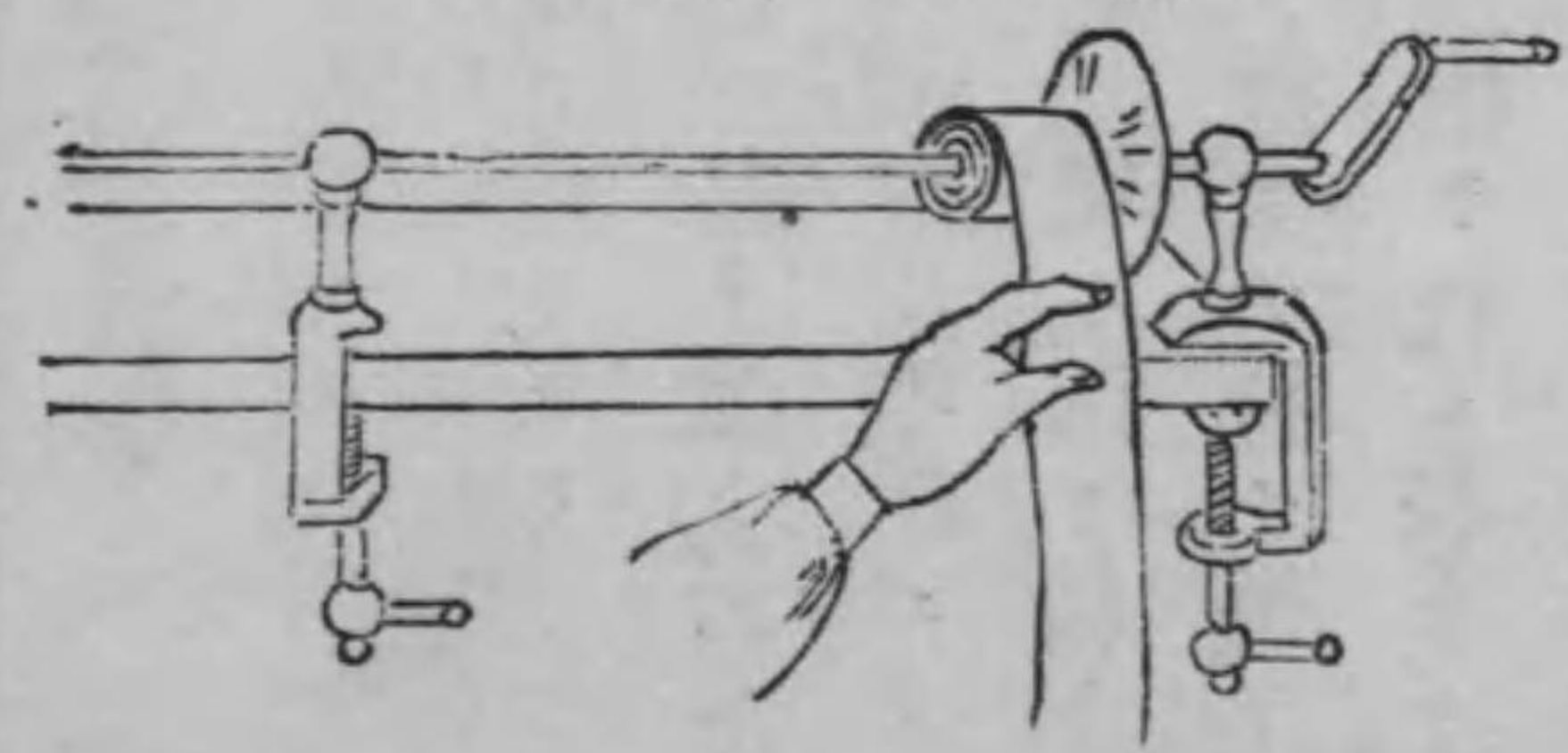
圖三十四第



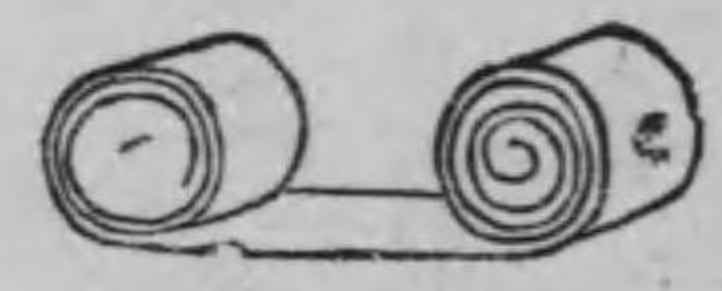
乙



圖四十四第



圖五十四第



卷軸帶ヲ一端ノミヨリ卷キタルヲ一頭軸ト云ヒ兩端ヨリ卷キテ中央ニ至レルモノヲ兩頭軸ト云フ(第四十五圖)

四十七圖)ト

アリ男結ハ人ノ常ニ用ウルモノナリ外科結ハ絲ノ端ヲ二回潜ラセテ

圖六十四第



圖七十四第



圖八十四第



繃帶、絲等ノ結方ニ男結(第四十六圖)ト外科結(第

結ヒ更ニ第二ノ單一ノ結ヲナスモノトス女結（第四十八圖）ハ
結確ナラサル故用キス

第九 縮織布

縮織布ハ彈力ニ富ムカ故ニ之ニテ造リタル卷軸帶ハ殊ニ身體ノ
一部ニ卷キテ壓ヲ加フルニ適ス壓巾、複帶、枕及布囊ニ造ルコ
トアリ

第十 脫脂紋巴

脫脂紋巴ハ膏藥ヲ貼ルトキ及壓巾トシテ用キラル

第十一 「バラフィン」布、亞麻仁油紙

「バラフィン」布、亞麻仁油紙ハ防水性材料トシテ濕罨法ノトキ

外ヨリ被ヒ或ハ外用藥ヲ附ケタルトキ藥劑ノ散スルヲ防ク爲ニ
被フニ適ス

第十二 「ゴム」絆創膏

「ゴム」絆創膏ハ下ニアル繃帶ヲ固定スル爲或ハ牽引ヲナスニ用
キラル時トシテハ小キ創ヲ被ヒ又開キタル處ヲ合ハスニモ用キ
ラル但シ創ヲ被フニハ其ノ下ニ薄キ綿紗ノ層ヲ敷クヘシ用キル
トキハ帶ノ形トナシ或ハ四角形トナス隆マリタル處ニ貼ルニハ
縁或ハ隅ヲ切り込ムヘシ帶形ノモノハ下ノ繃帶ヲ超ユルコト敷
「センチメートル」ナルヲ要ス（第四十九圖）
絆創膏繃帶ハ鎖骨及肩胛骨骨折ニ用キラル

第十四圖



絆創膏ヲ貼ルトキハ貼ルヘキ處ヲ乾カスヘシ又其ノ處ニ毛髮アラハ剃ルヘシ之ヲ剝クトキニハ下ノ繃帶或ハ皮膚ヲ引カサル様繃帶或ハ皮膚ヲ一手ニ押ヘ他手ニテ剝クヘシ

第十三 複帶

複帶ハ二個以上ノ布ヲ合セテ造ルモノニシテ一個ノ布ヲ適宜ニ裂キテ造ルコトモアリ卷クヘキ部ノ不正ナルトキ用キラル

第十四 壓巾

壓巾ハ四角ノ脫脂綿紗ヲ疊ミ重ネタルモノナリ又木綿、生金巾等ニテ造ルコトアリ壓巾ハ患部ヲ被ヒ或ハ壓スルニ用キラル又下敷トナスコトアリ但シ綿紗壓巾ニテハ創ヲ被フヲ常トス壓巾ニ大小アレトモ小サキ創ヲ被フモノハ一尺四方ノモノヲ疊ミ重ネタルモノトス

第十五 拭團、拭切

拭團、拭切ハ脫脂綿紗ヲ圓クツクネ或ハ小サク折リ血液或ハ創液ヲ拭クニ用キラル之ニ乾ケルト濕リタルトアリ甲ハ蒸氣ニテ滅菌シタルモノナリ乙ハ消毒液ニテ濡ラシタルモノ或ハ滅菌シ

テ乾カシタルニ滅菌水ヲ吸ハセタルモノナリ

第三章 繃帶ノ準備

繃帶スル前ニ準備シ置クモノハ脱脂綿紗、綿花、脱脂綿、卷軸帶、防水性材料、絹絲、木綿絲、排膿管、留針(帽子針、安全針)、縫針、「ゴム」絆創膏、「ヨード」フオルム「綿紗」、「ヨード」フオルム「末」、酒精、消毒液(昇汞水、石炭酸水、「リゾール」水等)、「ゴム」管、灌水器、繃帶鋏等ナリ

第四章 卷軸帶ノ用法

第一 卷軸帶ノ卷方及解方

一頭軸ヲ卷クニハ右手ニテ軸ヲ持チ尾ノ外面ヲ卷クヘキ部ニ置

キ左手ニテ押サヘ一處ヲ數度卷キテ尾ヲ固定シ軸ヲ稍斜ニ上方ニ向ケ始終皮膚ニ平等ニ卷キ付ケ行クヘシ卷キ終ラハ留針ニテ帶ノ端ヲ留メ或ハ端ヲ裂キテ結フヘシ又時トシテハ縫ヒ留ムルコトアリ

兩頭軸ヲ卷クニハ中央ノ外面ヲ卷クヘキ部ニ置キ左右ノ軸ヲ兩手ニ持チ換ヘツツ卷キ行クヘシ(第五十圖)軸ヲ持チ換フルトキ帶ノ弛マサルコトニ注意スヘシ

繃帶ヲ卷キ終リテ留ムル處ハ患部ニ當ラサル如クニスヘシ又四肢ノ繃帶ハ指趾ヨリ卷キ始ムヘシ繃帶ハ堅カラス緩カラサルヲ要ス堅ケレハ疼痛腫脹ヲ來タシ甚シキトキハ壞疽ニ陷ル緩キト

キハ繃帶ノ効ナシ
繃帶ヲ解クトキ誤リテ出血セシメ又折レタル骨端ヲ喰違ハシム
ルコトナキヲ要ス

第五圖



血液或ハ膿ノ爲ニ布
ト布トノ間或ハ布ト
皮膚トノ間粘リ著キ
タルトキハ強テ剝ク

ヘカラス滅菌水或ハ消毒液ニテ濡シ軟クナルヲ待チテ除クヘシ
已ムヲ得サレハ剪ニテ切ルコトヲ得
繃帶ノ解キタル部ハ一手ニ集メテ持チ交番ニ左右ニ持チ換ヘ解

キ終ルヘシ

第二 卷軸帶ノ卷キ方ノ種類

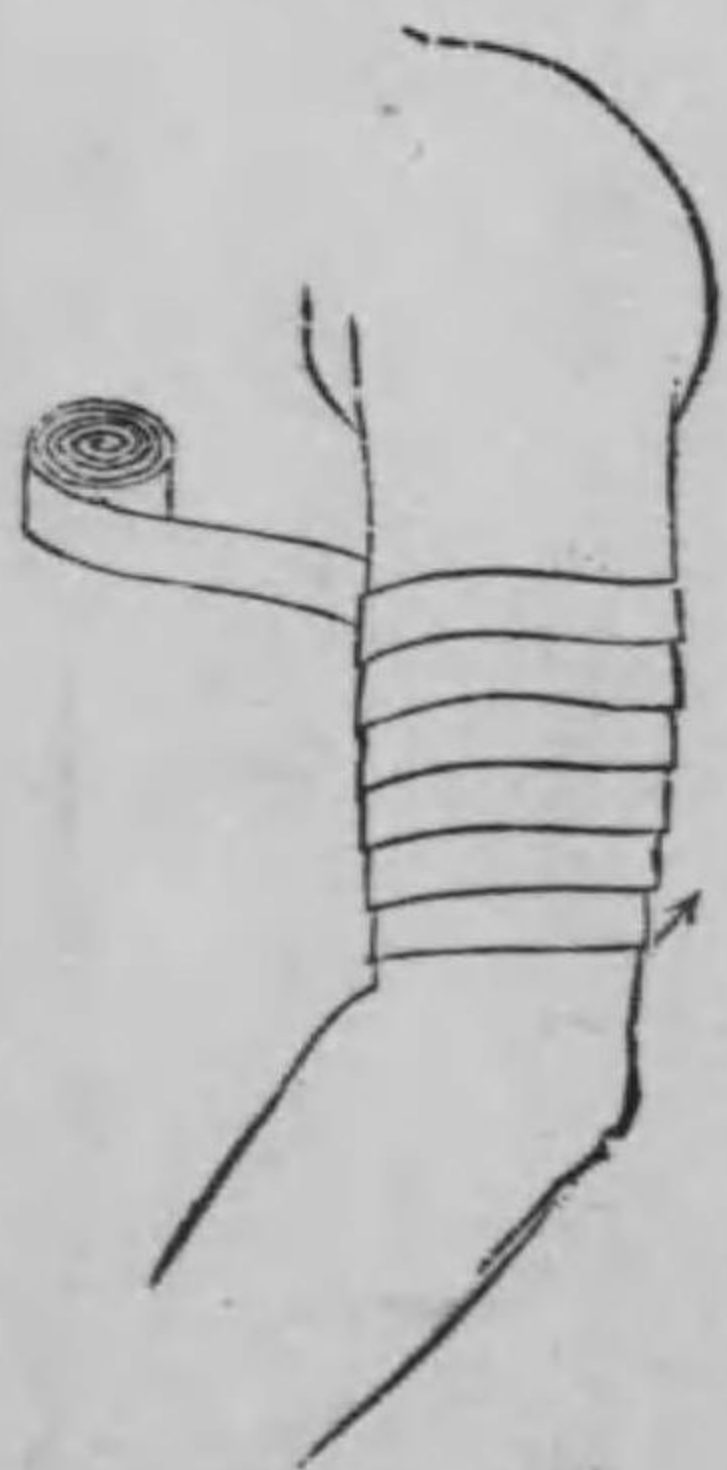
其一 環行帶

環行帶トハ一頭軸ヲ一處ニ卷キ一廻毎ニ前ニ卷キタル布ヲ全ク
被フヲ云フ諸繃帶ヲ施スニハ先ツ此ノ法ヲ以テ始メ又此ノ法ヲ
以テ終ルヲ例トス

其一 螺旋帶

螺旋帶トハ螺旋狀ニ卷キ行
キ一廻毎ニ前ニ卷キタル布
ノ半乃至三分ノ二ヲ被フヲ

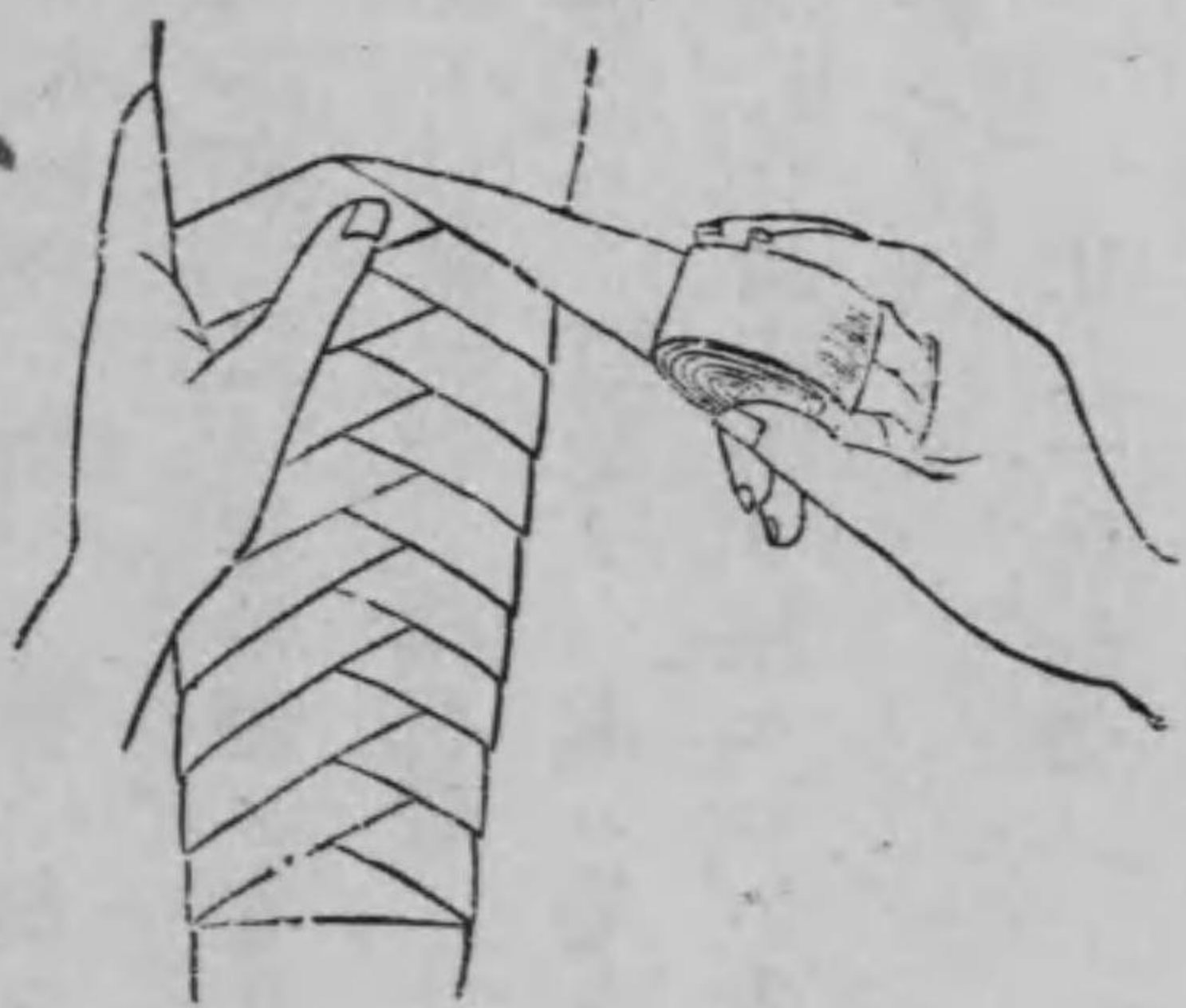
第五圖一



云フ (第五十一圖)

其三 折轉帶

圖二十五第



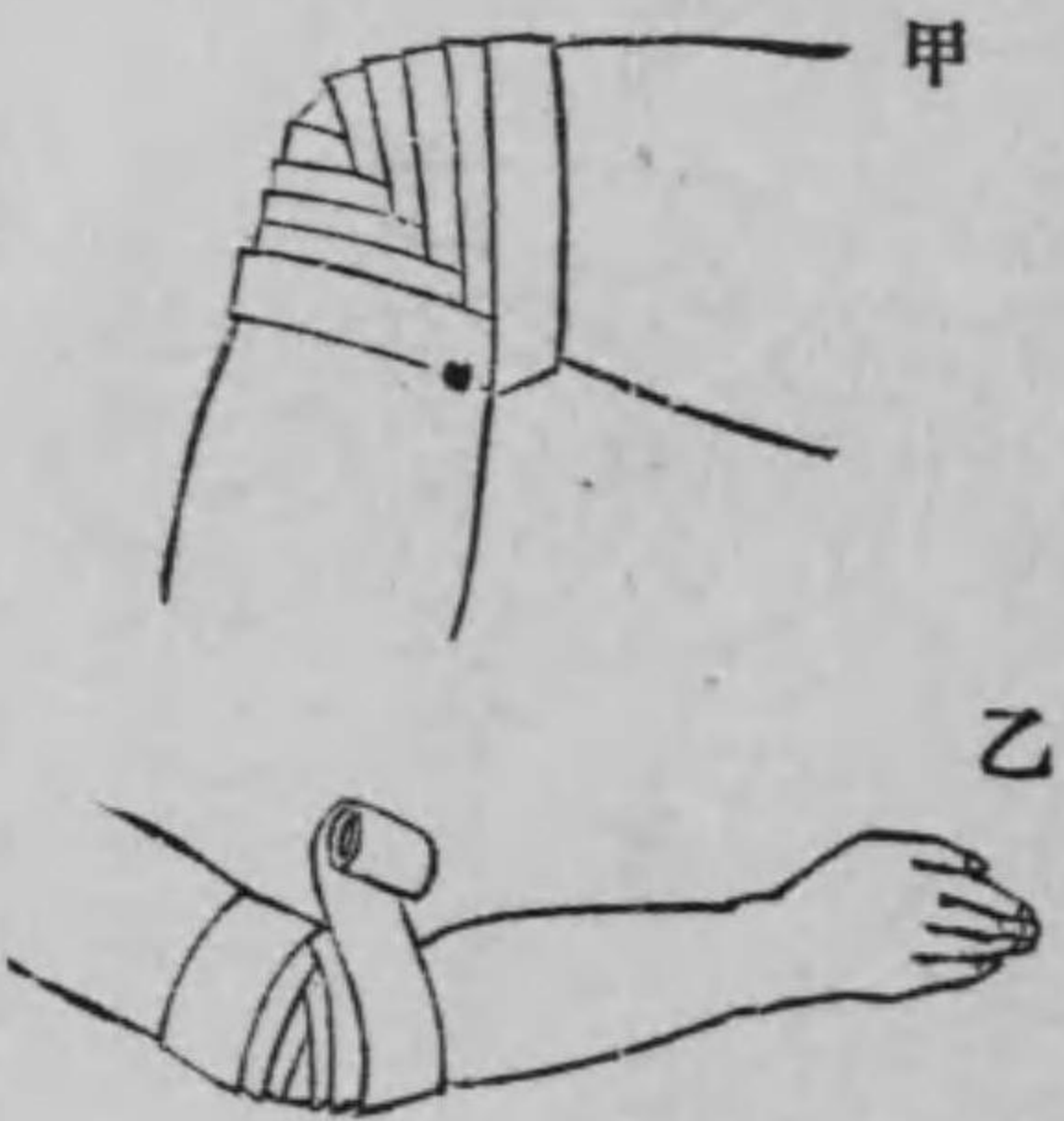
折轉帶トハ前膊或ハ下腿ノ如ク部位ニヨリテ大小齊シカラサル處ヲ卷クニ帶ノ一縁緊マリ他縁緩ムカ故ニ用キル法ニシテ每廻折返ス (折轉) ヲ要ス (第五十二圖)

其四 交叉帶

交叉帶トハ前ニ卷キタル布ノ

一廻ト後ニ卷ク布ノ一廻ト喰ヒ違フヲ云フ此ノ法ニ二種アリ
一 龜甲帶(8字帶) 喰違フ處ニテハ全ク疊マリ弓形ハ中央ニ

圖三十五第



圖四十五第



起リテ次第ニ上下ニ進ミ (第五十三圖) 或ハ上下ニ起リテ次第ニ中央ニ進ム (第五十四圖) 龜甲帶ハ其ノ喰違フ處屈側ニ

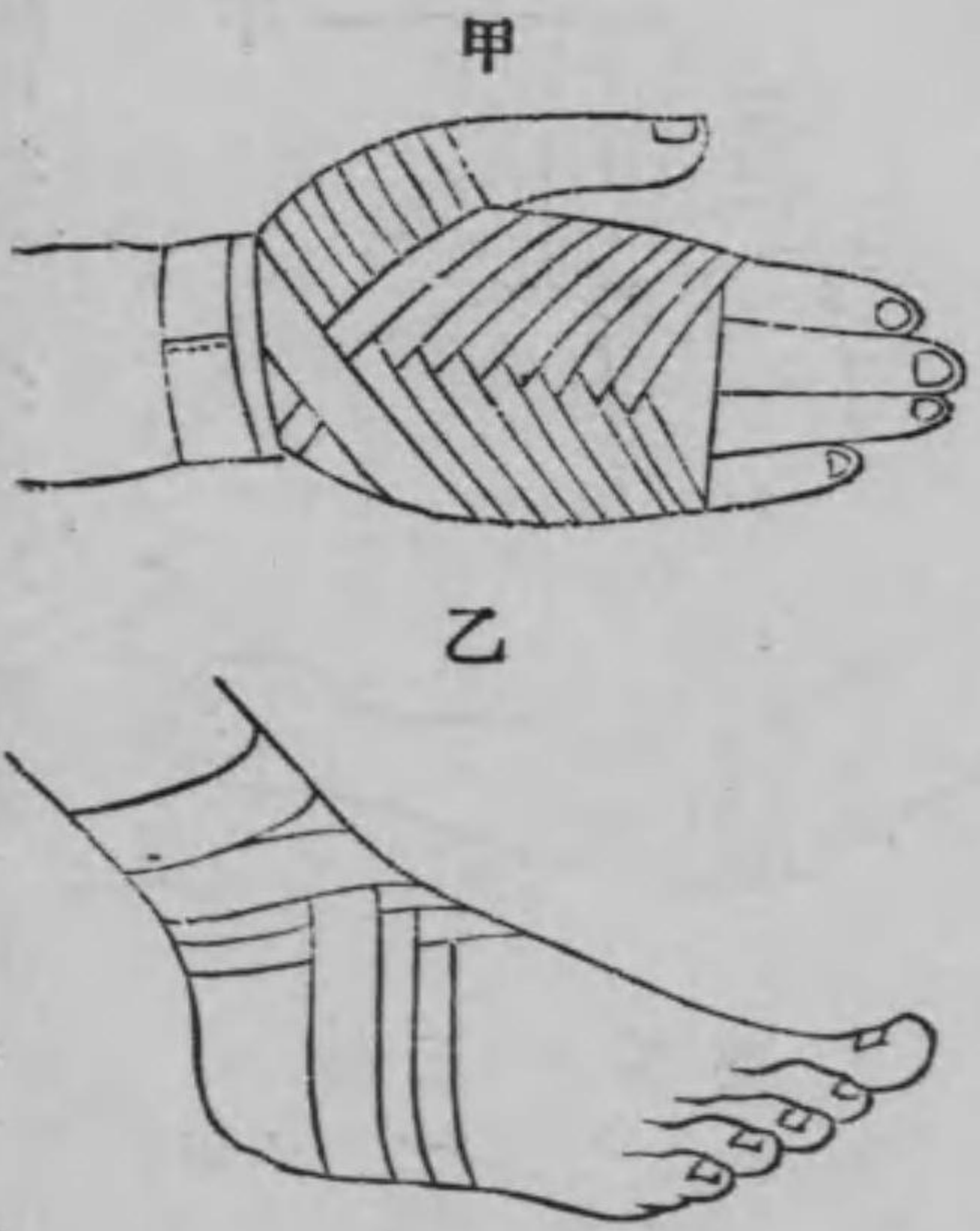
弓形、伸側ニ當ル如クニ關節ニ卷クモノナリ（第五十四圖）
二 麥穗帶（人字帶） 喰違フ處全クハ疊ラスシテ一方ニ向ヒ定

マリタル寸法タケイサ
リ行ク如クニ卷クモノ
ナリ（第五十五圖）

其 五 扇狀帶

扇狀帶トハ帶ヲ環行帶
ト同様ニナシ一方ハ多
ク疊ネテ狭クシ一方ハ
少シク疊ネテ廣クシ扇狀トナスモノナリ主ニ腹部ニ用キラル

第五十五圖



其 六 反復帶

反復帶（帽狀帶）トハ頭或ハ四肢ノ端ヲ卷クニ用ウ初メ環行帶
ニテ尾ヲ固定シ次ニ其ノ一點ヨリ顛頂或ハ尖端ヲ過キテ反對側
ノ一點ニ至リ介者ヲンテ之ヲ固定セシメツツ每廻前ニ卷キタル
帶ノ半乃至三分ノ二ヲ被フ如クニ反復ス

第三 各部ノ繃帶

甲 頭ノ繃帶

其 一 反復帶

頭ノ反復帶ニハ一頭軸或ハ二頭軸ヲ用ウ
一 一頭軸反復帶 前條反復帶ニ於テ説キタルカ如クス反復ノ起
點ハ額ニシテ終點ハ項ノ窪ナリ又固定ヲ強ムル爲反復毎ニ環行

帶ヲナシ尙確ナラシメンニハ終リニ頭ノ側面ヨリ下顎ヲ廻リ更ニ上リテ環行帶ニ達セシムルコトアリ(第五十六圖)

圖六十五第



二 兩頭軸反復帶 兩頭軸ノ中央ハ額ニ置カレ軸ハ左右ニ廻リ項ノ窪ニ至リ喰違ヒテ一ハ後頭ヲ上リ顛頂ノ一側ヲ越エテ額ノ正中ニ至リ一ハ周圍

圖七十五第



ヲ半廻シテ額ニ來ル縹帶ノ上ヲ過キ再ヒ後頭ニ至ル初メ額ニ來ル一軸ハ再ヒ折返サレテ顛頂ノ他側ヲ越エ後頭ニ返ル此ノ如クシテ一ハ環行一ハ折轉ニ用キラレ環行帶ニテ終ル(第五十七圖)

二法共ニ頭ヲ反復スル帶ヲ互ニ縫ヒ留ムルコトアリ

其二 偏眼帶

偏眼帶(隻眼帶)ハ頭ノ周圍ニ環行帶ヲナシ右眼ナルトキハ項

圖八十五第



ノ窪ヨリ右耳ノ下ヲ過キ斜ニ上リテ右眼ヲ掩ヒ前頭及顛頂ヲ經テ斜ニ項ノ窪ニ下リ更ニ前ト同シク右耳ノ下ヲ經テ前ニ卷キタル帶ノ稍、上ヲ上リ眼ノ上ニテ喰違ハセテ眼ヲ被ヒ進ミテ前ノ帶ノ下邊ヲ過キテ項ノ窪ニ至リ此ノ如ク

數回反復シ終リニ環行帶ヲナシテ止ム左眼ナルトキハ方向之ニ反ス(第五十八圖)

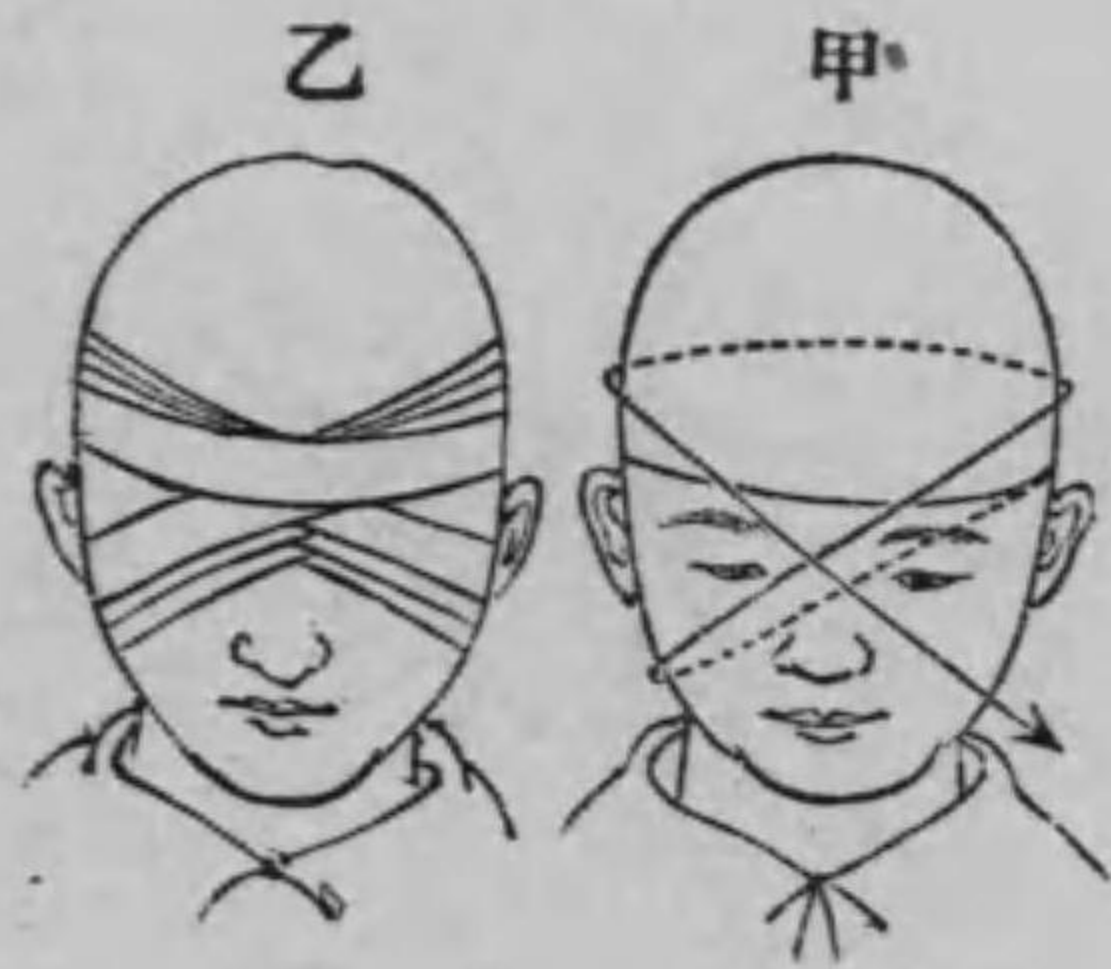
其三 雙眼帶

雙眼帶ハ頭ニ環行帶ヲナシ一眼ヲ被ヒ前頭及顛頂ヲ過キテ環行帶ノ處ニ至ル迄ハ偏眼帶ニ同シ此ニ至リテ喰違ハセスシテ環行帶ニ沿ヒ頭ヲ廻リ項ノ窪ニ至リテ他側ノ顛頂ヲ過キ斜ニ下リテ他ノ眼ヲ被フ此ノ如ク毎回互ニ反復シテ兩眼ヲ被ヒ環行帶ニテ終ル(第五十九圖)

其四 下顎帶

下顎帶ハ一頭軸ノ尾ヲ項ノ窪ニ置キ斜ニ左顛頂ノ中央ヲ越エ右

圖九十五第



圖十六第

圖一十六第



耳ノ前ヲ下リ下顎ノ下ヨリ顔ノ左ニ出テ耳ノ前ヲ過キ頭ノ頂ニ上リ右ノ顛頂ヲ經テ再ヒ後頭ノ起點ニ返リ更ニ左ヨリ下顎下縁ニ沿ヒテ頤ヲ過キ又後頭ノ起點ニ返ル此ノ如ク順次反復シ終リニ額ニ環行帶ヲシテ固定ス(第六十圖)

乙 頸ノ纏帶

頸ノ8字帶ハ頸ノ環行ニ始マリ項ノ窪ヨリ後頭ヲ右上ニ斜ニ耳ノ上ニ上リ前頭ヲ週リテ左耳ノ上ヨリ斜ニ右下ニ前ニ卷キタル帶ト喰違ヒ之ヨリ頸部ヲ一週シ又後

頭ヲ經テ右耳ノ上ニ向フ此ノ如ク數回反復シテ頸ノ環行帶ニテ固
定ス(第六十一圖)

丙 軀幹ノ繃帶

其一 胸ノ環行帶

一頭軸ノ尾ヲ健側ノ肩ノ上ニ懸ケ三尺許後ニ垂ル軸ハ斜ニ下リ
テ患側ノ腋下ヲ過キ胸ノ周圍
ニ二三回ノ環行帶ヲナシテ始
端ヲ固定シ後其ノ環行帶ノ三
分ノ一ヲ疊ネ次第ニ上リ背ニ
至リ轉シテ健側ノ肩ノ上ヨリ腋

圖二十六第



下ヲ通り8字形ヲ畫キ環行帶ヲナシテ終リ始メ垂レタル始端ヲ
反轉シテ患側ノ肩ヲ越エ環行帶ノ前部ニ固定ス(第六十二圖)

其二 胸背ノ十字帶

胸ヲ卷クニハ一頭軸ノ尾ヲ一側ノ腋下ニ置キ胸ノ周圍ヲ二三度廻
リ綿花或ハ布片ヲ腋下ニ置キ
介者ヲシテ兩肩ヲ胸骨ニ向ヒ
テ壓セシメ左ヨリ始ムルトキ
ハ後ヨリ左ノ肩ヲ越エテ斜ニ
胸ノ前ヲ下リ右ノ腋下ニ至リ
右ノ肩ヲ越エ又斜ニ胸ヲ下リ
十字形ヲナシ左ノ腋下ニ至ル此ノ如クスルコト四五回ニシテ後再

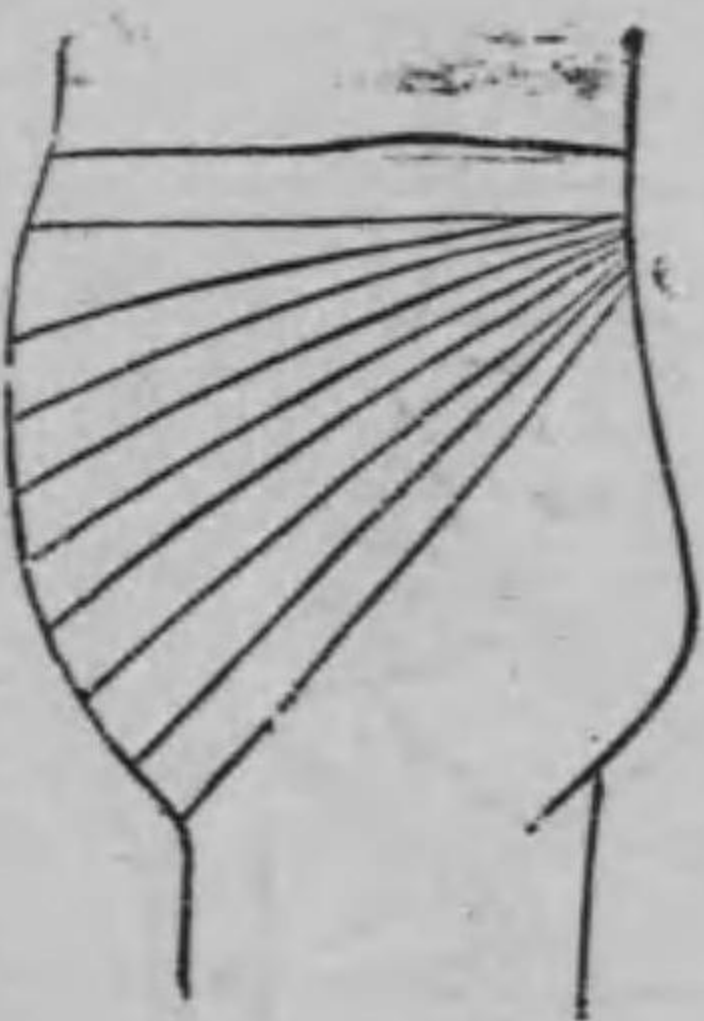
圖三十六第



ヒ胸ニ環行帯ヲナシテ止ム(第六十三圖)背ヲ卷クニハ此ノ方法ト反
對ニナシ背ニテ喰違ハシムヘシ

其三 腹ノ扇狀帶

圖四十六第



前條扇狀帶ニ於テ説キタル如ク一頭軸
ノ尾ヲ腰ニ當テ斜ニ下腹ニ向ヒテ一回
シ腰ニ返リ尾ヲ固定シテ再ヒ下腹ニ向
ヒ一回スルコト前ノ如ク恰モ開キタル

二箇ノ扇子ノ廣縁腹ノ正中ニ於テ相合
スルカ如キ形ヲナス(第六十四圖)

其四 鼠蹊ノ麥穗帶

一側ヲ卷クハ前條麥穗帶ニ於テ説キタ

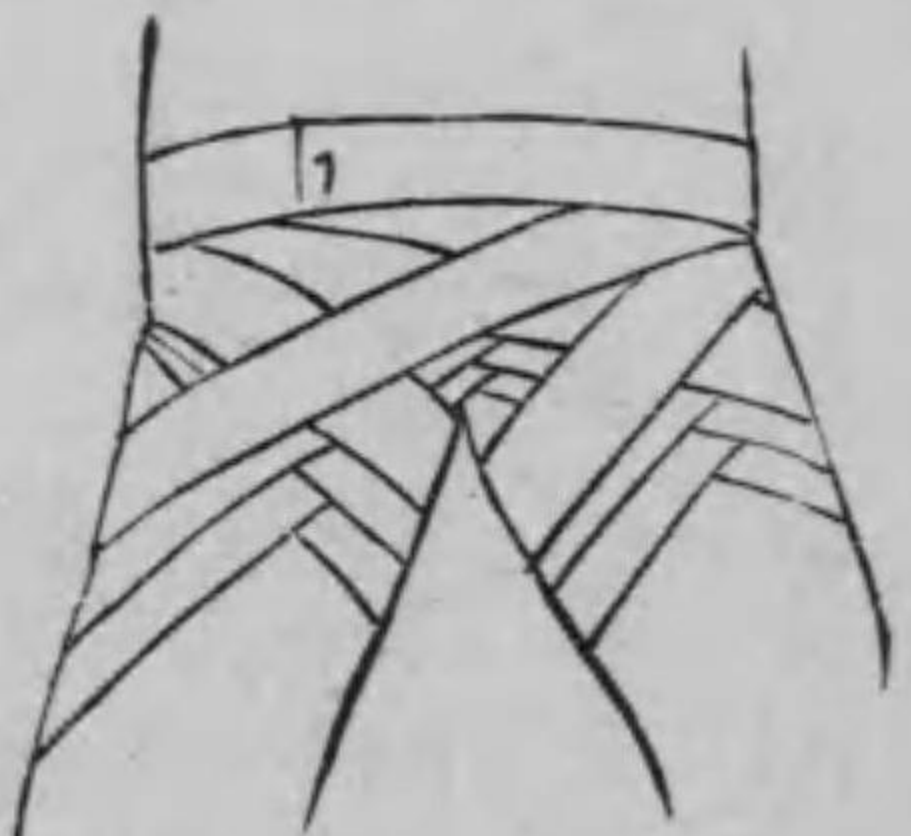
圖五十六第



ルカ如シ(第六十五圖)

兩側ヲ卷クニハ一頭軸ノ尾ヲ右ノ鼠蹊ノ上ニ置キ軸ヲ左方ニ向
ケテ二三次環行帯ヲナシ左ノ大腿ノ外後面ヲ下リ左ノ鼠蹊ノ前

圖六十六第



ヲ上リ環行帯ニ達シ腰ニ沿ヒテ廻リ斜ニ
右ノ鼠蹊ノ前ニ下リ右ノ大腿ノ後外面ヲ
上リテ環行帯ニ達シ再ヒ下腹ヲ廻リ左ノ
鼠蹊ノ上ニ至ル此ノ如ク反復スルコト數
回ニシテ環行帯ニテ終ル(第六十六圖)

其五 「ウエルボー」ノ麥穗帶

患側ノ手掌ヲ健側ノ肩ノ上ニ載セ肘ヲ胸ノ正中線ニ置キ腋下ノ

高サニ於テ患肢及胸ニ二三回環行帶ヲナシ健側腋下ヨリ背ヲ斜ニ上リテ患側ノ肩ニ至リ之ヲ越エテ患上膊ノ前ヲ下リ肘ヲ下外方ヨリ支ヘテ胸ヲ横ニ走リ患側腕關節ノ高サニテ胸部ニ環行帶

圖七十六第



ヲナシ健側ノ腋下ニ至ル之ヨリ後卷ク順序ハ前ト同シク腋下、肩、肘ナリ唯之ニ環行帶ヲ加フルカ故ニ前ノ如ク前後ヨリ互ニ腋下、肩、肘ヲ經テ三角ヲ胸、背ニ畫クコトナク單ニ胸ニアルノミ以後數回同一ナル卷方ヲ反復シ各帶ハ常ニ前ノ三分ノ二ヲ被ヒ帶ノ肩ヲ越ユル部ハ

次第二頸ニ近ツキ環行帶ハ次第二下ル(第六十七圖)

丁 四肢ノ繃帶

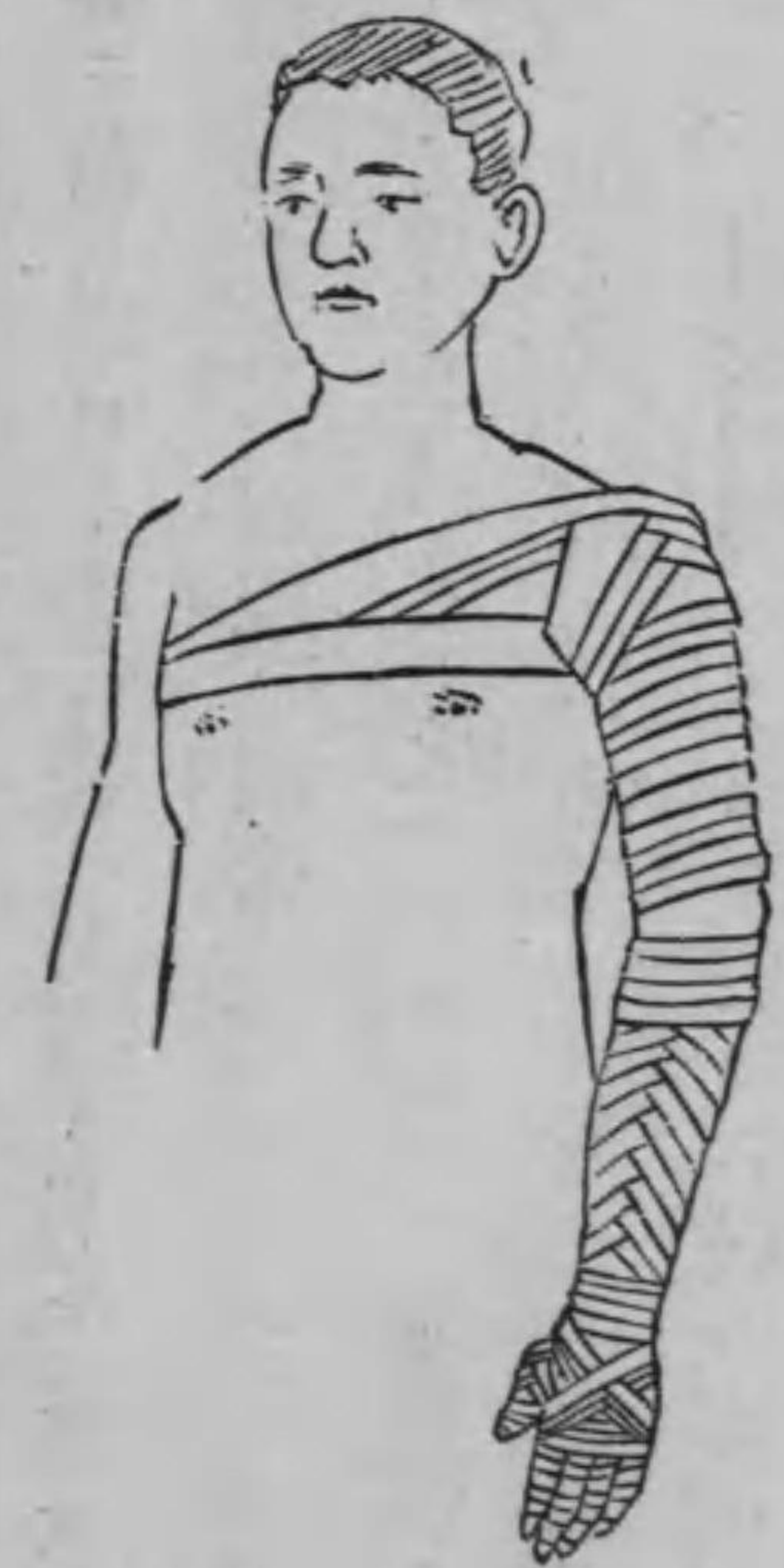
指ハ幅二乃至三「センチメートル」ノ卷軸帶ヲ指頭ヨリ始メ指ノ根マテ卷キ或ハ指ノ一部ノミニ卷クヘシ之ヲ固定スルニハ手ノ根ニ二三回環行帶ヲナスヲ例トス趾モ亦指ニ同シ

腕關節、足關節、肩關節及跨關節ニハ麥穗帶、肘關節及膝關節ニハ龜甲帶ヲ例トス足關節及肘關節ハ直角ニ曲ケ其ノ他ノ關節ハ伸シテ卷クヲ例トス

四肢ヲ全ク被フニハ上肢ニ於テハ指骨掌骨關節、下肢ニ於テハ趾骨蹠骨關節ノ上邊ヨリ始メ螺旋帶及麥穗帶ニテ手及腕關節或

ハ足及足關節ニ進ミ前膊或ハ下腿ヲ螺旋帶及折轉帶ニテ上リ肘關節或ハ膝關節ヲ龜甲帶ニテ被ヒ上膊或ハ大腿ニ螺旋帶ヲナシ終ニ肩關節或ハ跨關節ヲ麥穗帶ニテ包ムヘシ四肢ノ斷端ヲ包ムニハ反復帶ヲ用ウ

其一 上肢ノ螺旋帶



之ヲ卷クニハ肢ヲ内轉ノ位置トナシ帶ノ始端ヲ手腕ニ置キ尺骨側ヨリ橈骨側ニ向ヒテ二三

圖八十六第

回ノ環行帶ヲナシ斜ニ手掌或ハ手背ヲ下リテ指頭ニ至リ之ヨリ螺旋帶ヲナシテ上リ示指ト拇指トノ間ヨリ手腕ニテ8字形ニ纏ヒテ拇指球ト手腕トヲ被ヒ折轉帶ニテ次第ニ上リテ肘ニ至リ適宜ノ處ニテ結フ臂ヲ伸シ置クトキハ直ニ螺旋帶ヲナシテ肩ニ至リ屈曲ノ位置ヲ要スルトキハ肘ニ於テ8字形ヲナシ此ノ上部ヲ被ヒ次テ上膊ヲ螺旋帶ニテ上リ肩ニ至ル(第六十八圖)

其二 肩胛ノ麥穗帶

之ヲ卷クニハ一頭軸ノ尾約三尺ヲ餘シ上膊ノ中央ニテ内方ニ向ヒテ二三回環行帶ヲナシテ固定シ後螺旋帶ニテ肩胛ノ外面ニ上リソレヨリ前ニ下リ斜ニ胸前ヲ過キ健側ノ腋下ニ至リ背ニ沿ヒテ患側ニ返リ肩胛ノ前面ヲ下リテ腋下ヲ過キ又後面ヲ上リテ肩胛ヲ越エ

胸ヲ經テ健側ノ腋下ニ至ル此ノ如クスルコト數回ノ後先キニ餘シタル尾ヲ背ヨリ患側ノ肩ノ上ヲ越エテ胸ニ出シタルモノト共ニ留針ニテ留ム

其三 拇指ノ麥穗帶

患手ヲ伸シ一頭軸ノ尾ヲ手腕ニ置キ橈骨側ヨリ尺骨側ニ向ヒテ卷キ背面ヨリ拇指根ヲ斜ニ下リ示指ト拇指トノ間ヲ越エ手掌ヲ經テ手腕ニ返リ回轉ス斯クスルコト數回反復シテ止ム其ノ他ノ指ノ麥穗帶モ此ノ法ニ同シ(第六十九圖)

圖九十六第



其四 手套帶

全部ヲ卷クニハ一頭軸ノ尾ヲ手腕ニ置キ二三回環行帶ヲナシ一指頭ニ下リ螺旋帶

圖十七第

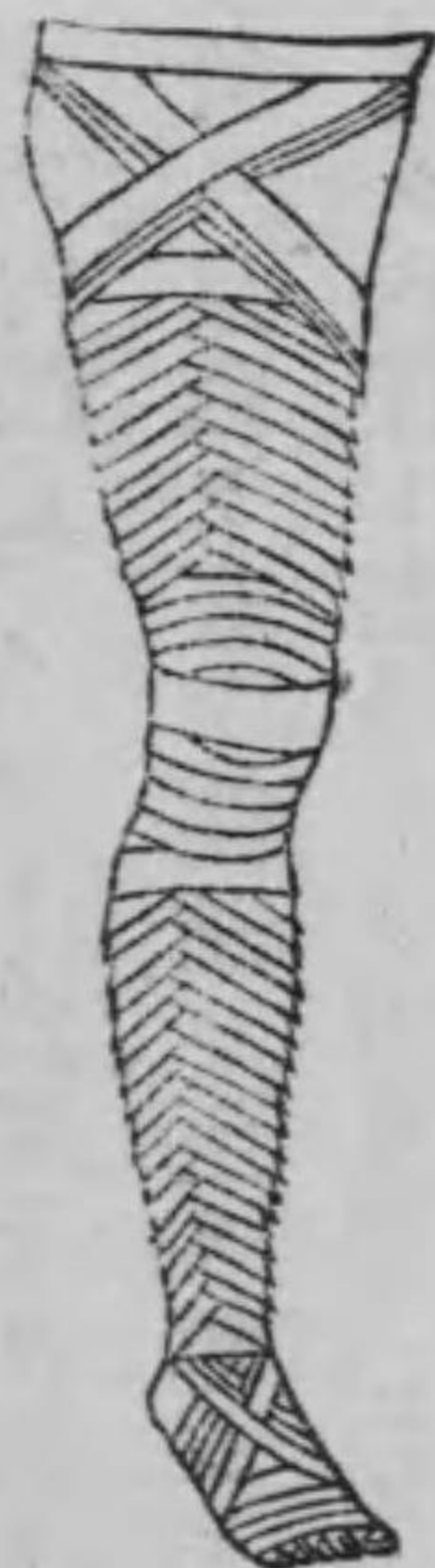


ニテ指根ニ至ル此ノ如ク次第ニ各指ヲ卷キ終ニ手腕ニ於テ再ヒ環行帶ヲナシテ固定ス(第七十圖)
半部ヲ卷クニハ先ツ手拳ヲ平ニシ腕ニテ尺骨側ヨリ橈骨側ニ向ヒテ二三回環行帶ヲナシ後斜ニ手背ヲ過キ示指ノ掌面ヲ廻リ其ノ背面ニテ斜十字形ヲナシテ腕ノ尺骨側ニ至リ更ニ廻リテ橈骨側ニ至リ又下リテ中指ヲ卷ク此ノ如ク次第ニ各指ノ根ヲ被ヒ終ニ再ヒ腕ヲ回轉シテ止ム

其五 下肢ノ螺旋帶

右足ヲ卷クニハ一頭軸ノ尾ヲ外踝上ニ置キ内ニ向ヒテ二三回環行帶

圖一十七第



ヲナシテ内踝及「アヒリス」臑上ヲ廻リ外踝ト跟骨後端トノ間ヲ過キ斜ニ足蹠ヲ經テ跣趾ニ至リ轉シテ足背ニ返リ螺旋帶ニテ内踝ニ達シ内踝ト跟骨トノ間及「アヒリス」臑上ヲ過キ外踝ノ上部ニ至リ足背ヲ越エ下腿ト足背ト足蹠トノ三部ニ於テ8字形ヲナシ後脛骨縁ニ至リ折轉帶ニテ上リ膝ニ達ス(第七十一圖)

第五章 三角巾ノ用法

三角巾ノ卷方ハ身體ノ部位ニ隨ヒテ差異アリ左ノ如シ

圖二十七第



甲



乙



丙

眼、耳、額、頬、顛、手、足ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨ノ折タル

圖二十七第

丁



戊



己



ニ棒ノ類ヲ副ヘテ括ルニハ疊三角巾ヲ用ウヘシ(第七十二圖)

頭ヲ卷クニハ三角巾ヲ開キタルママ其ノ中央ヲ頭ノ頂ニ置キ下縁ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭ノ後ニ廻シ額ニ戻シ結ヒテ留メ後ニ垂レタル尖頂ヲ折返シテ頭ノ頂ニ至リ巾ノ一端ト

圖三十七第



結ヒ合スヘシ或ハ留針ニテ留ムヘシ(第七十三圖)

頸ヲ卷クニハ疊三角巾ヲ用ウヘシ

胸ヲ卷クニハ三角巾ノ中央ヲ胸ニ當テ尖頂ハ患側ノ肩ヲ越エ後

第七十四圖 甲



乙



ニ引キ下縁ニテ胸ノ周圍ヲ纏ヒ兩端ヲ左右ノ腋下ヨリ肩ニ廻シ

テ結ヒ更ニ肩ノ後ニ垂レタル尖頂ト一端トヲ結ヒ合スヘシ(第七十四圖)

第七十五圖



背ヲ卷クハ胸ヲ卷クニ同シ
唯後ヨリ被ヒ前ニテ結フヲ
異ナリトナスノミ(第七十五圖)

腹ヲ卷クニハ疊三角巾ヲ用

ウヘシ

四肢ヲ卷クハ疊三角巾ヲ用ウヘシ(第七十六圖)

圖六十七第



圖七十七第



四肢ノ斷端ヲ卷クニハ三角巾ノ下縁ヲ創ノ上方ニ當テ尖頂ヲ折返シテ創口ヲ被ヒ端ニテ其ノ上ヲ卷キテ結フヘシ(第七十七圖)

上肢ヲ胸ノ前ニ吊ルニ開キタル三角巾ヲ用キルトキハ一端ヲ健側ノ肩ヲ越エテ背ニ垂レ置キ一端ヲ胸ノ前ニ垂レ患側ノ前膊ヲ

圖八十七第



巾ノ中央ニ當テ尖頂ヲ肘ノ後ニ餘シ置クコト一、二寸前ニ垂レタル端ヲ前膊ノ前ヨリ上ニ向ケテ引キテ患側ノ肩ノ上ニ送り頸ノ後ニテ背ニ垂レタル端ト結ヒ合ハシ次ニ肘ノ後ニ餘シ置キタ

圖九十七第



三角巾ノ用法

二百九十五

タル處ヲ頸ニ懸クヘシ(第七十九圖)

臀ヲ卷クニハ尖頂ヲ上ニ向ケ下縁ニテ大腿ヲ纏ヒ後上ニ向ケタル尖頂ヲ禪ノ紐(之ナキトキハ疊三角巾ヲ用ウ)ノ下ニ通ホシ折

返シテ巾ノ一端ト結合ハスヘシ(第八十圖)

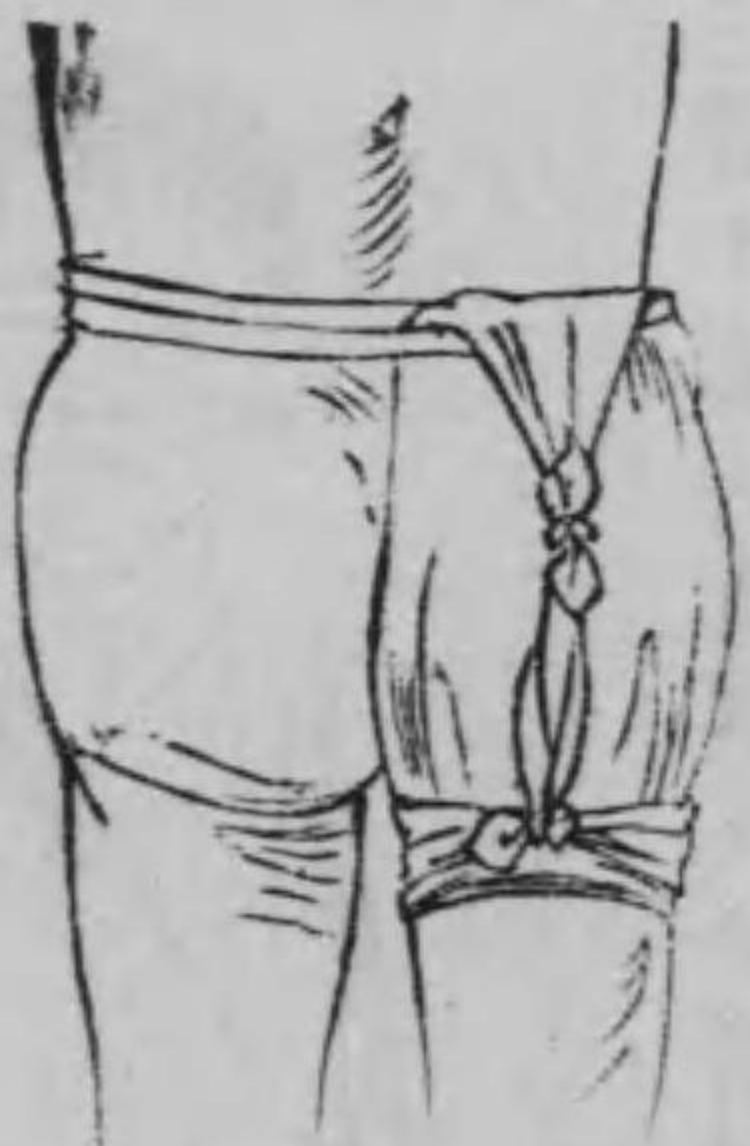
肩ヲ卷クハ臀ヲ卷クニ同シ

陰部ヲ卷クニハ開キタル三角巾ノ兩端ヲ背ニ

下縁ヲ下腹ニ當テ前ニ垂レタル尖頂ヲ股間ヲ經テ背ニ出シ陰部ヲ包ミ兩端ト共ニ一ノ結ヲ造ルヘシ(第八十一圖)

手ヲ卷クニハ三角巾ヲ二ツニ折り或ハ切りテ半巾トシテ其ノ中

第八十圖



第二十八圖



第八十一圖



央ヲ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ指頭ノ方ニ向ケ更ニ之ヲ折返シテ手ヲ包ミ兩端ヲ其ノ上ニ廻シ手背ニテ結フヘシ

第三十八圖

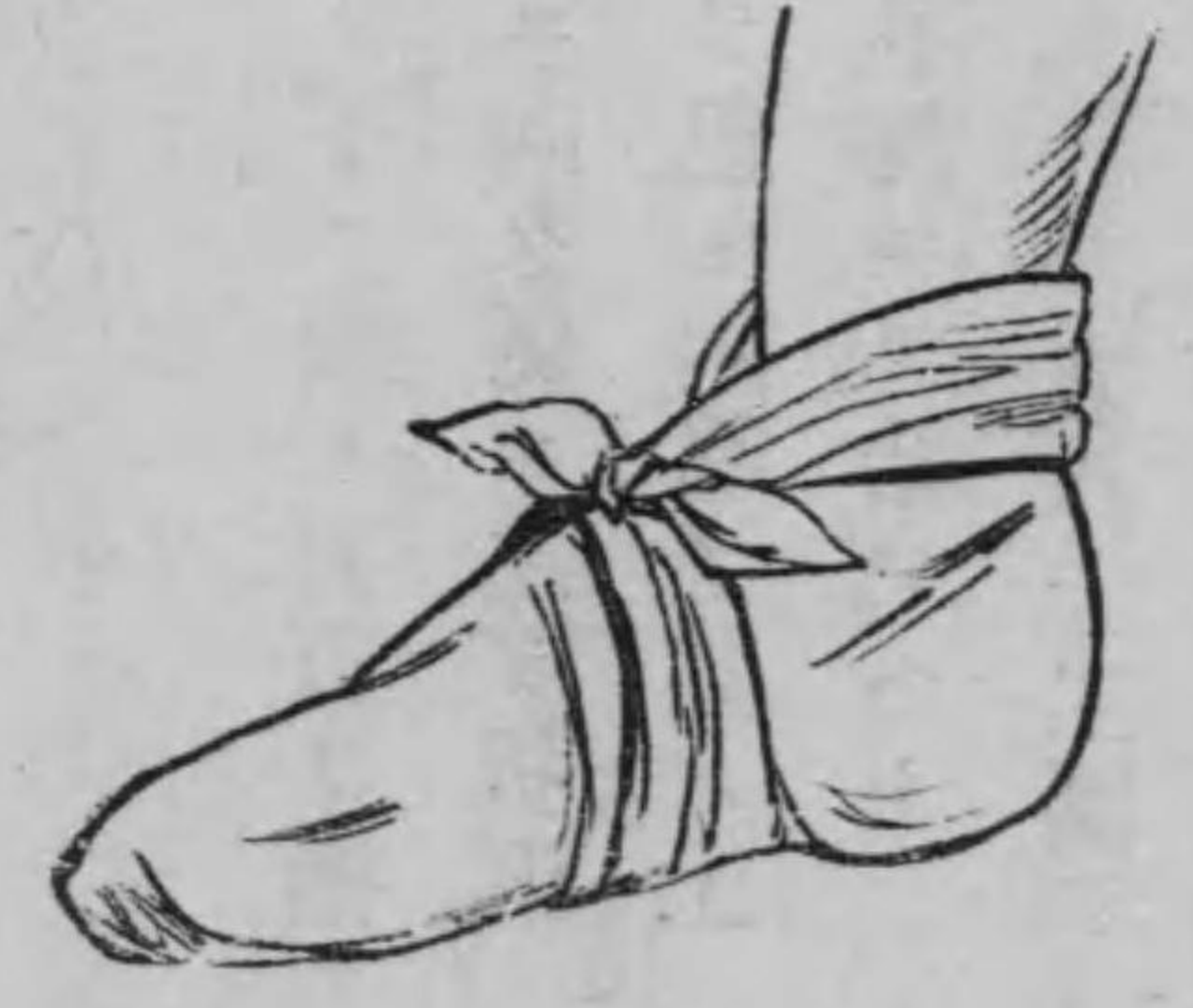


(第八十二圖)

又疊三角巾ヲ用キテ卷クユトアリ(第八十三圖)

足ヲ卷クハ手ヲ卷クニ同シ(第八十四圖)

圖四十八第
甲



乙



第六章 複帶ノ用法
第一 複帶ノ卷キ方ノ種類

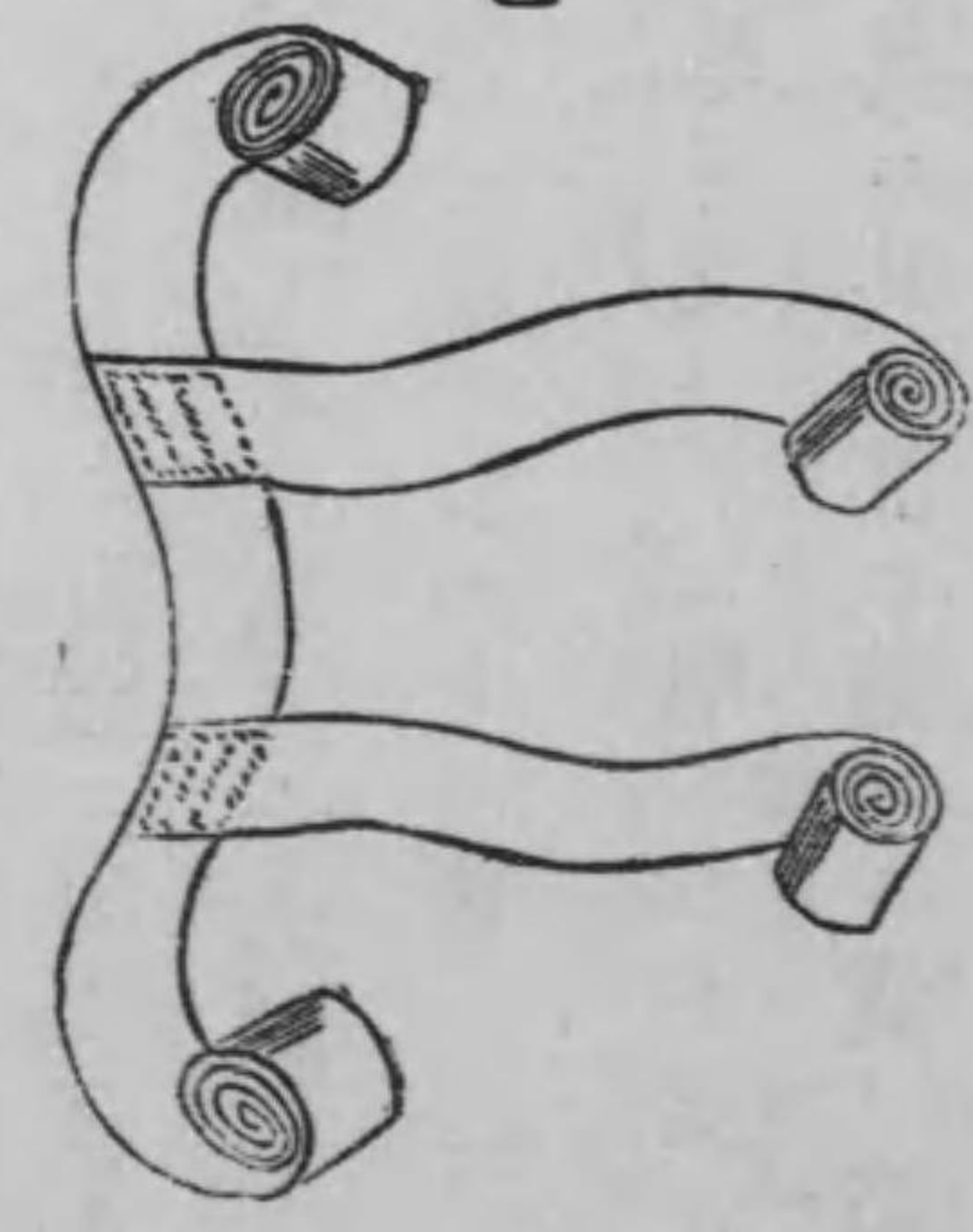
其一 丁字帶

丁字帶トハ横帶ノ中部ニ縦帶ヲ縫ヒ著ケタルモノニシテ其ノ形

圖五十八第
甲



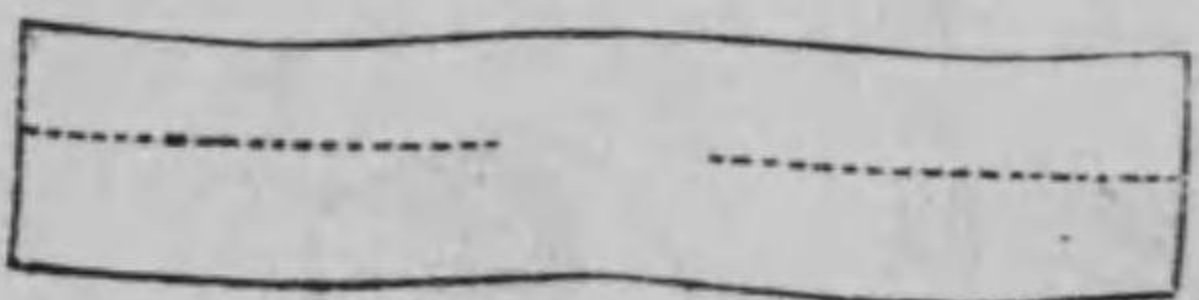
乙



丁字ニ似タリ又縦帶二條ヲ縫ヒ合セタルモノアリ之ヲ雙丁字帶ト云フ兩帶共ニ其ノ長短廣狹ハ卷クヘキ部ニ從ヒテ加減ス主ニ會陰ニ用キラル(第八十五圖)

複帶ノ用法

第六十八圖



其二 多脚帶

多脚帶ハ木綿或ハ脱脂紋巴ヲ其ノ中間ヲ殘シ兩端ヲ適宜ニ裂キテ數本ノ脚トナシ或ハ一片ノ布ノ兩端ニ數本ノ帶ヲ縫ヒ著ケタルナリ主ニ腹部ニ用キラル左右ノ脚各二本ナルヲ四脚帶ト云フ(第八十六圖)

其三 拘舉帶

拘舉帶ハ鼻、陰莖、睪丸等ヲ支フルニ用キラル其ノ單一ナルモノハ木綿布ニテ形狀大小共ニ其ノ部ニ適スル囊ヲ造リ紐或ハ細キ帶ヲ附ケテ固定ス

第二 各部ノ複帶

其一 頭ノ四脚帶

長サ一メートル幅十五乃至二十センチメートルノ布ノ兩端ヲ裂キ

第七十八圖



患部顛頂ナルトキハ後脚ヲ顛ノ下ニ前脚ヲ後頭ニ遣リテ結フ(第八十八圖)

各二脚トナシ中央十乃至十五センチメートルヲ餘シ置クモノナリ用法ハ例之ハ後頭ニハ帶ノ中央ヲ患部ニ當テ前脚ヲ顛ノ下ニ後脚ヲ前頭ニ遣リテ結フ(第八十七圖)

第八十八圖



其二 下顎及鼻ノ四脚帶

複帶ノ用法

第九十八圖 甲



乙



適當ナル大サノ四脚帶ヲ
造リ圖ノ如ク用ウ (第八
十九圖)

其三 耳及鼻ノ丁字帶

適當ナル大サノ丁字帶

ヲ造リ圖ノ如ク用ウ (第

九十圖及第九十一圖)

第十九圖



第十九圖



其四 假面帶

木綿布或ハ脱脂紋巴ノ一片ヲ取り顔ノ如ク兩眼、鼻、口等ノ部
ニ孔ヲ穿チ四隅ニ細帶ヲ縫ヒ著ケタルモノナリ用法ハ先ツ顔ヲ

被フテ諸孔ヲ各部ニ當テ上帶ハ頭ヲ廻リテ項ニ至リテ喰違ハセ
頤ノ上ニ遣リ下帶モ亦項ニ遣リテ喰違ハセ前額ニテ共ニ假面ノ
上ニ結フ

其五 骨盤ノ雙丁字帶

橫帶長サ二乃至三メートル 幅約八センチメートル 縱帶二本共
ニ幅約三センチメートル 長サ約四十五センチメートル トシ縱
帶ノ間隔ハ約四センチメートル トス用法ハ先ツ橫帶ヲ腰部ニ
當テ縱帶ハ薦骨ノ兩側ニ垂レ橫帶ハ腰ヲ廻ハシテ留メ二本ノ縱
帶ハ股ノ間ニ下リ會陰ニ於テ喰違ヒ前ニ進ミテ耻骨ノ兩側ヲ上
リ橫帶ニ達シテ止ム又幅約五センチメートル 長サ約四十五セ

ンチメートルトルノ一帯ヲ横帯ニ縫ヒ著ケ其ノ下端ヨリ適宜ニ裂
キテ二本ノ縦帯トナスコトアリ

其六 三角巾ノ拘舉帶

大ナル疊三角巾ニテ腹部或ハ臑骨部ニ環行帶ヲナシテ結ヒ別ニ
半巾ヲ取リテ其ノ下縁ヲ陰囊ノ後部ニ當
テ尖頂ヲ環行帶ノ内面ヨリ前ニ出シテ針
ニテ留メ次テ兩端ヲ舉ケ環行帶ノ前上縁
ヲ越エ内面ヲ下リテ兩端ヲ出シ互ニ結フ

圖二十九第



(第九十二圖)

第七章 副木

第一 副木ノ用法

副木ハ骨ノ折レタル處ヲ支ヘテ固定シ或ハ治療ノ爲ニ關節ヲ動
カササラシムルニ用キラル

副木ハ其ノ形狀大小等當ツヘキ部ニ適合スル如ク木、銅、鐵線、
鐵葉、アルミニウム葉、金屬網及厚紙等ニテ造ラル

副木ハ布ニテ包ミ用ウヘシ之ヲ當ツルトキハ皮膚ト副木トノ間
(頸副木ヲ除ク)ニ綿花ヲ挿ミテ下敷トシ其ノ部ヲ過度ニ壓セサ
ル如クスヘシ若綿花ナキトキハ脫脂綿、綿紗其ノ他ノ布ヲ用キ
ルモ可ナリ又已ムヲ得サルトキハ被服、秣、藻等ヲ用キルコト
ヲ得

第一 副木ノ種類

其一 紙副木

厚キ「ボール」紙馬糞紙ヲ其ノ部位大小ニ應シ適宜ニ切りテ用キルモノニシテ小骨折及關節ノ固定ニ用キラル

其二 薄片副木

薄キ木板ヲ其ノ部位大小ニ應シ適宜ニ折リテ用キルモノニシテ紙副木ト同様ニ用キラル

其三 吳氏副木

薄キ木板ニテ造リ表面縦ニ數條ノ裂目アリ裏面ニ布ヲ張ル大小ノ二種アリ主ニ大

圖三十九第



ナラサル骨折或ハ小ナル關節ヲ一時固定スルニ用キラル (第九十三圖)

其四 網狀夾

長方形ノ鐵線棒ニ眞鍮網又ハ鐵網ヲ張ル大中小ノ三種アリテ主ニ上肢ニ用キラル (第九十四圖)

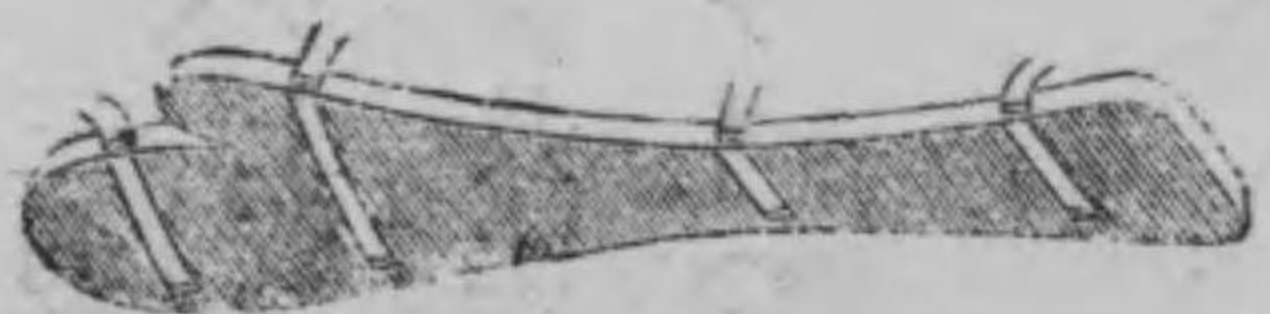
其五 手形副木

木製ニシテ凹板平板各一枚ヨリ成リ前膊及手ヲ容ルルカ如クス凹板ニハ結フニ要スル帶ヲ附ク (第九十五圖)

圖四十九第



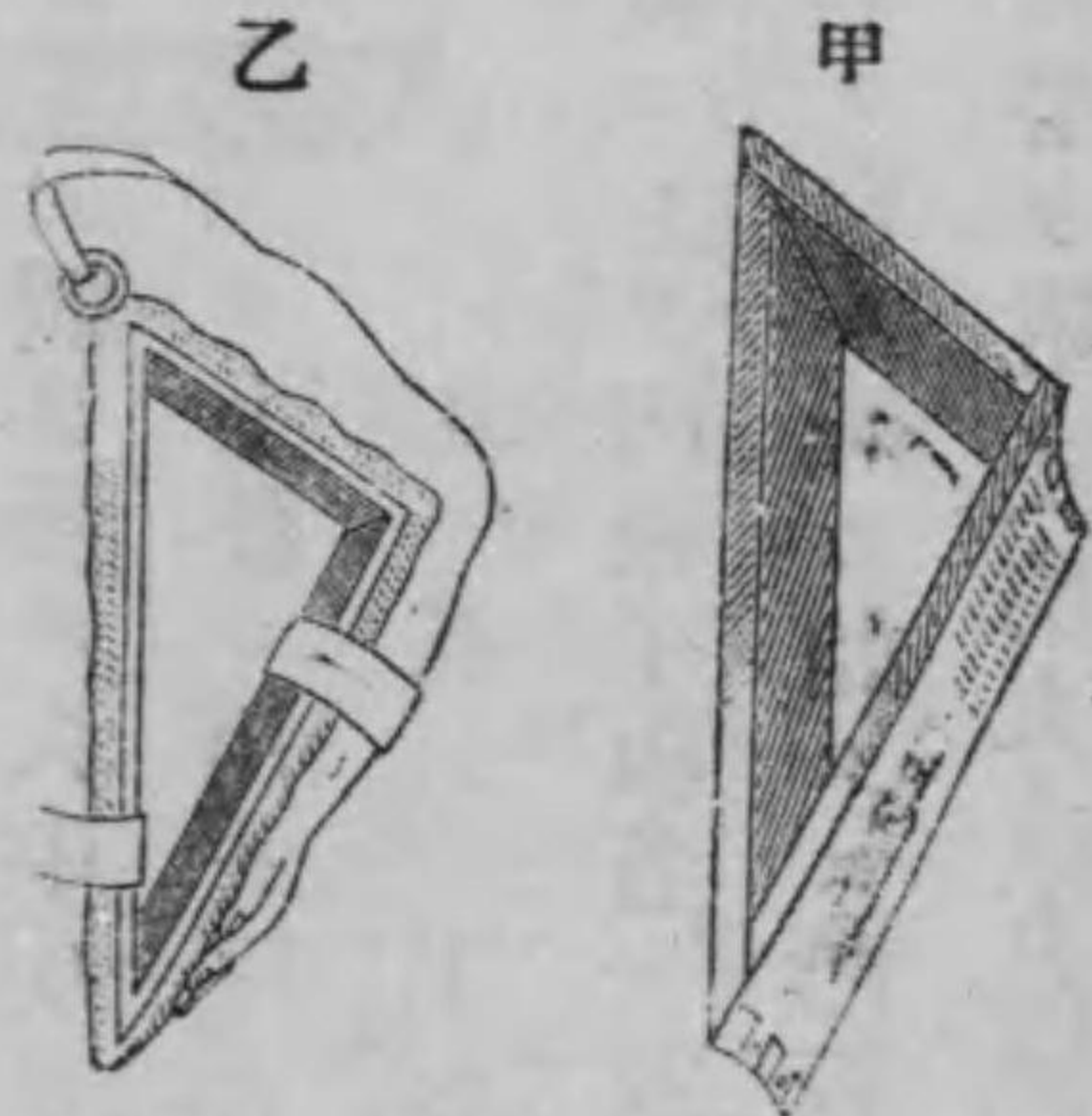
甲 圖五十九第



乙



圖六十九第



其六 三角副木

三角形中空ノ框ニシテ上肢ト胸廓トノ間ニ置キ主ニ肩關節及上膊ノ固定ニ用キラル大小二種アリ(第九十六圖)

圖七十九第



其七 橈骨副木

眞鍮線ノ棒ニ「アルミニウム」鋳ヲ張り匙状ヲナス橈骨ノ骨折ニ用キラル(第九十七圖)

其八 下肢副木

鐵葉製矩形ノ副木ト長方形鐵葉鋏トヨリ成ル一ニ「フォルクマ

ン」副木ト云フ下腿ニハ甲ノミヲ用キ大腿ニハ甲乙ヲ联接シテ用ウ(第九十八圖)

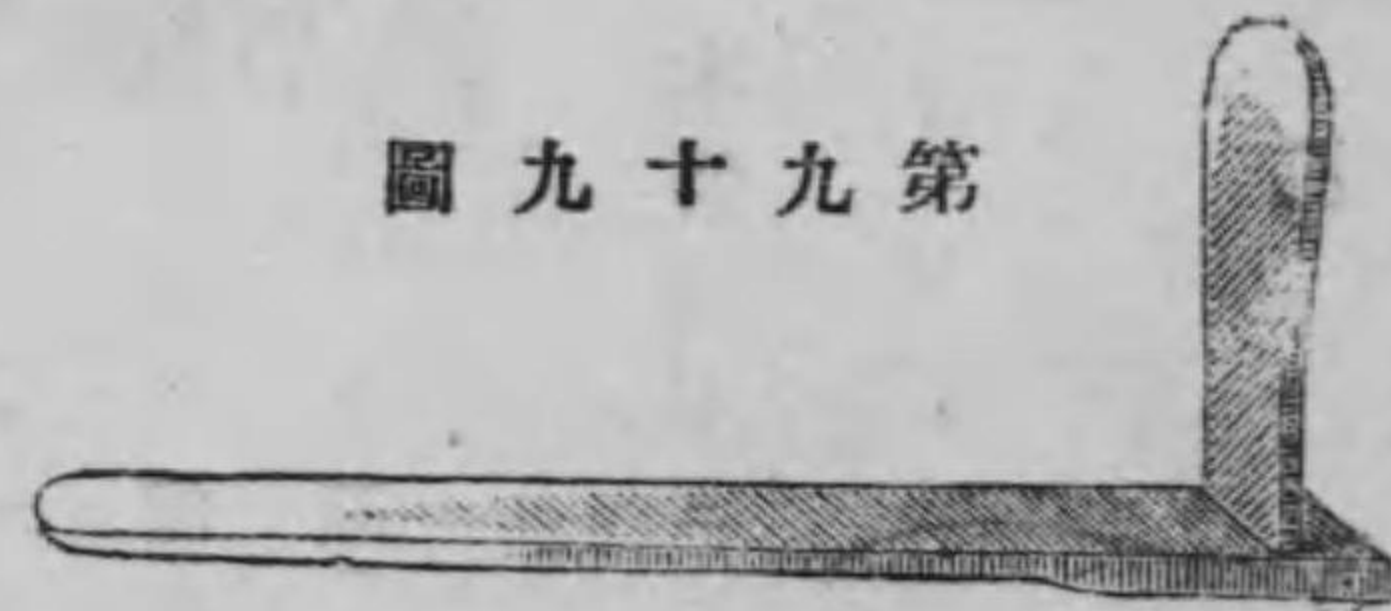
其九 联接副木

二枚ノ長キ木製副木ト目貫トヨリ成ル用キルトキ一枚ノ突起部ヲ他ノ孔ニ嵌メ矩形ニナシ目貫ヲ以テ固定ス

圖八十九第

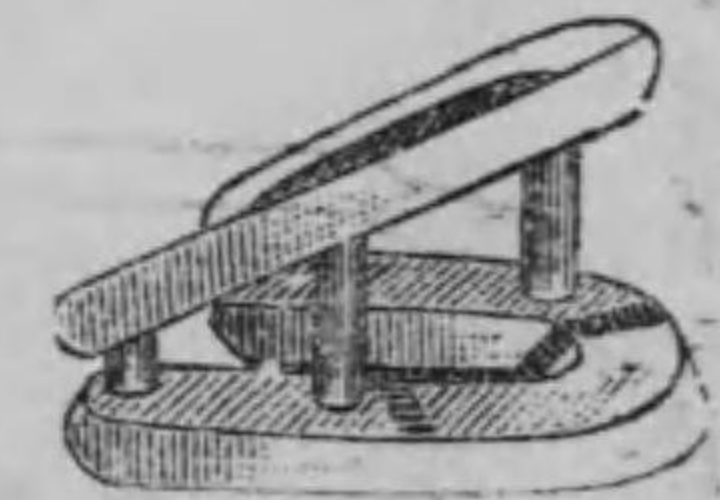


圖九十九第



主ニ肘部ニ用ウ(第九十九圖)

圖百第



其十 顎副木
「アルミニウム」製ニシテ顎ノ骨折ノトキ之ヲ上下ノ齒列間ニ插ミ入レ骨折部ヲ固定スルニ用ウ(第百圖)

其十一 大腿布團附聯接副木

二個ノ長キ木製副木ニシテ用キルトキ聯接シ布團ヲ下敷トシテ下

圖一百第

甲



乙



丙

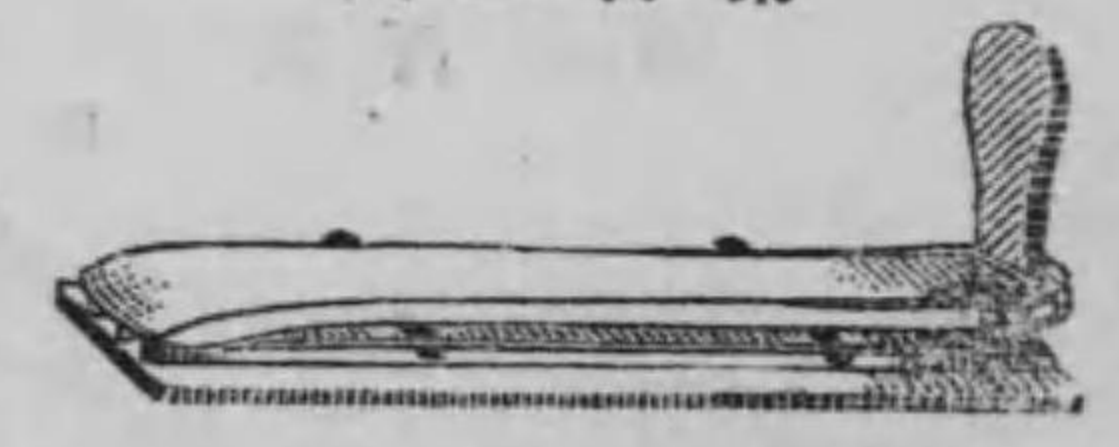


肢ノ外側ニ當ツ大腿骨折ノ一時ノ固定ニ用キラル
其十二 上肢副木
矩形ノ凹板ニシテ屈曲部ノ中央ニ孔ヲ設ケ主ニ上肢骨折ノ牽引、固定ニ用キラル(第百一圖)

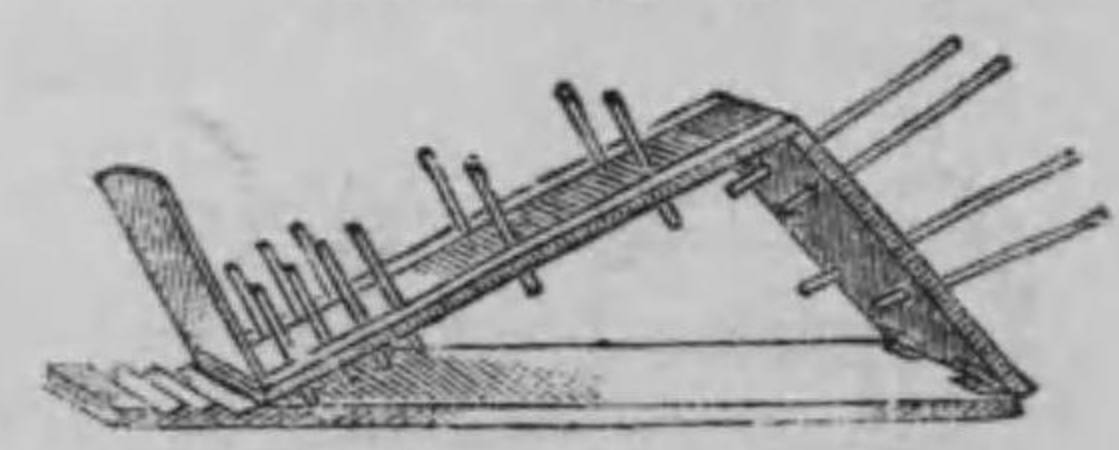
其十三 伸展副木

鐵葉鋏或ハ木製ニシテ足形ノ板ト凹板トヨリ成リ矩形ヲナス主ニ下肢骨折ノ牽引、固定ニ用キラル(第百二圖)

圖二百第



圖三百第



用キラル(第百三圖)

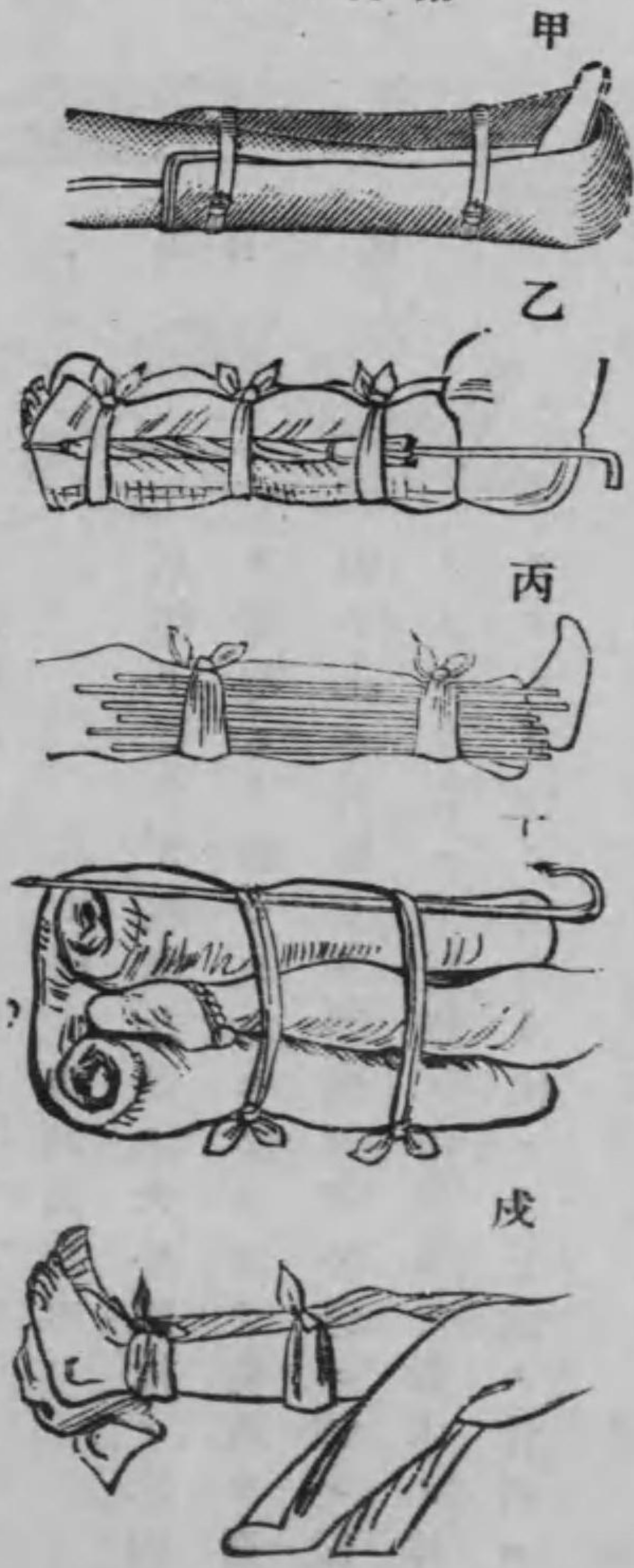
其十四 複斜面副木

足部、下腿部、大腿部及臺ノ大小四枚ノ木板ヲ蝶番ニテ聯テタルモノニシテ腿板ヲ臺板ノ上ニ伸縮シテ斜面ヲ或ハ急ニ或ハ緩ニスルヲ得ヘシ腿板ノ兩側ニハ數本ノ棒アリテ下肢ノ固定ヲ便ニス下腿ノ骨折ニ

其十五 急造副木

急造副木トシテハ棒、杖、傘、狭キ板、ブリキ、藁束、木ノ皮、卷キタル外套、毛布及劔刀等用キラル(第百四圖)

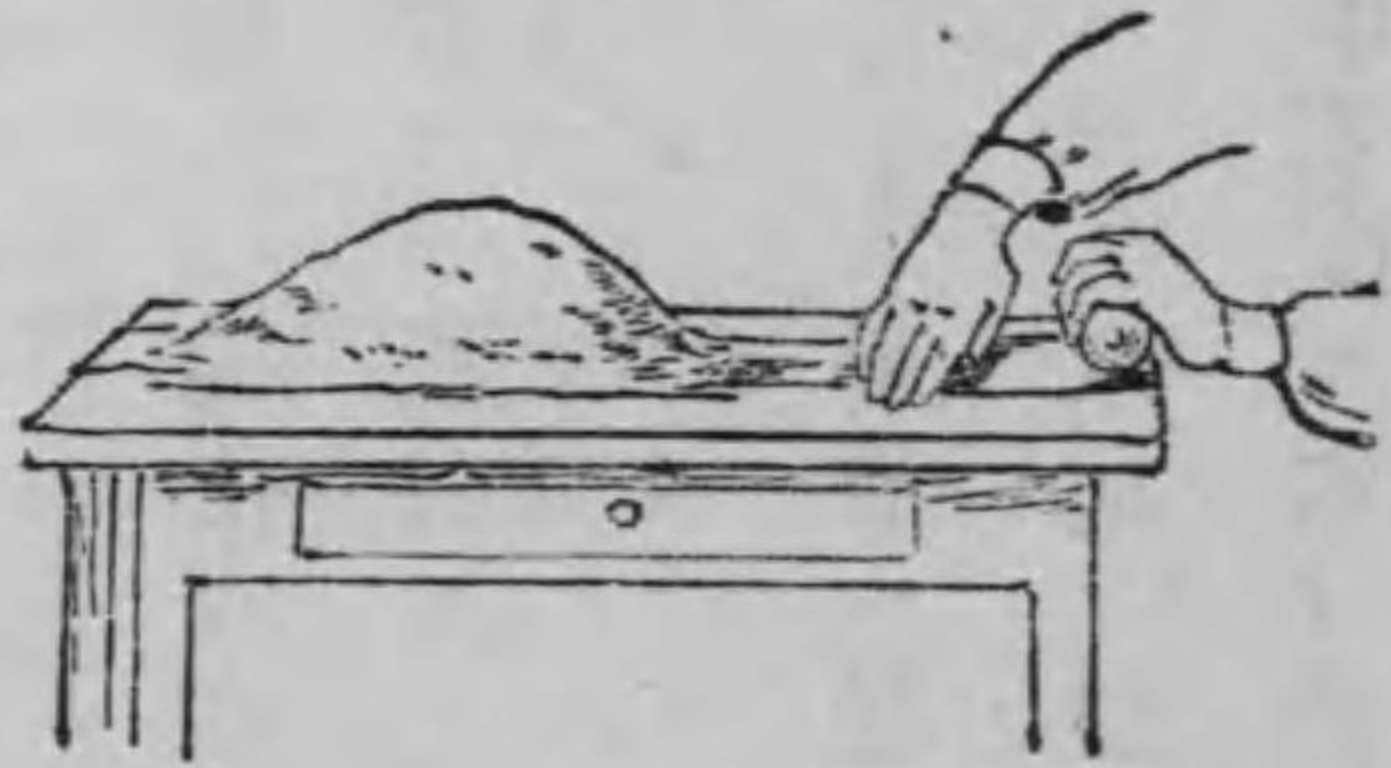
第百四圖



第八章 「ギブス」繃帶

「ギブス」繃帶ノ効用ハ副木ニ似テ一層確實ナリ此ノ繃帶ヲナス

第百五圖



トキハ其ノ下ニ下敷ヲナスヲ要ス
此ノ繃帶ヲ造ルニハ裁チタル布ヲ机ノ上ニ
展ヘ「ギブス」粉ヲ撒布シ摩リテ布ニ滲ミ込
マセ緩ク卷キテ卷軸トナスヘシ(第百五圖)
布ハ長サ約四「メートル」幅六乃至十二「セ
ンチメートル」ノ綿紗ヲ用キルヲ例トスレ
トモ常ノ卷軸帶ニテモ可ナリ

「ギブス」モ「ギブス」繃帶モ濕ヲ防ク爲ニ鐵葉ノ匣ニ貯フヘシ
「ギブス」泥ハ速ニ硬化スル性アルヲ以テ注意シテ造ルヘシ之ヲ
造ルニハ大皿ニ水ヲ盛り之ニ「ギブス」末ヲ段段ニ加ヘ絶エス搔

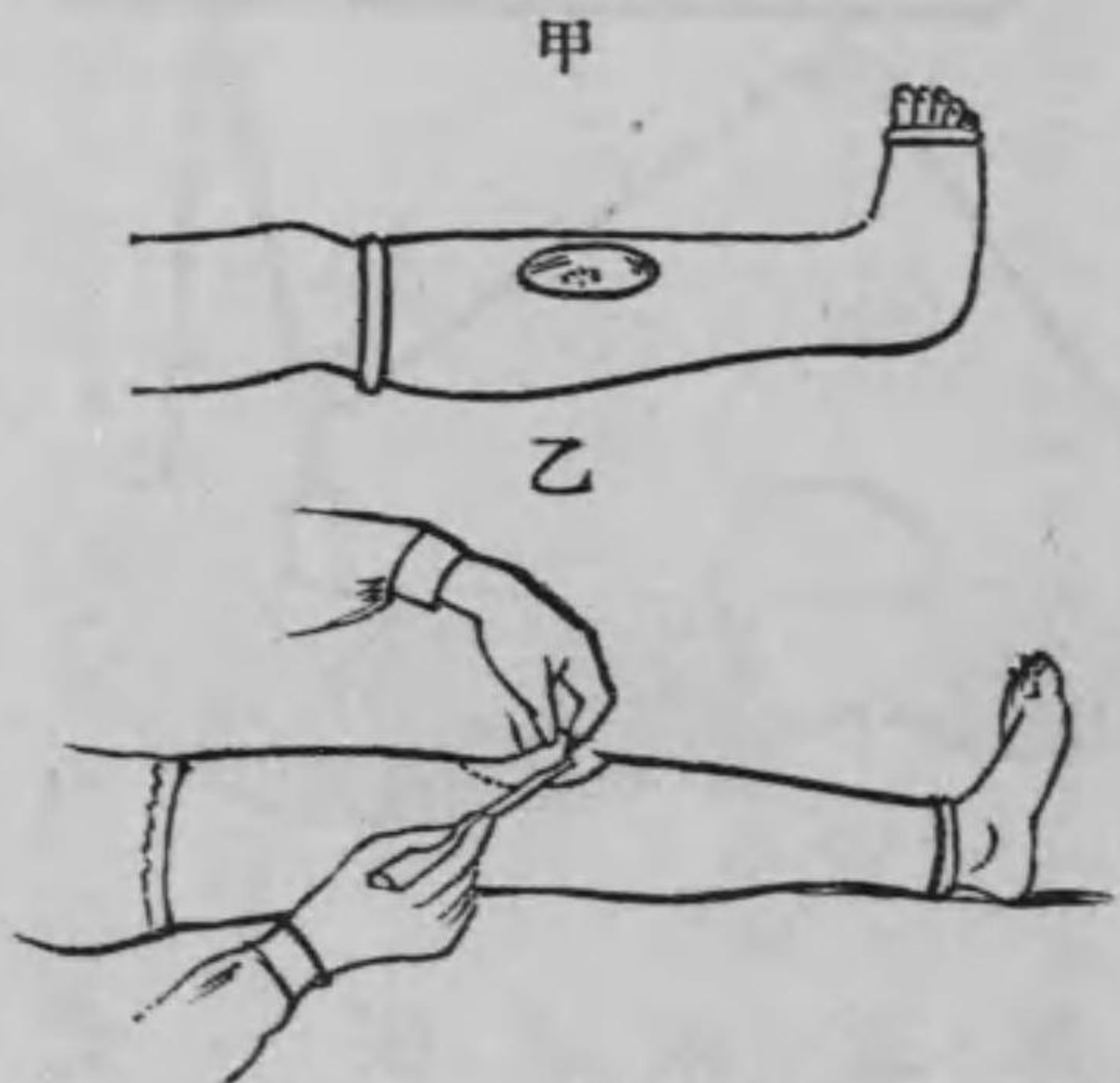
キ廻ハシテ稍濃キ泥トスヘシ但シ堅キニ過クルトキハ水ニテ薄ムルコトヲ得サルモノナレハ捨テテ新ニ造ルヘシ

「ギブス」ヲ早く固マラシムルニハ温湯、熱湯或ハ明礬水ヲ用ウヘシ

下敷ニハ綿花或ハ綿紗卷軸帶等ヲ用ウヘシ皮膚ノ上ニ直ニ卷クヲ要スル場合ニハ皮膚ニ脂ヲ塗リテ毛ノ縋帶ニ附カサル如クニスヘシ

「ギブス」縋帶ハ卷カントスル前ニ約十秒時間微温湯ニ沈メ水ヲ吸ハセテ水泡ノ登ラサルヲ俟チテ取り出シ握飯ヲ結フ如クニ壓シ中等度ニ水分ヲ除キテ用ウヘシ卷キ方ハ螺旋帶ノミニ依ル

第百六圖

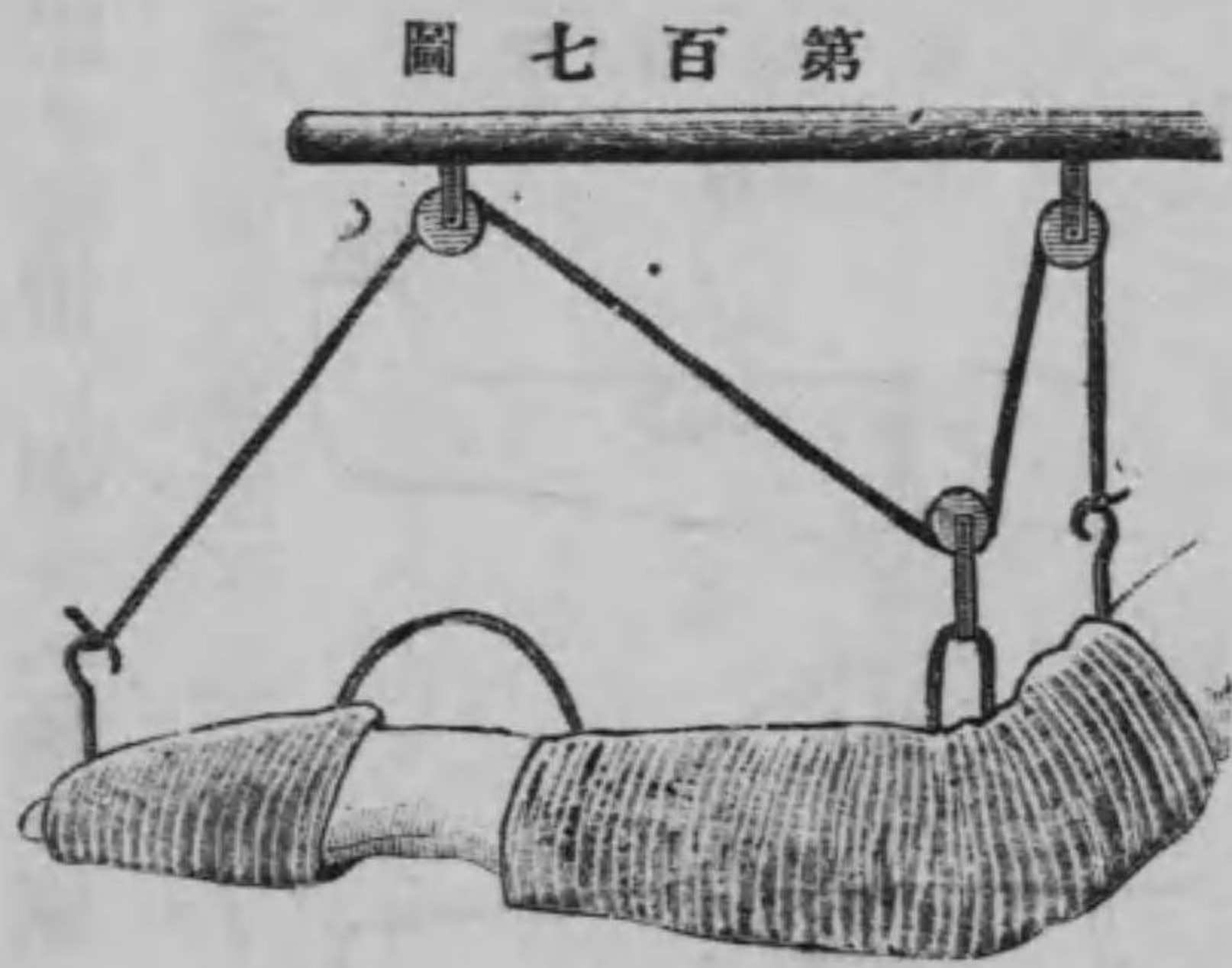


此ノ縋帶ニ副木（薄片副木、紙副木、網狀夾、「アルミニウム」板等）ヲ副ヘテ一層堅固ナラシムルコトヲ得

此ノ縋帶ヲ卷ク間及卷キタル後固クナル迄ノ間（約十五分時間）ハ看護者ハ醫員ノ命ニ從ヒ患部ヲ動かサル如クニ持チ居リ後適當ナル位置ヲ取ラシム

此ノ縋帶ヲ創アル四肢ニ卷クトキハ創ヲ見又要スルトキ創ノ綿紗ヲ換フルコトヲ得ル如ク窓ヲ開キ置クヘシ之ヲ有窓「ギブス」

繃帶ト云フ窓ハ「ギブス」繃帶ヲ卷クトキ或ハ卷キタル後切り開キテ造ルモノトス(第百六圖)



第百七圖

此ノ繃帶ヲナシタル後疼痛アリ或ハ四肢ノ繃帶ヨリ下方(指、趾)腫脹シ皮膚青色又ハ藍色トナリ冷エ或ハ知覺ヲ失フトキハ直ニ醫員ニ報スルヲ要ス

此ノ繃帶ヲ除クニハ切り開クヘキ線ニ沿ヒテ數回食鹽水ニ浸シタル脫脂綿ノ帶ヲ當テ「ギブス」ヲ軟ナ

ラシメ「ギブス」刀或ハ「ギブス」剪ニテ豎ニ切り開クヘシ但シ患部ヲ傷ケ又ハ強ク搖動スヘカラス下敷ハ成ルヘク切ラサル様ニスヘシ

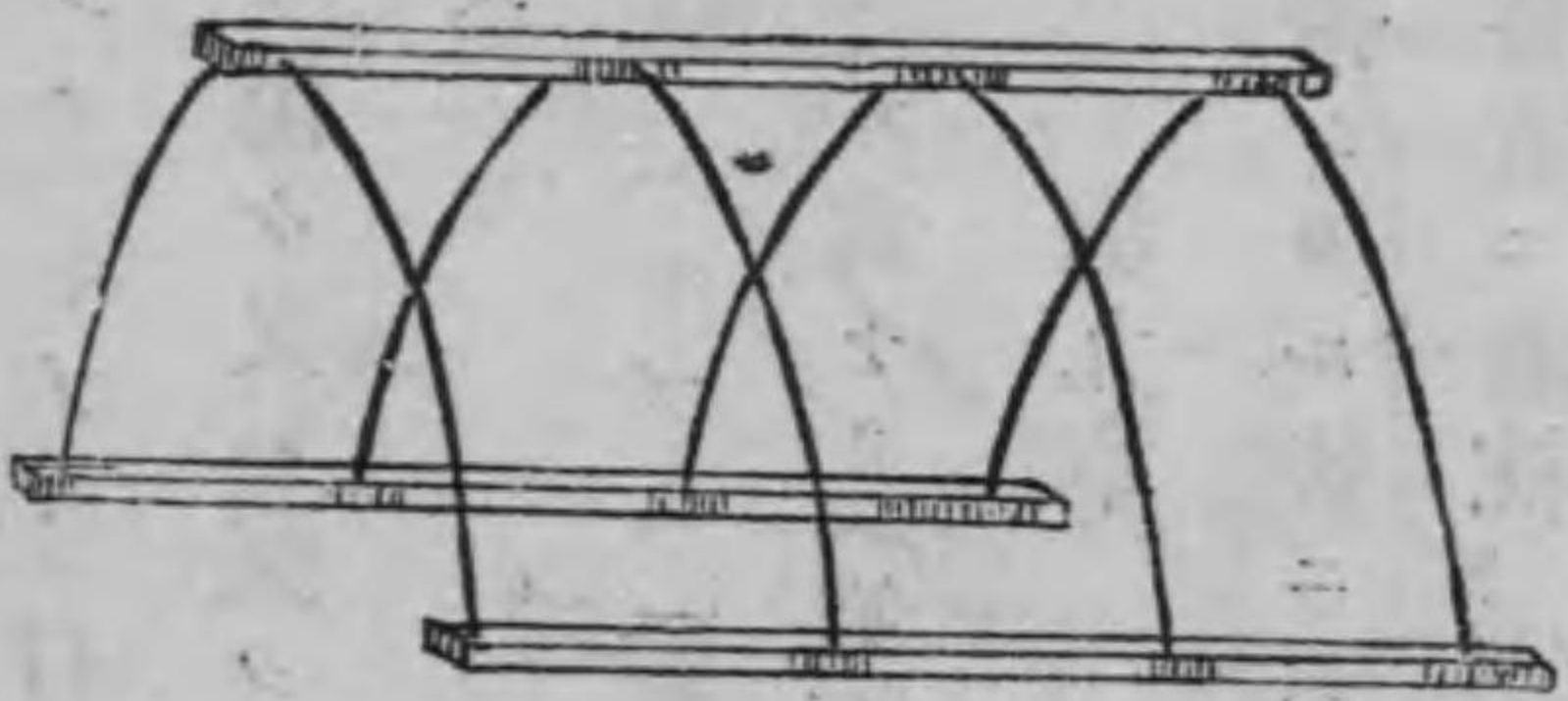
四肢ノ「ギブス」繃帶ヲ高ク支ヘテ吊ルコトアリ患部ノ疼痛ヲ減センカ爲ナリ(第百七圖)

第九章 安置

繃帶シタル後ニハ患部ヲ適當ノ位置ニ安置スルヲ要ス之ニ用キル装置ニ糠枕、砂囊、衾避(離被架)、安置副木、副斜面副木及牽引装置等アリ

一 糠枕 布囊中ニ糠糠ヲ詰メタルモノナリ囊中ノ糠ヲ左右ニ

圖八百第



寄セ一道ノ溝ヲ生セシメ此ノ中ニ患肢ヲ安置ス
二 砂囊 長形ノ布囊ニ乾キタル砂ヲ詰メタルモノナリ患肢ノ

兩側ニ沿ヒテ置キ之ヲ固定安置ス

三 衾避(離被架) 數本ノ半環狀ヲナセル

金屬線或ハ桶箍ヲ取り其ノ兩端及中央ニ

木桿ヲ附シタルモノナリ

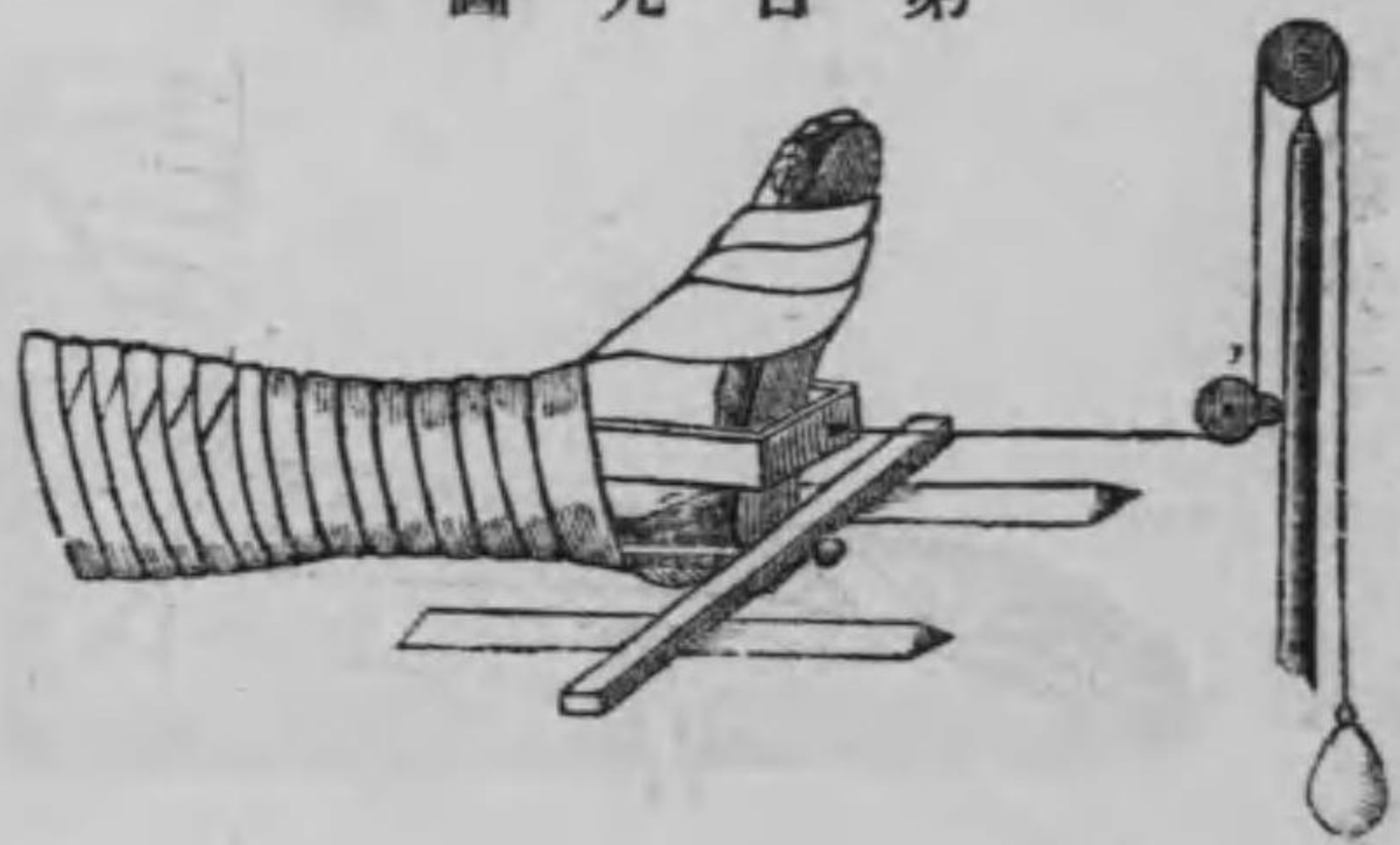
患部ノ上ニ蓋ヒ以テ衾ノ觸レ壓スルコト

ヲ防クニ用ウ或ハ之ニ氷囊ヲ吊ルコトア

リ(第百八圖)

四 安置副木 下腿ニ用キルヲ例トス下肢

圖九百第



副木、複斜面副木等之ニ屬ス前章副木ヲ參照スヘシ

五 牽引裝置(展伸器) 下肢ノ骨折等ニ

用キラル稍廣キ「ゴム」絆創膏ノ帶ノ

兩端ヲ縱ニ患部ノ兩側面ニ貼リ足ニテ

弧形ヲナサシメ卷軸帶ニテ其ノ上ヲ卷

キテ固定シ足ノ下ニ小板ヲ挿ミ入レ之

ニ繩ヲ附ケ寢臺ノ足邊ノ滑車ヲ越エサ

セ錘ヲ懸ケテ牽引スルナリ(第百九圖)

但シ牽引ニ反對シタル方向ニ所謂對引

ヲナスコトアリ若寢臺ノ足邊ヲ著シク高ムルトキハ體量ハ自

然ノ對引ヲナスヘシ又會陰ニ下敷ヲナシ布ヲ通シテ其ノ兩端

ヲ寢臺ノ頭邊ニ結フモ可ナリ

大腿骨折ニテハ牽引ニ代フルニ複斜面

副木ヲ用キルコトアリ此ノ法ハ一方ハ

下腿、他ノ一方ハ身體ノ重サヲ牽引ニ

利用スルモノナリ

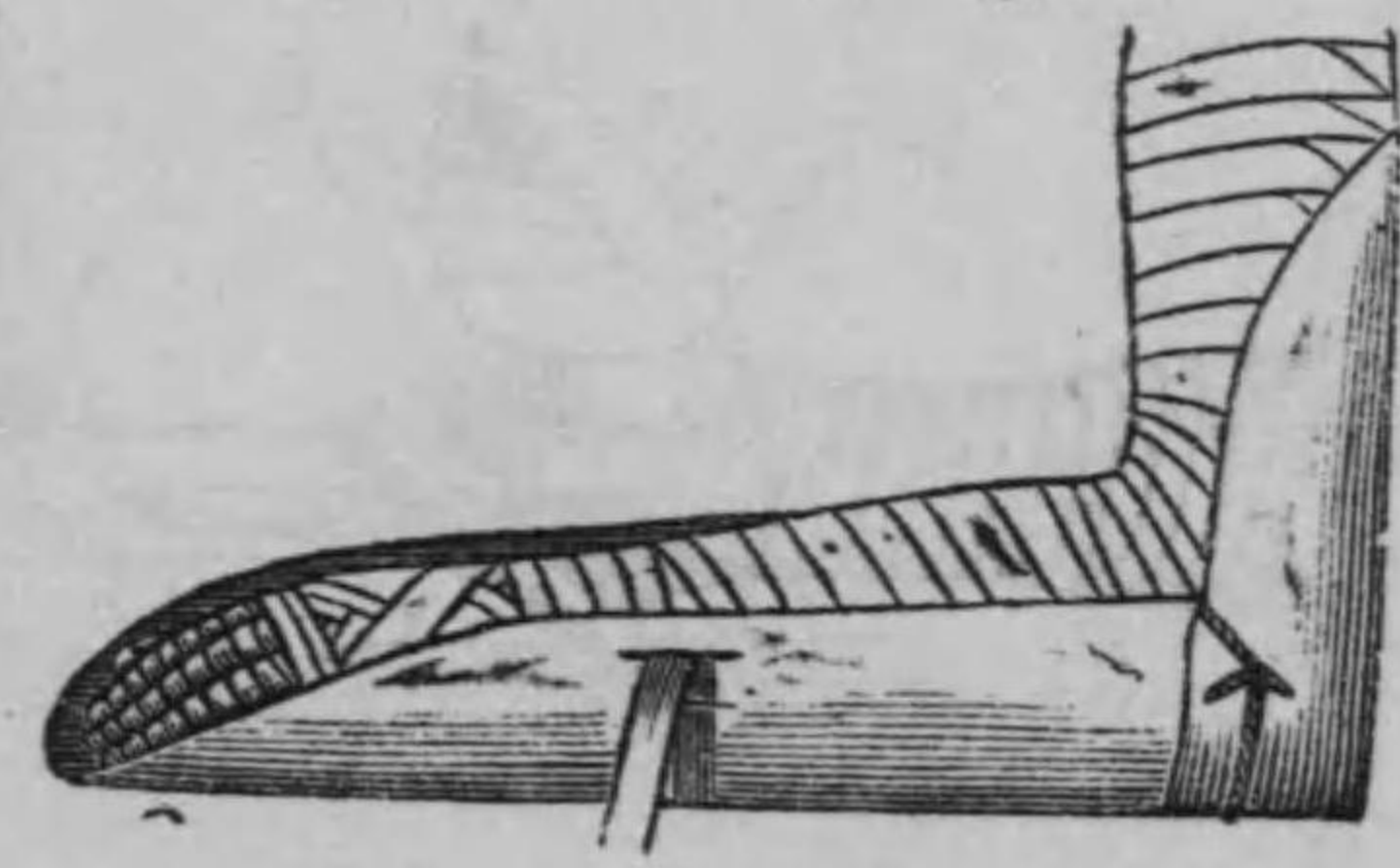
六 籠手 上肢ヲ護リ適宜ノ位置ニ保ツ

モノナリ鐵葉或ハ金屬網ニテ造ル又長

サ約六十「センチメートル」幅二十乃至三十「センチメートル」

ノ厚紙ノ兩側上三分一ト中三分一トノ間ニ約二乃至十「セン

第百十圖



チメートル」ノ切込ヲナシ用キル前ニ湯ニ浸シ柔軟トナルヲ
待チテ患肢ノ繃帶ノ上ニ裝フヘシ(第百十圖)

第六編 看護

第一章 一般ノ看護

第一 患者ノ看侍

患者ノ看侍(番、見張)ハ重要ナル勤務ナリ若之ヲ等閑ニスルトキハ患者ニ大害ヲ來スモノナリ例之ハ大發汗後ニ又ハ夜中ニ感冒セシメ兩便排泄ノ際之カ介輔ヲ怠リ藥劑ノ用法ヲ誤リ熱アル患者及癲狂者ノ舉動、後出血等ヲ空シク看過スルトキハ爲ニ病況ノ變易ヲ致シ甚シキハ患者ヲシテ死ニ陷ラシムルコトアリ患者ノ看侍ハ日中ト夜中トニ分チ夜中ノ看侍ハ就眠時限ニ始マリ翌朝起床時限ニ終ルヲ例トス但シ患者ニ關シテ特別ノ注意ヲ

要スルコトアルトキハ醫員ヨリ特ニ之ヲ命ス又看侍ニ當リタル者ハ其ノ時限内ニハ擔當ノ場所ヲ去ルヘカラス交代スルトキハ看護上須要ナルコトヲ遺漏ナク交代者ニ申繼クハシ日中ノ看侍ニ從事スル者ハ患者ノ床側適宜ノ處ニ居ルヘシ若一人ニテ數患者ヲ看護スルトキハ病狀ノ輕重ヲ考ヘ或ハ甲患者或ハ乙患者ノ側ニ侍シテ臥位ニ注意シ藥劑、飲食物ヲ與ヘ罨法等ヲ施シ兩便、嘔吐、發汗、咳嗽等ヲ介輔シ(第七編治療ノ介輔ヲ參照スヘシ)又繃帶ノ正シキ位置ニ在ル様ニ心掛クヘシ看侍中患者ニ急變アルヲ見ルトキハ醫員ニ報スヘシ但シ之ヲ報スルニハ他ノ看護者若ハ已ムヲ得サレハ他ノ輕症患者ニ依リテ

之ヲ爲サシメ看侍者ハ須臾モ其ノ場所ヲ離ルヘカラス
 夜中ノ看侍ハ第一番及第二番ニ分ツヲ例トス第一番ノ看侍者ハ
 日中ノ看侍者ト交代シ第二番ノ者ハ交代時ニ至ルマテハ適宜ノ
 場所ニ於テ隨意休息スヘシ夜中ノ看侍者ハ日中ノ看侍者ヨリモ
 動作ヲ靜ニシ燈及爐ニ注意シ決シテ眠ルコトナク患者ノ側ニ居
 ルヘシ時時靜ニ室内ヲ歩ムコトヲ得
 數多ノ患者ヲ看護スルトキハ觀察シタルコトヲ一一記憶スルハ
 殆ント能ハサルモノナレハ睡眠、兩便、發汗、惡寒、戰慄、脈搏、呼
 吸、體溫等ノ狀況ヲ看護日誌ニ記シ醫員ノ閱覽ニ供スヘシ

第二 病室ノ位置大小及區別

病室ハ南ニ窓アリテ廣ク明ルク靜カナルヲ可トス病室内ニハ其ノ
 大小ニ應シテ寢臺ヲ配置シ寢臺一個患者一人ニ要スル容積ハ三十
 七立方メートル以上トス
 傳染病室ハ別棟トナシ一般ノ病室モ成ルヘク病類ニ從ヒテ分ツモ
 ノトス

第三 病室ノ清潔

病室ハ極メテ清潔ニスルヲ要ス掃除ニ塵ヲ立ツヘカラス、歩床
 ハ毎日定マリタルトキニ輕ク水ヲ撒キテ拭ヒ或ハ濡雜巾ニテ拭
 フヘシ要スレハ消毒液ヲ撒キ雜巾ニテ拭フヘシ殊ニ机及寢臺ノ
 下、室ノ隅、爐ノ附近ノ如キ汚塵ノ滯積シ易キ處ニ注意スヘシ其
 ノ他寢臺、窓戶、錠及室内ノ諸器具ハ床ヲ拭ヒタル後一一濕布ニ

テ拭フヘシ

痰壺ハ毎日一回汚水ヲ廁ニ棄テテ洗ヒ適度(約四分ノ一)ニ水ヲ入レ置クヘシ、要スレハ消毒液ヲ加フ
患者ノ排泄物ハ病室ニ留ムヘカラス、便器ハ用キタル度毎ニ洗ヒ要スレハ消毒スヘシ、若シ醫員ヨリ排泄物ヲ保存スルコトヲ命セラレタルトキハ、便器ノ蓋ヲ密ニ覆ヒ、患者ノ姓名ト排泄時トヲ記シタル紙片ヲ貼付シ、廁或ハ其ノ廊下ニ置クヘシ、排泄物器外ニ溢レタルトキハ石灰或ハ灰ヲ撒布シ濕布ニテ拭ヒ取り、次ニ強石炭酸水或ハ強「クレゾール」水ニテ消毒スヘシ
汚レタル被服、寢具其ノ他濡レタル拭巾、雜巾等ハ病室ニ留ムヘ

カラス、又病室ニ於テ乾カスヘカラス膿等ニテ汚レタル繃帶類ハ一定ノ器ニ入レ室外ニ遠サクヘシ
花卉盆栽等ヲ病室ニ置クコトヲ許サレタルトキモ夜ハ室外ニ出スヘシ又無用ノ骨董玩具等モ之ヲ病室ニ置クヘカラス
喫煙ハ許サレタル患者ニ限り一定ノ場所ニ於テ爲スコトヲ得看護者ハ勤務中喫煙スヘカラス
病室ノ燈器ヨリ煤煙ヲ發シ又ハ臭氣ヲ放タサル様注意スヘシ

第四 病室ノ換氣

人身ハ健康ト疾病トニ拘ラス常ニ一定量ノ新鮮ナル空氣ヲ呼吸シテ生命ヲ保ツモノナリ蓋室内ノ空氣ハ人ノ居住ニヨリテ呼吸

ニ闕クヘカラサル酸素次第ニ減シ且皮膚及肺臟ヨリ發散スル所ノ炭酸及其ノ他ノ有害瓦斯次第ニ増シ遂ニ滿室ノ空氣變敗スルニ至ル之ヲ敗氣ト云フ殊ニ一室内ニ數多ノ患者ヲ容ルル時ハ更ニ分泌物、排泄物等ノ爲ニ空氣ハ愈々變敗セララルモノナリ室内ノ空氣ヲ汚ス原因ハ種種アリ即チ衆人ノ群居數多ノ火燈及火爐等ニシテ孰レモ空氣中ノ酸素ヲ消耗シ有害ノ瓦斯ヲ發散スルモノナリ其ノ他患者ノ蒸發氣分泌及排泄ノ盛ナルモノ創傷ノ膿潰スルモノ等モ亦空氣ヲ不潔ナラシム宜シク病室内ノ空氣ヲ適當ニ交換セシムヘシ(換氣)但シ感スヘキ氣流(賊風)ヲ生セシムヘカラス

窓ヲ開クハ換氣ノ簡便ナル方法ナリ又特別ノ裝置アリ換氣窓、通氣孔等是レナリ正確ニ取り扱フトキハ適度ノ換氣ヲ營ムコトヲ得、窓ハ成ルヘク上部ヲ開クヘシ患者ニ眞直ニ向ヘル窓ハ開クヘカラス殊ニ發汗スル患者又ハ溫保スヘキ患者アルトキ窓ヲ開クヲ要スレハ患者ニ衾ヲ被ヒ或ハ屏風等ニテ風道ヲ遮リ或ハ患者ヲ風道ノ外ニシ移テ後之ヲ開クヘシ病室ニ入ル空氣ハ清クシテ夏ハ冷ナルヲ要ス窓ヨリ入ル空氣臭キトキ或ハ窓ヨリ夏ノ日光射入スルトキハ窓ヲ開カス寧入口ノ戸ヲ開クヘシ夜、窓ヲ閉チテ朝ニ至ルトキハ病室ノ空氣ハ大ニ汚ルルカ故ニ

朝ハ窓ヲ久シク開キ置クヲ要ス又病室ヲ掃除シ寢臺ヲ整頓シ重症者ノ寢具ヲ交換スルトキ其ノ他食後、兩便排泄後、爐ヨリ煙漏リタルトキ等ニハ特ニ換氣ヲ要ス

第五 病室ノ溫度

病室ノ空氣ハ一定ノ溫度ヲ保チ夏ハ平等ニ涼シク冬ハ平等ニ暖ナルヲ要ス

夏ハ冷ナル外氣ヲ窓ヨリ入ルヘシ時トシテハ盤ニ冷水ヲ盛リテ室内ニ置キ殊ニ重症者ノ寢臺ノ下ニハ冷水或ハ氷ヲ盛リタル盤ヲ置クコトアリ又一日數回冷水ヲ室内ニ撒クコトアリ
病室ノ空氣ヲ溫ムルニハ通例煖爐ヲ以テス其ノ溫度ハ攝氏十七

度乃至二十度ヲ適當トス而シテ數多ノ患者ヲ容レタル病室ハ溫度ノ高キニ過キササルヲ可トス煖爐ノ爲ニ空氣乾キタルトキハ盤ニ水ヲ充テテ爐上ニ載セ蒸汽ヲ發セシムヘシ

病室ノ溫度ヲ測ルニハ寒暖計ヲ用キ爐ノ傍ト日ノ照ル處トヲ避ケ人ノ頭ノ高サニ於テス

寒暖計ニハ攝氏列氏及華氏ノ三種アリ攝氏寒暖計ハ氷點零度ニシテ沸騰點百度ナリ列氏寒暖計ハ氷點零度ニシテ沸騰點八十度ナリ故ニ其ノ度ニ五ヲ乘シ四ニテ除スレハ攝氏ノ度ヲ得ヘシ又華氏寒暖計ハ氷點三十二度ニシテ沸騰點二百十二度ナリ故ニ其ノ度ヨリ三十二ヲ減シ五ヲ乘シ九ニテ除スレハ攝氏ノ度ヲ得ヘシ

第六 病室ノ明暗

光(明)ハ心身ヲ活潑ニスルモノニシテ重症ノ回復期ニアルモノ
 或ハ肺結核患者ハ適宜ニ日光ニ浴シテ効アリ
 窓ヨリ入ル光、強ニ過クルトキハ窓掛(窓日覆)ヲ閉ツヘシ又眼
 病室ハ適宜ニ暗クシテ光ノ刺戟ヲ除クヘシ
 夜ノ燈明ハ起キ居ル患者ノ許サレタル事ヲ爲シ得ルヲ度トシ就
 眠後ハ患者ノ自ラ身ヲ處スルニ足ルヲ度トス

第七 寢臺ノ位置及整頓

患者ノ寢臺ハ成ルヘク壁及他ノ寢臺ヨリ隔タリテ診察及看護ノ
 際四方ヨリ患者ニ近ツキ易カラシムヘシ若室内狭キトキハ寢臺
 ノ頭邊ヲ壁ニ近ツカシムルヲ可トス又爐ニ近ク置クヘカラス但

シ已ムヲ得サレハ其ノ間ニ中隔(屏風)ヲ建ツヘシ其ノ他風ヲ忌
 ムヘキ患者ノ寢臺ハ屏風ヲ繞ラシテ之ヲ遮ルヘシ
 寢具ヲ整頓シテ安ラカニ臥セシムルトキハ患者ヲ慰ムルコト大
 ナリ例之ハ枕ノ位置ヲ少シク變シ或ハ敷布ノ襞ヲ延スカ如キ小
 事モ忽ニスヘカラス看護者ハ患者及其ノ寢臺ニ注意シ若寢具ノ
 滑リ落ち或ハ濕リ或ハ不平凸凹等ノコトアルトキハ速ニ之ヲ整
 頓スヘシ

第八 患者ノ臥位

患者ハ臥褥上ニ頭ヲ適宜ニ高クシ水平ニ臥スモノトス然レトモ
 呼吸困難ナルトキハ上身ノ下ニ枕等ヲ挿ミテ半坐位ヲ取ラシム

ルコトヲ得

衰弱或ハ他ノ理由(例之ハ牽引装置ヲ施シアル等)ニヨリ自ラ起クルコト能ハサル患者ニハ天井ヨリ垂レタル繩或ハ寢臺ノ足端ニ結ヘル繩ニ横木ヲ縛リ之ヲ握リテ體ヲ擡ケ得ル如クスルモ可ナリ

第九 患者ノ清潔

患者ノ身體ヲ清潔ニスルハ治療上重要ノコトナリ身體汚レタルトキハ湯ト石鹼トニテ拭フヘシ

患者中輕症ノ者ニアリテハ毎朝自ラ顔及手ヲ洗ヒ齒ヲ磨キ口ヲ漱カシムヘシ重症者ニアリテハ看護者之ヲ扶ケテ行ハシムヘシ

患者遺尿或ハ遺尿シタルトキハ汚物ヲ拭ヒ去リ次ニ汚レタル處ヲ洗ヒ溫メタル衣服ヲ著セ敷布等ヲ換フヘシ此ノ際褥瘡ノ發シ易キ部位ニ注意スヘシ

入浴セシムルコトヲ得ル患者ハ入浴セシメ又入浴セシムルコトヲ得サル患者ハ暖ニシテ風ナキ時ヲ選ミテ全身ヲ拭フヘシ之ニハ湯ノミヲ用キ或ハ石鹼ト湯トヲ用キ又石鹼水若ハ湯ニ酒精ノ少量ヲ加ヘタルモノヲ用ウ

傳染病者癒エタルトキハ爪ヲ剪リ手ヲ消毒シ溫カキ昇汞水ニテ身體ヲ拭ヒ然ル後石鹼ヲ用キテ全身浴ヲ行ヒ被服ヲ更フヘシ

第十 患者ノ更衣

重症者ノ被服ヲ更フルニハ看護者ノ介輔ヲ要ス四肢ニ傷アル者ニ脱衣セシムルニハ健側ヲ先ニシ著衣セシムルニハ患側ヲ先ニスヘシ

冷エ或ハ濕リタル被服ヲ著セシムヘカラス要スレハ爐、湯婆等ニテ温ムヘシ發汗シタル患者ノ被服ヲ更フルトキハ脱衣スル前ニ衾ノ中ニテ温メタル手巾ヲ以テ患者ノ身體ヲ拭ヒ感冒セシメサルヲ要ス

第十一 患者ノ換褥

先ツ褥ヲ整理シテ平坦トナシ決シテ凹凸不等アルヘカラス敷布モ皺襞ヲ生セサル様注意スルヲ要ス

重症者ノ寢臺ヲ換フルニハ新シキ寢臺ヲ舊キ寢臺ノ足端ニ整頓シ置キ看護者ハ患者ノ右ニ(患部右側ナルトキハ左ニ)立チ衣服ヲ引下ケテ足ヲ包ミ少シク膝ヲ曲ケテ衾ヲ除キ右臂ヲ深ク骨盤ノ下ニ送り左臂ヲ十分ニ肩胛ノ下ニサシ入レ次テ患者ヲシテ自ラ頭ヲ擡ケ兩臂ヲ看護者ノ頸ニ纏ハシメ看護者徐ニ起チテ患者ヲ新シキ寢臺ニ移スヘシ若シ患者臂ヲ看護者ノ頸ニ纏フコト能ハサルトキハ他ノ看護者ヲシテ患者ノ頭ヲ保タシムヘシ負傷者ナルトキハ他ノ看護者ヲシテ傷處ヲ護ラシメテ動搖セサラシムヘシ又二人ニテ換褥ヲ行フトキハ二人皆患者ノ同側ニ立チテ甲ハ臂ヲ肩胛ノ下ニ送り患者ヲシテ兩臂ヲ己レノ頸ニ纏ハシメ乙

ハ臂ヲ骨盤及大腿ノ下ニ送り甲ノ號令ニ從ヒテ一齊ニ擡ケ徐ニ新シキ寢臺ニ移スヘシ他ニ寢臺ノ設ケナキトキハ一時他ノ褥上ニ移シ衾ヲ被ヒ舊キ寢臺ヲ整頓シテ更ニ之ニ移スヘシ重症者ノ敷布ヲ換フルニハ新布ヲ一邊ヨリ卷キテ中央ニ至リ更ニ他邊ヨリ卷キ次テ舊布ヲ一邊ヨリ卷キテ患者ノ身體ニ接スル處ニ至リ豫メ卷キタル新布ニ接シ微ニ患者ノ身體ヲ擡ケテ手早ク舊布ヲ抜キ去リ新布ヲ展ヘテ患者ノ身體ノ下ニ敷クヘシ又褥ヲ換フルニハ新褥ト舊褥トヲ相接セシメ置キ患者ヲ擡ケテ舊褥ヲ一方ニ抽キ去リ他方ヨリ手早く新褥ヲ敷クヘシ

第十二 患者ノ溫保

患者惡寒或ハ寒戰スルトキハ衾ヲ増スヘシ衰弱シテ惡寒アルモノニハ懷爐、湯婆、溫石等ヲ與フヘシ此ノ際湯婆等ハ布ニテ包ミ患者ニ火傷セシメサル様注意スヘシ

第十三 患者ノ飲食

患者ニハ朝食、晝食、夕食ノ外滋養品トシテ牛乳、肉汁、卵等ヲ與フルコトアリ
陸軍ニテハ患者ノ普通食ヲ並食、粥食、粥汁ニ別テ各食ニ全食、七分食、五分食ノ別アリ又副食ハ並菜、軟菜及流動菜ニ別タル
海軍ニテハ患者食ヲ一號食ヨリ四號食ニ別ツ一號食ハ平食ニシテ平食量稍々少ナキモノヲ二號食トシ半流動食ヲ三號食、流動食ヲ四號食トス

患者ノ嗜好品ヲ請求シタルトキハ醫員ニ申出ツヘシ醫員ノ許ササル食物ヲ患者ニ與フヘカラス
重症者ノ飲食スルトキハ看護者之ヲ世話スヘシ起キ上ルコトヲ得ルモノハ坐セシメ枕等ニテ支フヘシ又起キ上ルコトヲ得サルモノハ頭ヲ少シク高クスヘシ、甚シク衰弱シタル者及手指麻痺シ或ハ傷アリテ自ラ飲食スルコト能ハサルモノハ看護者食器ヲ持チテ飲食セシムヘシ此ノ時食物ノ熱キニ過キサル様注意スヘシ且前ニ與ヘシモノヲ未タ嚙下セサルニ後ノモノヲ與フヘカラス又飲料ハ器ノ半以上ニ充タスヘカラス
重症者食事ノ時ニ至ルモ眠リ居ルトキハ呼ビ覺マサスシテ醫員

ノ指示ヲ受ヘシ

重症者殊ニ重キ熱病ニテ唇、舌乾ケルモノハ精神ノ明ナラサルコト多シ之ニ飲料ヲ與フルトキハ左手ヲ項ノ下ニ入レテ靜ニ患者ノ頭ヲ擡ケ飲料ヲ少量宛度度ニ匙或ハ藥吸吞ニテ與フヘシ然ラサレハ飲料氣道ニ入ル虞アリ

第二章 各病症ニ應スル看護

第一 褥瘡

重症者久シク臥シ居リテ衰弱甚シク動作自由ナラサルトキハ身體ノ一部(薦骨部、尾骶骨部、踵、肩胛、跨部)ニ壓ヲ受ケ褥瘡ヲ發スルコトアリ熱病及神經系病ノ患者ニ於テ殊ニ然リ

褥瘡ハ始メ皮膚赤色トナリ疼痛アリ此ノ時速ニ處置セサレハ皮膚爛レ漸ク皮下ノ軟組織壞レテ骨ニ達シ遂ニ創傷傳染病ヲ繼發シテ生命ニ危険ヲ及ホスモノナリ

褥瘡ヲ防カンニハ臥位ヲ數變換シ度敷布等ヲ整頓シ衣服ノ襞ヲ延ヘ稍大ナル異物、敷布ノ縫目等皮膚ヲ壓スルモノヲ除キ去リ身體ヲ清潔ニ保ツヘシ褥瘡ヲ發シ易キ處ハ初メヨリ特ニ數拭フヲ要ス兩便失禁スルトキハ殊ニ然リ

褥瘡ノ兆アラハ水或ハ水ニ少量ノ醋、酒精若ハ果物ノ汁ヲ和シタルモノニテ洗ヒ醫員ニ報スヘシ、臥位ハ一層數變換シ其ノ處ニ環狀褥或ハ氷枕ヲ當ツヘシ、環狀褥ハ氣密ニ製シタル環形ノ

空囊ナリ中ニ空氣ヲ吹キ入レ患部ヲ其ノ孔ニ當テテ布クヘシ空氣ハ餘リ多ク吹キ入ルヘカラス身體搖キテ安カラサレハナリ又直ニ身體ニ觸レシムヘカラス布片ニテ包ムヘシ氷枕ハ「ゴム」製ノ空囊ナリ之ニ攝氏約四十度ノ水ヲ入レ布ニテ包ミ患部ノ下ニ置クヘシ是等ハ使用後要スレハ消毒スヘシ

第二 睡眠

睡眠ハ心身ノ疲勞ヲ回復セシメ精神ノ發揚シテ過敏トナレルヲ鎮靜シ體力ヲ補フモノナリ
健ナル眠ハ安ラカニシテ或ハ仰臥シ或ハ横臥シ眼ヲ閉チ多クハ口モ閉チ顔貌柔和ニシテ鼻ニテ呼吸シ鼻翼動カス刺戟ニヨリテ

多クハ容易ニ覺メ直ニ正氣ニ復ス

患者ノ眠ニ就カントスルヤ頻ニ寢返(輾轉反側)シ驚キテ覺ムルコトアリ疼痛アルモノハ睡眠間大息スルコト多シ顔モ常ナラズ色澤悪シ熱アレハ赤ク血液循環ニ障礙アレハ青赤シ眼及唇屢動キテ全ク合ハサルコトアリ寢言齒軋(嚙語切齒)シ呼吸ハ困難ニシテ急シク(促迫)胸ノ病アルモノニアリテハ同時ニ咳嗽ス睡眠ヲ促ス處置ハ左ノ如シ

- 一 睡眠ニ適當ノ位置ヲ取ラシメ室内ヲ稍暗クスヘシ
- 二 近傍ニテ音響ヲ發スヘカラス私語スヘカラス
- 三 靜ニ話シ或ハ物ヲ讀聞カセテ慰ムヘシ

- 四 四肢ヲ輕ク靜ニ摩ルヘシ
- 五 夏ハ室内ヲ涼シクシ又熱症患者ニハ清涼飲料ヲ與フヘシ
- 六 發汗シタルトキハ襯衣或ハ上衣ヲ更フヘシ又濕リタル敷布等ヲ換フヘシ

睡眠ヲ防ク處置左ノ如シ

- 一 室内ノ空氣ヲ爽ニシ晝ハ窓掛ヲ排キ夜ハ燈ヲ明クスヘシ
- 二 上身ヲ高クシ坐位ニ近カラシムヘシ
- 三 睡眠セントスルトキハ問答或ハ談話シテ覺メシムヘシ
- 四 時時清涼飲料ヲ與フヘシ
- 五 嗅藥(礪砂精)ヲ用キルコトヲ得

第三 皮膚及發汗

患者ノ皮膚ノ觀察モ亦看護上須要ナリ其色蒼白ナリヤ紅ナリヤ青赤ナリヤ黄ナリヤ色澤平等ナリヤ斑點アリヤ斑點アラハ其大小形狀及隆マレルヤ否ヤ等ニ注意スルヲ要ス衰弱シタル患者ノ皮膚ハ蒼ク弛ミテ皺アリ、又病ニヨリテハ皮膚光リテ張りタルアリ此ノ場合ニハ指ニテ壓シ其痕ノ消ユルヤ否ヤニ注意スヘシ患者發汗ノ有無多少ヲ檢シ且全身ニ發汗スルヤ一局部ナルヤ其ノ汗ハ異臭ヲ帶フルヤ粘レリヤ、色ツキタリヤ冷ナリヤ或ハ溫ナリヤ又發汗ノ續クコト長キカ短キカ等ヲ觀察スルヲ要ス發汗スル者ニハ衾ヲ被ヒ風ニ當ラサラシムヘシ冷シテ發汗ヲ止

ムヘカラス、發汗終ルトキハ溫メタル手巾ヲ取り衾中ニ於テ身體ヲ拭ヒ乾キテ溫ナル襯衣或ハ上衣ヲ著セシムヘシ、發汗ト同時ニ大小便ヲ催シ發汗ノ止ムヲ待ツコト能ハサルトキハ溺器或ハ便器ヲ溫メテ衾中ニ入レ排泄セシムヘシ

第四 呼吸

患者ノ呼吸ハ靜ナリヤ速ナリヤ深長ナリヤ淺小ナリヤ整ナリヤ不整ナリヤ容易ナリヤ困難ナリヤ鼻ヨリスルヤ口ヨリスルヤ等ヲ觀察スヘシ

健康ナル大人ノ呼吸ハ一分間十五乃至十八回トス呼吸數ヲ測ルニハ口、鼻ノ前ニ手ヲ出シ又ハ胸若ハ上腹ニ輕ク手ヲ觸レ成ル